



Cisco Unity Connection
再設定およびアップグレード ガイド
Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection

リリース 8.x
改訂 : 2010 年 12 月 20 日

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップ
デートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合があ
りますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サ
イトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊
社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco Logo are trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and other countries. A listing of Cisco's trademarks can be found at www.cisco.com/go/trademarks. Third party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1005R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unity Connection 再設定およびアップグレードガイド リリース 8.x
© 2010 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2010–2011, シスコシステムズ合同会社.
All rights reserved.



CONTENTS

はじめに ix

対象読者と用途 ix

表記法 ix

Cisco Unity Connection のマニュアル x

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート x

シスコ製品のセキュリティ xi

CHAPTER 1

Cisco Unity Connection 7.x または 8.x から出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード 1-1

Connection 8.x へのアップグレード プロセスについて 1-1

Connection 8.5 にアップグレードする際に再設定が必要な機能 1-2

Connection クラスタでない Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするためのタスク リスト 1-2

Connection クラスタで Connection 7.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするためのタスク リスト 1-7

Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換（特定のサーバのみ） 1-12

ローカル DVD による Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード 1-15

ネットワーク ロケーションによる Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード 1-17

アップグレードしたバージョンの Connection 8.x ソフトウェアへの切り替え 1-19

CHAPTER 2

Cisco Unity Connection 2.x から出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード 2-1

Connection 8.x へのアップグレード プロセスについて 2-1

Connection 8.5 にアップグレードする際に再設定が必要な機能 2-2

Connection 2.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするためのタスク リスト 2-2

Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換（特定のサーバのみ） 2-6

ローカル DVD による Connection 2.x ソフトウェアから 8.x へのアップグレード 2-9

ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバからの、Connection 2.x ソフトウェアから 8.x へのアップグレード 2-10

- アップグレードしたバージョンの Connection 8.x ソフトウェアへの切り替え 2-12
- Exchange 情報へのアクセス権を持つ Connection 8.0 ユーザの外部サービス アカウントにおける電子メール アドレスの調整 2-13

CHAPTER 3

Cisco Unity Connection 8.x サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す 3-1

- Connection 8.x から非アクティブなパーティションのバージョンへの復帰について 3-1
- Connection 8.x サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す 3-3
- Connection 8.x クラスタ内のサーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す 3-4
- Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x メンバー サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す 3-5
- Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x サイト ゲートウェイ サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す 3-6

CHAPTER 4

Cisco Unity Connection 1.x からバージョン 8.x への移行 4-1

- Connection 1.x からバージョン 8.x に移行するためのタスク リスト 4-1
- Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換（特定のサーバのみ） 4-3
- 複数の Connection 8.x テンプレートを使用したユーザ アカウントの作成の準備 4-6

CHAPTER 5

フラッシュ カットオーバーを使用した Cisco Unity 4.0(5) 以降から Cisco Unity Connection 8.x への移行 5-1

- Cisco Unity から Connection 8.x へのフラッシュ カットオーバーの概要 5-1
 - フラッシュ カットオーバーを使用して Cisco Unity 4.0(5) 以降から Connection 8.x に移行するために使用するツールについて 5-2
 - 移行されたメッセージによる Connection 8.x サーバ上の使用可能ディスク領域の超過 5-2
 - メッセージを移行する場合のメールボックスの同期の動作（Connection 8.5 以降のみ） 5-3
 - Active Directory からの Cisco Unity データの削除 5-3
- フラッシュ カットオーバーを使用して Cisco Unity 4.0(5) 以降から Connection 8.x に移行するためのタスク リスト 5-4
- Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換（特定のサーバのみ） 5-7
- 複数の Connection 8.x テンプレートを使用したユーザ アカウントの作成の準備 5-10
- COBRAS を使用した、ユーザ データとメッセージの Connection 8.x へのインポート 5-11

Cisco Unity to Connection Migration Export ツールを使用した、ユーザ データとメッセージの Connection 8.x へのインポート 5-11

CHAPTER 6
段階的なデータの移動による Cisco Unity から Cisco Unity Connection 8.x への移行 6-1

Cisco Unity から Cisco Unity Connection 8.x への段階的な移行の概要 6-1

段階的な移行とフラッシュ カットオーバーによる移行 6-2

移行されたメッセージによる Connection 8.x サーバ上の使用可能ディスク領域の超過 6-2

メッセージを移行する場合のメールボックスの同期の動作（Connection 8.5 以降のみ） 6-2

移行による Cisco Unity ユーザへの影響 6-3

Connection への Cisco Unity パブリック同報リストのコピー 6-4

Active Directory からの Cisco Unity データの削除 6-4

段階的なデータの移動により Cisco Unity から Connection 8.x に移行するためのタスク リスト 6-4

CHAPTER 7
Cisco Unity Connection 物理サーバから Connection 8.x 仮想マシンへの移行 7-1

Connection 物理サーバから Connection 8.x 仮想マシンに移行するためのタスク リスト 7-1

Connection 8.x 仮想マシンの起動順序の変更 7-3

CHAPTER 8
Cisco Unity Connection 8.x の言語の追加または削除 8-1

Connection 8.x サーバに言語を追加するためのタスク リスト（非 Connection クラスタ） 8-1

Connection 8.x クラスタに言語を追加するためのタスク リスト 8-2

Connection 8.x の言語ファイルのダウンロード 8-3

Connection 8.x の言語ファイルのインストール 8-4

ディスクからの Connection 8.x の言語ファイルのインストール 8-4

ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバからの Connection 8.x の言語ファイルのインストール 8-5

Connection 8.x の言語設定の変更 8-7

Connection 8.x の言語ファイルの削除 8-7

CHAPTER 9
Cisco Unity Connection 8.x サーバまたはハードディスクの交換 9-1

Connection クラスタでない単一の Connection 8.x サーバまたは単一のサーバ内のハードディスクの交換 9-1

Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバまたはパブリッシャ サーバのハードディスクの交換 9-2

Connection 8.x クラスタ内のサブスライバ サーバまたはサブスライバ サーバのハードディスクの交換 9-6

Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバおよびサブスライバ サーバ、または両方のサーバのハードディスクの交換 9-9

交換前の両方の Connection 8.x サーバが使用可能であり、正常に機能している場合 9-9

交換前の Connection 8.x サーバがどちらも機能していない場合 9-15

Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x サイト ゲートウェイの置き換え 9-18

Connection 8.x サーバへの交換用ハードディスクの取り付け 9-18

CHAPTER 10

Cisco Unity Connection 8.x クラスタの作成または変更 10-1

8.x サーバの追加による Connection クラスタの作成 10-1

Connection クラスタでない単一のサーバへの 8.x パブリッシャ サーバの変換 10-3

CHAPTER 11

Cisco Unity Connection 8.x サーバの IP アドレスの変更 11-1

Connection 8.x サーバがホスト名または IP アドレスのどちらで定義されているかの判別 11-1

Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント 11-2

ホスト名で定義された単一の 8.x サーバの IP アドレスの変更（非 Connection クラスタ） 11-3

IP アドレスで定義された単一の 8.x サーバの IP アドレスの変更（非 Connection クラスタ） 11-5

ホスト名で定義された Connection 8.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更 11-8

IP アドレスで定義された Connection 8.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更 11-11

ホスト名で定義された Connection 8.x サブスライバ サーバの IP アドレスの変更 11-14

IP アドレスで定義された Connection 8.x サブスライバ サーバの IP アドレスの変更 11-17

Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x サイト ゲートウェイの IP アドレスの変更 11-19

CHAPTER 12

Cisco Unity Connection 8.5 以降のサーバにおける IPv6 アドレスの追加または変更 12-1

Connection 8.5 以降における IPv6 の有効化と IPv6 アドレスの追加 12-1

IPv6 アドレスの変更（Cisco Unity Connection 8.5 以降） 12-4

CHAPTER 13**Cisco Unity Connection 8.x サーバの名前の変更 13-1**

Connection クラスタでない単一の 8.x サーバの名前を変更するためのタスク リスト 13-1

Connection クラスタでない単一の 8.x サーバのホスト名の変更 13-3

Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバの名前を変更するためのタスク リスト 13-4

Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバのホスト名の変更 13-6

Connection 8.x クラスタ内のサブスクライバサーバの名前を変更するためのタスク リスト 13-8

Connection 8.x クラスタ内のサブスクライバサーバのホスト名の変更 13-9

Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x サイト ゲートウェイの名前の変更 13-10

CHAPTER 14**Cisco Unity Connection 8.x サーバの DNS 設定またはドメイン名の変更 14-1**

Cisco Unity Connection 8.x DNS 設定の変更に使用する CLI コマンド 14-1

Cisco Unity Connection 8.x サーバのドメイン名の変更 14-2

INDEX



はじめに

ここでの構成は、次のとおりです。

- 「対象読者と用途」 (P.ix)
- 「表記法」 (P.ix)
- 「Cisco Unity Connection のマニュアル」 (P.x)
- 「マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート」 (P.x)
- 「シスコ製品のセキュリティ」 (P.xi)

対象読者と用途

『Cisco Unity Connection 再設定およびアップグレードガイド』は、Cisco Unity Connection システムの構成のアップグレードと変更を担当するシステム管理者と技術者を対象としています。

『Cisco Unity Connection 再設定およびアップグレードガイド』では、現在のシステム構成 (Cisco Unity Connection とその動作を定義するハードウェアとソフトウェアの構成) の変更に必要な情報と手順および Connection ソフトウェアを新しいバージョンにアップグレードするのに必要な情報と手順について取り上げます。このマニュアルには、Cisco Unity Connection データ (ユーザ テンプレートやコール ハンドラなど) の変更に関する情報は含まれていません。

表記法

表 1 『Cisco Unity Connection 再設定およびアップグレードガイド』の表記法

表記法	説明
太字	次の場合は太字を使用します。 <ul style="list-style-type: none">• キーおよびボタン名 (例: [OK] を選択します)• ユーザが入力する情報 (例: [ユーザ名 (User Name)] ボックスに Administrator と入力します)
<> (山カッコ)	ユーザが入力するパラメータを囲むために使用します (コマンドプロンプト ウィンドウで ping <IP address> を入力します)。

表 1 『Cisco Unity Connection 再設定およびアップグレードガイド』の表記法 (続き)

表記法	説明
- (ハイフン)	同時に押す必要があるキーを表します (例: Ctrl+Alt+Delete を押します)。
> (右向きの山カッコ)	メニューで選択する順序を表します (例: Windows の [スタート (Start)] メニューで [設定 (Settings)] > [コントロールパネル (Control Panel)] > [電話とモデムのオプション (Phone and Modem Options)] を選択します)。

『Cisco Unity Connection 再設定およびアップグレードガイド』では、次の表記法も使用します。

**(注)**

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

**注意**

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

**警告**

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。

(安全上の警告の翻訳については、『Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html) を参照してください)

Cisco Unity Connection のマニュアル

Cisco.com 上の Cisco Unity Connection に関するマニュアルの説明と URL については、『Documentation Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x』を参照してください。このマニュアルは Cisco Unity Connection に同梱されていますが、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/roadmap/8xcucdg.html から入手することもできます。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『What's New in Cisco Product Documentation』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『What's New in Cisco Product Documentation』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

シスコ製品のセキュリティ

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国の法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国の法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、次の URL で参照できます。

http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear_data.html



CHAPTER 1

Cisco Unity Connection 7.x または 8.x から出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード

この章は、次の項で構成されています。

- 「[Connection 8.x へのアップグレードプロセスについて](#)」 (P.1-1)
- 「[Connection 8.5 にアップグレードする際に再設定が必要な機能](#)」 (P.1-2)
- 「[Connection クラスタでない Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするためのタスク リスト](#)」 (P.1-2)
- 「[Connection クラスタで Connection 7.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするためのタスク リスト](#)」 (P.1-7)
- 「[Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換（特定のサーバのみ）](#)」 (P.1-12)
- 「[ローカル DVD による Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード](#)」 (P.1-15)
- 「[ネットワーク ロケーションによる Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード](#)」 (P.1-17)
- 「[アップグレードしたバージョンの Connection 8.x ソフトウェアへの切り替え](#)」 (P.1-19)

Connection 8.x へのアップグレード プロセスについて

Cisco Unity Connection のアップグレードプロセスに関する考慮事項は次のとおりです。

- サーバをアップグレードするときは、既存のバージョンの Connection を実行したままで、新しいバージョンを別のパーティションにインストールします。
 - Connection サーバを初めてアップグレードする場合は、アップグレード時に新しいバージョンが空のパーティションにコピーされます。
 - 以前に Connection サーバをアップグレードしたことがある場合、アップグレード時に新しいバージョンが、アクティブでないパーティションにコピーされます。通常、このパーティションには、アクティブパーティションで実行されているバージョンより古いバージョンの Connection が存在しています（以前に新しいバージョンにアップグレードした後、旧バージョンに戻している場合は、アクティブでないパーティションには現在実行されているバージョンより新しいバージョンの Connection が含まれています）。アップグレード開始前にアクティブでないパーティションにあったソフトウェアは上書きされます。

- 現在のバージョンによっては、希望のバージョンまでに 2 回アップグレードする必要があります。その場合、アップグレードが完了すると現在のバージョンは使用できなくなります。これは、現在のバージョンを含むパーティションが 2 回めのアップグレードで上書きされるためです。
- アップグレード開始時に、アクティブでないパーティションを再起動するかどうか選択します。再起動することを選択した場合は、アップグレードが完了した時点で、サーバは自動的に再起動し、アップグレード後のバージョンの Connection を実行します。再起動しない場合は、アップグレード完了後に、手動でアップグレード後のバージョンに切り替える必要があります。
- ソフトウェア アップグレードのインストールには、サーバ 1 台当たり約 2 時間かかります。Connection クラスタをアップグレードするには、約 4 時間かかります。
- アップグレードしたソフトウェアへの切り替えには数分かかります。

Connection 8.5 にアップグレードする際に再設定が必要な機能

Connection 8.5 には、現在 Connection ユニファイド メッセージングに搭載されている次の機能の拡張機能が搭載されています。

- Text To Speech を使用した Exchange の電子メールへのアクセス。
- 電話による Exchange のカレンダーへのアクセスにより、今後の会議のリストを聞いたり、会議の開催者にメッセージを送信したり、参加者に会ったりすることが可能。
- Exchange の連絡先をインポートし、Connection Personal Call Transfer Rules で使用したり、ボイス コマンドを使用して電話をかける際に使用することが可能。

Connection 7.x または 8.0 からのアップグレード後に、Connection が Exchange 2007 にアクセスする場合、これらの機能は再設定するまで動作しなくなります。タスク リストに、アップグレードプロセスのどの段階でこれらの機能を再設定するかを示します。

Connection クラスタでない Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするためのタスク リスト

既存の Connection 7.x または 8.x サーバから、出荷されている 8.x バージョン（Connection クラスタが構成されていない場合）にアップグレードするには、次のタスクを実行します。

1. Connection 7.x または 8.0 から Connection 8.5 以降にアップグレードする場合：再構成するまで動作しなくなる機能のリストを確認します。「[Connection 8.5 にアップグレードする際に再設定が必要な機能](#)」(P.1-2) を参照してください。
2. Connection 7.x または 8.0 からアップグレードする場合：該当する『Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List』を参照し、次の点を確認します。
 - 現在の Connection サーバが Connection 8.x に対応しているかどうか。
 - 現在の Connection サーバがサポートされている場合は、ハードディスクの交換が必要かどうか。
 - 現在の Connection サーバがサポートされている場合は、メモリの増設が必要となる機能を追加するかどうか。

この資料は、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html から入手可能です。

サーバがサポートされていない場合は、ライセンス ファイルを取得する前にサーバを交換してください。ライセンス ファイルは、サーバの MAC アドレスに関連付けられています。

3. 出荷されているバージョンへのアップグレードに関するその他の情報については、該当するバージョンの『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』を参照してください。特に、「Installation and Upgrade Information」の項の情報に注意してください。リリース ノートは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html から入手可能です。
4. *Connection 7.x* からアップグレードする場合：*Connection 8.x* へのアップグレードに必要なライセンス ファイルを取得します。この段階では、ファイルをインストールしないでください。インストールは、以降のアップグレードプロセスで行います。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x」の章を参照してください。



(注) *Connection 8.0* から *8.5* へのアップグレードに、新しいライセンス ファイルは必要ありません。

5. アップグレードに必要なソフトウェアが準備してあることを確認します。*Connection 7.x* からアップグレードする場合は、次の点に注意してください。
 - *Connection* サーバの交換が必要で、サーバで現在 *Connection 7.0(1) ~ 7.1(2)* を実行している場合は、*Connection 7.1(3)* ソフトウェアも必要です。ただし、*7.1(3)* よりも前の *Connection 7.x* バージョンの中には、直接 *Connection 7.1(3)* にアップグレードできないバージョンもあるため、直接 *Connection 7.1(3)* にアップグレードできる中間バージョンのソフトウェアも必要になる可能性があります。サポートされているアップグレードについては、『*Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/compat/ccmcompmatr.html) の「Supported Cisco Unified Communications Manager Upgrades」を参照してください。



(注) *7.x* バージョンに関しては、Cisco Unified CM と Cisco Unity Connection のバージョン番号は同一です。

次の 2 つの理由により、*Connection 7.1(3)* ソフトウェアが必要です。1 つめの理由は、古いサーバの一部は *Connection 8.x* の仕様をサポートしておらず、これらの古いサーバ上で、*Connection 8.x* をインストールまたはアップグレードしようとする場合、失敗するためです。また、バージョン *7.1(3)* よりも前の *Connection* ソフトウェアには、新しいサーバに必要なドライバが含まれていません。これは、バージョン *7.1(3)* よりも前の *Connection* を新しいサーバにインストールしたり、Disaster Recovery System を使用して新しいサーバにデータを移行したり、新しいサーバを *Connection 8.x* にアップグレードしたりすることができないことを意味します。

- *Connection* サーバを交換したり、サーバ内のハードディスクを交換する場合は、Cisco.com からダウンロードするソフトウェアは、新規のインストールには使用できないため、物理ディスクを発注する必要があります。

サーバを交換せず、サーバ内のハードディスクも交換しない場合は、アップグレード用のソフトウェアを Cisco.com からダウンロードしてください。ソフトウェアを Cisco.com からダウンロードする方法については、該当する『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html) の「Installation and Upgrade Information」を参照してください。

- サーバを交換しない場合でも、*Connection 8.x* にアップグレードする前に、中間のバージョンにアップグレードするためのソフトウェアが必要になる可能性があります。サポートされているアップグレードについては、『*Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/compat/ccmcompmatr.html) の「Supported Cisco Unified Communications Manager Upgrades」を参照してください。



(注) 7.x バージョンに関しては、Cisco Unified CM と Cisco Unity Connection のバージョン番号は同一です。

6. Connection 7.x から 8.x に、または 8.0 から 8.5 にアップグレードする際に、Connection サーバに英語（米国）以外の言語がインストールされており、その言語を引き続き使用したい場合：該当する Connection 8.0. または 8.5 の言語ファイルをダウンロードします。「Connection 8.x の言語ファイルのダウンロード」(P.8-3) を参照してください。



注意 Connection サーバに英語（米国）以外の言語がインストールされていて、使用されている場合は、以降のアップグレードプロセスで Connection 8.0. または 8.5 バージョンの同じ言語をインストールする必要があります。これを行わないと、Connection との対話が一部のユーザに対して正常に動作しなくなります。

7. タスク 5. に記述されている中間バージョンへのアップグレードが必要な場合：必要に応じて Connection をアップグレードします。Connection 7.x より新しいバージョンの Connection 7.x にアップグレードする方法については、『Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 7.x』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/upgrade/guide/7xcucrugx.html) の「Upgrading Cisco Unity Connection 7.x to the Shipping 7.x Version」の章を参照してください。

Connection 7.x サーバに Connection 8.x ライセンス ファイルをインストールしないでください。



注意 現在の Connection サーバが Connection 8.x に対応していない場合、Connection を再度機能させるには、必要な中間アップグレードを組み込んで Connection 8.x へのアップグレードを完了させる必要があります。バージョン 8.x へのアップグレードに必要なライセンス ファイルを取得する場合、シスコからお送りするのは 8.x のライセンス ファイルのみです。これは、中間のバージョンには使用できません。

8. Connection 7.x からアップデートするときに、現在のサーバを Connection 8.x 用に使用し、ハードディスクを交換するか、またはメモリを増設する場合：
- a. Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。このバックアップは、交換したハードディスク上にデータを復元するために使用します。詳細については、『Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 7.x』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsag.html) を参照してください。
 - b. ハードディスクを交換するか、メモリを増設（または両方を実行）します。「Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換（特定のサーバのみ）」(P.1-12) を参照してください。
 - c. タスク 8.a. でサーバをバックアップしたときにインストールされていたバージョンの Connection を再インストールします。『Installation Guide for Cisco Unity Connection Release 7.x』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/installation/guide/7xcucigx.html) を参照してください。
 - d. タスク 8.a. で作成した DRS バックアップを使用して、サーバ上にデータを復元します。
 - e. タスク 11. に進みます。

9. *Connection 7.x* からアップグレードするときに、*Connection* サーバを交換する場合：サーバを交換します。*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 7.x* (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/upgrade/guide/7xcucrugx.html) の「[Replacing Cisco Unity Connection 7.x Servers](#)」の章の「[Replacing a Single 7.x Server Without a Connection Cluster](#)」を参照してください。
10. 交換するハードディスクまたは交換するサーバのバックアップがない場合：Disaster Recovery System を使用して、サーバのバックアップを行います。詳細については、該当する『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。
11. 業務時間外にアップグレードする場合：**utils iothrottle disable** CLI コマンドを実行してアップグレードの速度を上げます。
アップグレードが業務時間中のシステム パフォーマンスに与える悪影響を回避するために、アップグレード プロセスが抑制され、完了するまで数時間かかる場合もあります。メンテナンス中にアップグレードする場合は、抑制をディセーブルにして、アップグレードの速度を上げることができます。こうすると、アップグレードが完了するまでの時間は短縮できますが、*Connection* のパフォーマンスに影響が出ます。詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

**注意**

アップグレードの実行中に抑制をディセーブルにすることはできません。アップグレードを開始した後で抑制をディセーブルにする場合は、アップグレードを中止して、抑制をディセーブルにし、アップグレードを最初からやり直します。

12. *Connection* ソフトウェアをアップグレードします。次の該当する項を参照してください。
 - 「ローカル DVD による *Connection 7.x* または *8.x* ソフトウェアから出荷されている *8.x* バージョンへのアップグレード」 (P.1-15)
 - 「ネットワーク ロケーションによる *Connection 7.x* または *8.x* ソフトウェアから出荷されている *8.x* バージョンへのアップグレード」 (P.1-17)
13. タスク 11. でアップグレードの抑制をディセーブルにした場合：**utils iothrottle enable** CLI コマンドを実行して、抑制を再度イネーブルにします。詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。
14. タスク 12. で、ソフトウェアのアップグレード終了後、後から再起動を行うことを選択した場合：アップグレードしたパーティションに切り替えます。「[アップグレードしたバージョンの *Connection 8.x* ソフトウェアへの切り替え](#)」 (P.1-19) を参照してください。
ソフトウェア アップグレードの最後に自動的に再起動することを選択した場合は、アップグレードしたパーティションへの切り替えが完了します。
15. *Connection 7.x* からアップグレードする場合：タスク 4. で取得したライセンス ファイルをインストールします。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。
16. 必要に応じて、*Connection 8.0*. または *8.5* の言語をインストールします。「[Connection 8.x の言語ファイルのインストール](#)」 (P.8-4) を参照してください。

日本語をインストールして Cisco Unity Connection Administration をローカライズするには、Cisco Unified Communications Manager の日本語ユーザ ロケールもインストールする必要があります。該当する『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』(http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) の「Software Upgrades」の章にある「Locale Installation」を参照してください。

他の言語をインストールして Cisco Personal Communications Assistant をローカライズする場合も、それぞれ該当する Cisco Unified Communications Manager のユーザ ロケールをインストールする必要があります。該当する『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』(http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) の「Software Upgrades」の章にある「Locale Installation」を参照してください。

17. Connection 7.x または 8.0 から Connection 8.5 以降にアップグレードする場合で、次のいずれかが該当する場合：必要に応じて、ユニファイド メッセージングを設定するか、ユニファイド メッセージングの設定をアップデートします。

- アップグレード前は、Exchange の電子メールへのアクセスに Text To Speech を使用していた。
- アップグレード前は、Exchange のカレンダーへのアクセスに電話を使用していた。
- アップグレード前は、Personal Call Transfer Rules またはボイス コマンドに Exchange の連絡先を使用していた。
- アップグレード前は、MeetingPlace カレンダーにアクセスしていた。
- Connection と Exchange のメールボックス（単一受信トレイ）を同期させたい。

詳細については、『Unified Messaging Guide for Cisco Unity Connection Release 8.5 and Later』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/unified_messaging_guide/85xcucumgx.html) の該当する章を参照してください。

次のことに注意してください。

- Connection 7.x または 8.0 の外部サービスは、ユニファイド メッセージング サービスに変換されます。ユニファイド メッセージング サービスは有効化されますが、デフォルトの設定が使用中の Active Directory および Exchange の設定に対して理想的ではない場合があります。
- Connection データベースに保存されていて、Exchange へのアクセスに使用されていたユーザ パスワードは、Connection 8.5 では使用されなくなりました。Connection では、パスワードの代わりに Active Directory で作成した 1 つ以上のユニファイド メッセージング アカウントを使用して Exchange にアクセスします。

18. タスク 17. で単一受信トレイを設定し、単一受信トレイ機能を完全に使用したい場合：次のタスクを実行します。

- a. 現在、ワークステーション上の Outlook が、Connection のボイス メッセージに IMAP を使用してアクセスするように設定されている場合は、Outlook から IMAP プロファイルを削除します。
- b. ワークステーションで、Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook Release 8.5 をインストールするか、これにアップグレードし、ViewMail を Exchange で Connection ボイス メッセージにアクセスするように設定します。

Connection クラスタで Connection 7.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするためのタスク リスト

アップグレード ソフトウェアがインストールされる間、パブリッシャ サーバとサブスライバ サーバは、発生するコールやレプリケーションへの対応を継続します。アップグレードが完了した後、2 つのサーバを一度に 1 つずつ、アップグレードしたソフトウェアに切り替えます。

切り替えの際の Connection の動作に関する詳細は次のとおりです。

- パブリッシャ サーバをアップグレードしたソフトウェアに切り替えるときは、サブスライバ サーバがすべてのコールに応答しますが、レプリケーションは発生せず、メッセージは使用できない可能性があります。
- サブスライバ サーバをアップグレードしたソフトウェアに切り替えるときは、パブリッシャ サーバがすべてのコールに応答しますが、レプリケーションは発生せず、メッセージは使用できない可能性があります。
- 両方のサーバがアップグレードしたソフトウェアに切り替わってから約 15 分後に、両方のサーバがコールに応答し、レプリケーションが再開し、メッセージが使用可能になります。

アップグレード プロセスに関する考慮事項は次のとおりです。

- アップグレードしたソフトウェアへの切り替え中に記録されたメッセージは、レプリケートされません。つまり、アクセスする Connection サーバによっては、一時的に新しいメッセージを取得できなくなる可能性があります。アップグレード プロセスが完了すると、メッセージがレプリケートされます。レプリケーションが完了すると、アクセスする Connection サーバに関係なく、すべてのメッセージが使用可能になります。
- MWI および通知は送信されない可能性があります。MWI および通知は、アップグレード プロセスが完了しないと同期されません。
- アップグレード プロセスが完了してから、サーバがサーバ ステータスのネゴシエートを再開し、メッセージをレプリケートするまで、約 15 分かかります。

Connection 7.x または 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバとサブスライバ サーバを出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするには、次のタスクを実行します。

1. *Connection 7.x または 8.0 から Connection 8.5 以降にアップグレードする場合*: 再構成するまで動作しなくなる機能のリストを確認します。「[Connection 8.5 にアップグレードする際に再設定が必要な機能](#)」(P.1-2) を参照してください。
2. *Connection 7.x または 8.0 からアップグレードする場合*: 該当する『*Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List*』を参照し、次の点を確認します。
 - 現在の Connection サーバが Connection 8.x に対応しているかどうか。
 - 現在の Connection サーバがサポートされている場合は、ハードディスクの交換が必要かどうか。
 - 現在の Connection サーバがサポートされている場合は、メモリの増設が必要となる機能を追加するかどうか。

この資料は、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html から入手可能です。

サーバがサポートされていない場合は、ライセンス ファイルを取得する前にサーバを交換してください。ライセンス ファイルは、サーバの MAC アドレスに関連付けされています。

3. 出荷されているバージョンへのアップグレードに関するその他の情報については、該当するバージョンの『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』を参照してください。特に、「Installation and Upgrade Information」の項の情報に注意してください。リリース ノートは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html から入手可能です。
4. *Connection 7.x* からアップグレードする場合：*Connection 8.x* へのアップグレードに必要なライセンス ファイルを取得します。この段階では、ファイルをインストールしないでください。インストールは、以降のアップグレードプロセスで行います。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x」の章を参照してください。



(注) *Connection 8.0* から *8.5* へのアップグレードに、新しいライセンス ファイルは必要ありません。

5. アップグレードに必要なソフトウェアが準備してあることを確認します。*Connection 7.x* からアップグレードする場合は、次の点に注意してください。
 - *Connection* サーバの交換が必要で、サーバで現在 *Connection 7.0(1) ~ 7.1(2)* を実行している場合は、*Connection 7.1(3)* ソフトウェアも必要です。ただし、*7.1(3)* よりも前の *Connection 7.x* バージョンの中には、直接 *Connection 7.1(3)* にアップグレードできないバージョンもあるため、直接 *Connection 7.1(3)* にアップグレードできる中間バージョンのソフトウェアも必要になる可能性があります。サポートされているアップグレードについては、『*Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/compat/ccmcompmatr.html) の「Supported Cisco Unified Communications Manager Upgrades」を参照してください。



(注) *7.x* バージョンに関しては、Cisco Unified CM と Cisco Unity Connection のバージョン番号は同一です。

次の 2 つの理由により、*Connection 7.1(3)* ソフトウェアが必要です。1 つめの理由は、古いサーバの一部は *Connection 8.x* の仕様をサポートしておらず、これらの古いサーバ上で、*Connection 8.x* をインストールまたはアップグレードしようとするためです。また、バージョン *7.1(3)* よりも前の *Connection* ソフトウェアには、新しいサーバに必要なドライバが含まれていません。このため、バージョン *7.1(3)* よりも前の *Connection* を新しいサーバにインストールしたり、Disaster Recovery System を使用して新しいサーバにデータを移行したり、新しいサーバを *Connection 8.x* にアップグレードしたりすることができなくなります。

- サーバを交換しない場合でも、*Connection 8.x* にアップグレードする前に、中間のバージョンにアップグレードするためのソフトウェアが必要になる可能性があります。サポートされているアップグレードについては、『*Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/compat/ccmcompmatr.html) の「Supported Cisco Unified Communications Manager Upgrades」を参照してください。



(注) *7.x* バージョンに関しては、Cisco Unified CM と Cisco Unity Connection のバージョン番号は同一です。

- *Connection* サーバを交換したり、サーバ内のハードディスクを交換する場合は、Cisco.com からダウンロードするソフトウェアは、新規のインストールには使用できないため、物理ディスクを発注する必要があります。

サーバを交換せず、サーバ内のハードディスクも交換しない場合は、アップグレード用のソフトウェアを Cisco.com からダウンロードしてください。ソフトウェアを Cisco.com からダウンロードする方法については、該当する『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html) の「Installation and Upgrade Information」を参照してください。

6. *Connection* 7.x から 8.x に、または 8.0 から 8.5 にアップグレードする際に、*Connection* サーバに英語（米国）以外の言語がインストールされており、その言語を引き続き使用したい場合：該当する *Connection* 8.0. または 8.5 の言語ファイルをダウンロードします。「**Connection 8.x の言語ファイルのダウンロード**」(P.8-3) を参照してください。

**注意**

Connection サーバに英語（米国）以外の言語がインストールされていて、使用されている場合は、以降のアップグレードプロセスで *Connection* 8.0. または 8.5 バージョンの同じ言語をインストールする必要があります。これを行わないと、*Connection* との対話が一部のユーザに対して正常に動作しなくなります。

7. 現在のサーバの一方または両方がサポート対象外で、サーバでは現在 *Connection* 7.0(1) ~ 7.1(2) を実行している場合：一方のサーバのみを交換する場合でも、既存のすべてのサーバを *Connection* バージョン 7.1(3) にアップグレードします。タスク 5. で説明したように、まずは中間のバージョンへのアップグレードが必要になる場合があります。前のバージョンの *Connection* 7.x からバージョン 7.1(3) へのアップグレードについては、*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 7.x* (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/upgrade/guide/7xcucrugx.html) の「**Upgrading Cisco Unity Connection 7.x to the Shipping 7.x Version**」の章の「Task List for Upgrading *Connection* 7.x Software to the Shipping 7.x Version in a *Connection* Cluster」を参照してください。

Connection 7.x サーバに *Connection* 8.x ライセンス ファイルをインストールしないでください。

**注意**

現在の *Connection* サーバが *Connection* 8.x に対応していない場合、*Connection* を再度機能させるには、必要な中間アップグレードを組み込んで *Connection* 8.x へのアップグレードを完了させる必要があります。バージョン 8.x へのアップグレードに必要なライセンス ファイルを取得する場合、シスコからお送りするのは 8.x のライセンス ファイルのみです。これは、中間のバージョンには使用できません。

8. *Connection* 7.x からアップグレードするときに、現在のサーバを *Connection* 8.x 用に使用し、サーバの一方または両方を交換するか、一方または両方のサーバのハードディスクを交換する場合：サーバを交換するか、サーバのハードディスクを交換します。*Reconfiguration and Upgrade Guide for Cisco Unity Connection Release 7.x* (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/upgrade/guide/7xcucrugx.html) の「**Replacing Cisco Unity Connection 7.x Servers or Hard Disks**」の章の該当する項を参照してください。

**注意**

ハードディスクを交換する場合は、この章の「**Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換（特定のサーバのみ）**」(P.1-12) は使用しないでください。この項ではクラスタに関連した問題について考慮していません。

9. *Connection* 7.x からアップグレードするときに、現在の *Connection* サーバにメモリを増設する場合：「**Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換（特定のサーバのみ）**」(P.1-12) を参照してください。

10. Cisco Unified Serviceability にログインし、パブリッシャ サーバのステータスが [Primary]、サブスクリバ サーバのステータスが [Secondary] になっていることを確認します。手順については、該当する『*Cluster Configuration and Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) の「Administering a Cisco Unity Connection Cluster」の章を参照してください。
11. 交換するハード ディスクまたは交換するサーバのバックアップがない場合：Disaster Recovery System を使用して、パブリッシャ サーバのバックアップを行います。詳細については、該当する『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。
12. 業務時間外にアップグレードする場合：パブリッシャ サーバで **utils ithrottle disable** CLI コマンドを実行してアップグレードの速度を上げます。
アップグレードが業務時間中のシステム パフォーマンスに与える悪影響を回避するために、アップグレード プロセスが抑制され、完了するまで数時間かかる場合もあります。メンテナンス中にアップグレードする場合は、抑制をディセーブルにして、アップグレードの速度を上げることができます。こうすると、アップグレードが完了するまでの時間は短縮できますが、Connection のパフォーマンスに影響が出ます。詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

**注意**

アップグレードの実行中に抑制をディセーブルにすることはできません。アップグレードを開始した後で抑制をディセーブルにする場合は、アップグレードを中止して、抑制をディセーブルにし、アップグレードを最初からやり直します。

13. パブリッシャ サーバで、Connection ソフトウェアをアップグレードします。次の該当する項を参照してください。
 - 「ローカル DVD による Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード」 (P.1-15)
 - 「ネットワーク ロケーションによる Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード」 (P.1-17)
 パブリッシャ サーバは、コールへの応答を継続します。

**注意**

このタスクを行っている間は、パブリッシャ サーバを再起動したり、アップグレードしたソフトウェアに切り替えないでください。これを行うと、Connection クラスタが正常に機能しなくなります。

14. 業務時間外にアップグレードする場合：サブスクリバ サーバで **utils ithrottle disable** CLI コマンドを実行してアップグレードの速度を上げます。
15. サブスクリバ サーバで、Connection ソフトウェアをアップグレードします。次の該当する項を参照してください。
 - 「ローカル DVD による Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード」 (P.1-15)
 - 「ネットワーク ロケーションによる Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード」 (P.1-17)
 サブスクリバ サーバは、コールへの応答を継続します。

**注意**

このタスクを行っている間は、サブスクリバ サーバを再起動したり、アップグレードしたソフトウェアに切り替えないでください。これを行うと、Connection クラスタが正常に機能しなくなります。

16. タスク 12. でパブリッシャ サーバのアップグレードの抑制をディセーブルにした場合：**utils** **iothrottle enable** CLI コマンドを実行して、抑制を再度イネーブルにします。詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』（http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html）を参照してください。
17. パブリッシャ サーバでアップグレードしたソフトウェアに切り替えます。「アップグレードしたバージョンの Connection 8.x ソフトウェアへの切り替え」(P.1-19) を参照してください。
18. タスク 14. でサブスクリバ サーバのアップグレードの抑制をディセーブルにした場合：**utils** **iothrottle enable** CLI コマンドを実行して、抑制を再度イネーブルにします。
19. サブスクリバ サーバでアップグレードしたソフトウェアに切り替えます。「アップグレードしたバージョンの Connection 8.x ソフトウェアへの切り替え」(P.1-19) を参照してください。
20. タスク 19. が完了してから約 15 分後に、パブリッシャ サーバ上で、パブリッシャ サーバのステータスが [Primary]、サブスクリバ サーバのステータスが [Secondary] になっていることを確認します。手順については、『*Cluster Configuration and Administration Guide for Cisco Unity Connection*』（http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/cluster_administration/guide/8xcuccagx.html）の「Administering a Cisco Unity Connection 8.x Cluster」の章を参照してください。
21. サブスクリバ サーバ上で、パブリッシャ サーバのステータスが [Primary]、サブスクリバ サーバのステータスが [Secondary] になっていることを確認します。手順については、『*Cluster Configuration and Administration Guide for Cisco Unity Connection*』（http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/cluster_administration/guide/8xcuccagx.html）の「Administering a Cisco Unity Connection 8.x Cluster」の章を参照してください。
22. Connection 7.x からアップグレードする場合：タスク 4. で取得したライセンス ファイルをインストールします。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』（http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html）の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x」の章を参照してください。
23. 必要に応じて、Connection 8.0. または 8.5 の言語をインストールします。「Connection 8.x の言語ファイルのインストール」(P.8-4) を参照してください。

最初にパブリッシャ サーバに言語をインストールし、次にサブスクリバ サーバにインストールします。

日本語をインストールして Cisco Unity Connection Administration をローカライズするには、Cisco Unified Communications Manager の日本語ロケールもインストールする必要があります。該当する『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』（http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicew/ps556/prod_maintenance_guides_list.html）の「Software Upgrades」の章にある「Locale Installation」を参照してください。

他の言語をインストールして Cisco Personal Communications Assistant をローカライズする場合も、それぞれ該当する Cisco Unified Communications Manager のロケールをインストールする必要があります。該当する『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』（http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicew/ps556/prod_maintenance_guides_list.html）の「Software Upgrades」の章にある「Locale Installation」を参照してください。

24. Connection 7.x または 8.0 から Connection 8.5 以降にアップグレードする場合で、次のいずれかが該当する場合：必要に応じて、ユニファイド メッセージングを設定するか、ユニファイド メッセージングの設定をアップデートします。

- アップグレード前は、Exchange の電子メールへのアクセスに Text To Speech を使用していた。
- アップグレード前は、Exchange のカレンダーへのアクセスに電話を使用していた。
- アップグレード前は、Personal Call Transfer Rules またはボイス コマンドに Exchange の連絡先を使用していた。
- アップグレード前は、MeetingPlace カレンダーにアクセスしていた。
- Connection と Exchange のメールボックス (単一受信トレイ) を同期させたい。

詳細については、『*Unified Messaging Guide for Cisco Unity Connection Release 8.5 and Later*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/unified_messaging/guide/85xucumgx.html) の該当する章を参照してください。

次のことに注意してください。

- Connection 7.x または 8.0 の外部サービスは、ユニファイド メッセージング サービスに変換されます。ユニファイド メッセージング サービスは有効化されますが、デフォルトの設定が使用中の Active Directory および Exchange の設定に対して理想的ではない場合があります。
 - Connection データベースに保存されていて、Exchange へのアクセスに使用されていたユーザパスワードは、Connection 8.5 では使用されなくなりました。Connection では、パスワードの代わりに Active Directory で作成した 1 つ以上のユニファイド メッセージング アカウントを使用して Exchange にアクセスします。
25. タスク 24. で単一受信トレイを設定し、単一受信トレイ機能を完全に使用したい場合: 次のタスクを実行します。
- a. 現在、ワークステーション上の Outlook が、Connection のボイス メッセージに IMAP を使用してアクセスするように設定されている場合は、Outlook から IMAP プロファイルを削除します。
 - b. ワークステーションで、Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook Release 8.5 をインストールするか、これにアップグレードし、ViewMail を Exchange で Connection ボイス メッセージにアクセスするように設定します。

Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換 (特定のサーバのみ)



(注)

アップグレードするサーバでメモリのアップグレードもハードディスクの交換も必要ない場合は、この項を省略してください。

Cisco Unity Connection 7.x を実行していて、Connection 8.x の使用にも適したサーバでも、Connection 8.x をサポートするためにハードディスクの交換が必要になる場合があります。さらに、一部の機能 (たとえばサイト内またはサイト間ネットワークキングなど) をアップグレードしたサーバに追加する場合、メモリの増設が必要になることもあります。

使用している Connection サーバの詳細については、『*Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html) で該当するサーバに適用される表を参照してください。



警告

オン/オフ スイッチのあるシステムで作業を始める場合は、はじめに電源スイッチをオフにし、電源コードのプラグを抜いてください。ステートメント 1



警告

シャーシを開ける前に、電話網電圧に接触しないように電話網ケーブルの接続を切断します。ステートメント 2



警告

この装置の設置および保守作業は、AS/NZS 3260 Clause 1.2.14.3 Service Personnel に定められている保守担当者が行う必要があります。ステートメント 88



警告

作業中は、カードの静電破壊を防ぐため、必ず静電気防止用リストストラップを着用してください。感電する危険があるので、手や金属工具がバックプレーンに直接触れないようにしてください。ステートメント 94



警告

この製品には安全カバーが不可欠です。安全カバーを設置していない状態で装置を操作しないでください。安全カバーが正しく設置されていない装置を扱うと、安全認可が無効になり、火災や電気による事故を引き起こすおそれがあります。ステートメント 117



警告

雷が発生しているときは、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行わないでください。ステートメント 1001



警告

必ず設置手順を読んでから、システムを電源に接続してください。ステートメント 1004



警告

ラックに装置を取り付けたり、ラック内の装置の保守作業を行ったりする場合は、事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次の注意事項を守ってください。

- ラックに設置する装置が 1 台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。
- ラックに他の装置も設置する場合は、最も重量のあるコンポーネントをラックの最下部に設置し、軽いものをラック上部に設置してください。
- ラックに安定器具が付属している場合は、その安定器具を取り付けてから、装置をラックに設置したり、ラック内の装置の保守作業を行ってください。ステートメント 1006



警告

バッテリーが適正に交換されなかった場合、爆発の危険があります。製造元が推奨するものと同じまたは同等のバッテリーだけを使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。ステートメント 1015



警告

この装置は、出入りが制限された場所に設置されることを想定しています。出入りが制限された場所とは、特殊なツール、ロックおよびキー、または他のセキュリティ手段を使用しないと入室できない場所を意味します。ステートメント 1017



警告

感電事故を防ぐため、Safety Extra-low Voltage (SELV; 安全超低電圧) 回路を Telephone-Network Voltage (TNV; 電話網電圧) 回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路、WAN ポートには TNV 回路が使用されています。LAN ポートおよび WAN ポートによっては、どちらも RJ-45 コネクタが使用されている場合があります。ケーブルを接続するときは注意してください。ステートメント 1021



警告

火災の危険性を抑えるため、No.26 AWG 以上の通信回線コードだけを使用してください。ステートメント 1023



警告

この装置はアース接続する必要があります。絶対にアース導体を破損させたり、アース線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。ステートメント 1024



警告

ブランクの前面プレートおよびカバー パネルには、3 つの重要な役割があります。シャーシ内の危険な電圧および電流による感電を防ぐこと、他の装置への EMI の影響を防ぐこと、およびシャーシ内の空気の流れを適切な状態に保つことです。必ずすべてのカード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーをスロットに正しく取り付けられた状態で、システムを運用してください。ステートメント 1029



警告

この装置の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030



警告

この製品を廃棄処分する際には、各国の法律および規制に従って取り扱ってください。ステートメント 1040

上記の安全上の警告の翻訳については、『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html) を参照してください。

Connection 8.x をサポートするためにメモリをアップグレードする、またはハードディスクを交換するには (特定のサーバのみ)

ステップ 1

カバーを取り外します。

ステップ 2

メモリを増設しない場合は、**ステップ 3**に進みます。

サーバモデルに応じて、メモリ モジュールを適切なスロットまたは場所に取り付けます。詳細については、『*Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List*』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html) を参照してください。



注意

新しいメモリ モジュールを誤ったスロットに取り付けると、サーバとオペレーティング システムがそのモジュールを認識しない場合や、Cisco Unity Connection のパフォーマンスが低下する場合があります。

ステップ 3 ハードディスクを交換しない場合は、**ステップ 4**に進みます。

サーバのハードディスクをすべて交換します。

**注意**

既存のハードディスクを取り外し、それと同じ台数のハードディスクを取り付ける必要があります。台数が異なると、Cisco Unity Connection のインストールが失敗します。

- a. サーバに設置されているハードディスクの現在の場所（ハードディスクとハードディスク スロットの対応関係を含む）を書き留めます。交換に失敗し、現在の構成に戻す必要が生じた場合に、既存のハードディスクを現在の場所に戻す必要があるためです。
- b. サーバからドライブ トレイを取り外します。
- c. ドライブ トレイから古いハードディスクを取り外します。
- d. 新しいハードディスクをドライブ トレイに装着します。
- e. ステップ a. で書き留めた場所にドライブ トレイを再度取り付けます。

ステップ 4 カバーを再度取り付けます。

ローカル DVD による Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード

ローカル DVD を実行して Connection をアップグレードするには、次のいずれかの方法を実行します。

- シスコから発送された DVD を使用する。
- Cisco.com から署名済みの .iso ファイルをダウンロードし、ダウンロードしたソフトウェアのディスク イメージを作成する。ダウンロードした .iso ファイルからディスク イメージを抽出し、それを DVD に書き込む。

ローカル DVD を使用して Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするには

- ステップ 1** DVD を Cisco Unity Connection サーバのディスク ドライブに挿入します。
- ステップ 2** Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- ステップ 3** [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] メニューから、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] を選択します。
- ステップ 4** [ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ページの [ソース (Source)] フィールドで、[DVD/CD] を選択します。
- ステップ 5** [ディレクトリ (Directory)] フィールドに、スラッシュ (/) を入力します。
- ステップ 6** [次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 7** インストールするアップグレード バージョンを選択し、[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 8** 次のページで、アップグレードの進行状況をモニタします。

このステップの途中で Web ブラウザを閉じた場合、[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ページを再度表示しようとする、次のメッセージが表示されることがあります。

警告: 別のセッションでソフトウェアをインストール中です。[制御の取得 (Assume Control)] をクリックしてインストールを続けます。

アップグレードのモニタリングを継続する場合は、[制御の取得 (Assume Control)] を選択します。

Real-Time Monitoring Tool でアップグレードをモニタすることもできます。

ステップ 9 設定に応じて、適切な再起動の方法を選択します。

非 Connection クラスタ	<ul style="list-style-type: none"> アップグレードソフトウェアをインストールした後、アップグレードされたパーティションを自動的に再起動するには、[アップグレードされたパーティションをリブート (Reboot to Upgraded Partition)] を選択します。 アップグレードをインストールした後、アップグレードされたパーティションを後で手動で再起動するには、[アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択します。
Connection クラスタ構成済み	[アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択します。

ステップ 10 [次へ (Next)] を選択します。

ステップ 11 **ステップ 9** で [アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択した場合は、アップグレードソフトウェアのインストールが完了したら、[終了 (Finish)] を選択します。[アップグレードのステータス (Upgrade Status)] ウィンドウにアップグレードログが表示されます。

[アップグレードされたパーティションをリブート (Reboot to Upgrade Partition)] を選択した場合は、次のことに注意してください。

- Connection サービスが停止します。
- 旧バージョンがインストールされているパーティションのデータが、新バージョンがインストールされているパーティションにコピーされます。データベーススキーマの変更に合わせてデータフォーマットを更新する必要がある場合は、この時点で行われます。メッセージは共通パーティションに保存されているので、コピーされません。
- Connection サーバが再起動されて、新しいバージョンに切り替わります。



(注) **show cuc version** CLI コマンドを使用して、アップグレードソフトウェアのインストールのステータスを確認できます。インストールが完了すると、アクティブでないパーティションにアップグレードされたソフトウェアがあり、アクティブなパーティションに古いソフトウェアがある状態になります。

ネットワーク ロケーションによる Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード

ネットワーク ロケーションから Connection をアップグレードするには、Cisco.com から署名済みの .iso ファイルをダウンロードし、その .iso ファイルを FTP または SFTP サーバにコピーします。Connection では、シスコから発送された DVD の内容や、ダウンロードした .iso ファイルから抽出した内容を FTP または SFTP サーバにコピーすることはできません。これは、改ざんされたソフトウェアを使用したアップグレードを予防するためです。

ネットワーク ロケーションから Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection サーバがアクセスできる FTP または SFTP サーバ上のフォルダにアップグレード ファイルをコピーします。
- ステップ 2** Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- ステップ 3** [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] メニューから、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] を選択します。
- ステップ 4** [ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ページの [ソース (Source)] フィールドで、[リモート ファイルシステム (Remote Filesystem)] を選択します。
- ステップ 5** [ディレクトリ (Directory)] フィールドに、アップグレード ファイルを格納したフォルダのパスを入力します。

アップグレード ファイルが Linux または UNIX サーバ上にある場合は、フォルダ パスの先頭にスラッシュ (/) を入力する必要があります (たとえば、アップグレード ファイルが `upgrade` フォルダにある場合は、`/upgrade` と入力する必要があります)。

アップグレード ファイルが Windows サーバ上にある場合は、次のように FTP または SFTP サーバに適切な構文を使用する必要があります。

 - パスの記述はスラッシュ (/) で開始し、その後のパスの区切りにもスラッシュを使用します。バック スラッシュ (\) は使用しません。
 - パスの先頭部分は、サーバ上の FTP または SFTP のルート フォルダにする必要があります。したがって、ドライブ文字 (C: など) で始まる Windows の絶対パスは入力できません。
- ステップ 6** [サーバ (Server)] フィールドに、サーバ名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 7** [ユーザ名 (User Name)] フィールドに、リモート サーバにログインするときに使用するエイリアスを入力します。
- ステップ 8** [ユーザ パスワード (User Password)] フィールドに、リモート サーバにログインするときに使用するパスワードを入力します。
- ステップ 9** [転送プロトコル (Transfer Protocol)] フィールドで、適切な転送プロトコルを選択します。
- ステップ 10** [次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 11** インストールするアップグレード バージョンを選択し、[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 12** 次のページで、アップグレードの進行状況をモニタします。

このステップの途中でリモート サーバとの接続が失われた場合、またはブラウザを閉じた場合は、[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ページを再度表示しようとすると、次のメッセージが表示されることがあります。

警告: 別のセッションでソフトウェアをインストール中です。[制御の取得 (Assume Control)] をクリックしてインストールを続けます。

アップグレードのモニタリングを継続する場合は、[制御の取得 (Assume Control)] を選択します。

Real-Time Monitoring Tool でアップグレードをモニタすることもできます。

ステップ 13 設定に応じて、適切な再起動の方法を選択します。

非 Connection クラスタ	<ul style="list-style-type: none"> アップグレードソフトウェアをインストールした後、アップグレードされたパーティションを自動的に再起動するには、[アップグレードされたパーティションをリブート (Reboot to Upgraded Partition)] を選択します。 アップグレードをインストールした後、アップグレードされたパーティションを後で手動で再起動するには、[アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択します。
Connection クラスタ構成済み	[アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択します。

ステップ 14 [次へ (Next)] を選択します。

ステップ 15 **ステップ 13** で [アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択した場合は、アップグレードソフトウェアのインストールが完了したら、[終了 (Finish)] を選択します。[アップグレードのステータス (Upgrade Status)] ウィンドウにアップグレードログが表示されます。

[アップグレードされたパーティションをリブート (Reboot to Upgraded Partition)] を選択した場合は、次のことに注意してください。

- Connection サービスが停止します。
- 旧バージョンがインストールされているパーティションのデータが、新バージョンがインストールされているパーティションにコピーされます。データベーススキーマの変更に合わせてデータフォーマットを更新する必要がある場合は、この時点で行われます。メッセージは共通パーティションに保存されているので、コピーされません。
- Connection サーバが再起動されて、新しいバージョンに切り替わります。



(注) **show cuc version CLI** コマンドを使用して、アップグレードソフトウェアのインストールのステータスを確認できます。インストールが完了すると、アクティブでないパーティションにアップグレードされたソフトウェアがあり、アクティブなパーティションに古いソフトウェアがある状態になります。

アップグレードしたバージョンの Connection 8.x ソフトウェアへの切り替え

アップグレードの終了時に、アップグレードされたパーティションに自動的に切り替えることを選択しなかった場合は、パーティションを切り替える準備が整った時点で、次の手順を実行します。

アップグレードしたバージョンの Connection 8.x ソフトウェアに切り替えるには

- ステップ 1** 最新のバックアップがない場合は、Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。詳細については、『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsg.html) を参照してください。
- ステップ 2** Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- ステップ 3** [設定 (Settings)] メニューから、[バージョン (Version)] を選択します。
- ステップ 4** [バージョン設定 (Version Settings)] ページで、[バージョンの切り替え (Switch Versions)] を選択すると、次が実行されます。
- Connection サービスが停止します。
 - 旧バージョンがインストールされているパーティションのデータが、新バージョンがインストールされているパーティションにコピーされます。データベーススキーマの変更に合わせてデータフォーマットを更新する必要がある場合は、この時点で行われます。メッセージは共通パーティションに保存されているので、コピーされません。
 - Connection サーバが再起動されて、新しいバージョンに切り替わります。



(注) `show cuc version` CLI コマンドを使用して、アップグレードソフトウェアのインストールのステータスを確認できます。アップグレードが完了すると、アクティブでないパーティションにアップグレードされたソフトウェアがあり、アクティブなパーティションに古いソフトウェアがある状態になります。

■ アップグレードしたバージョンの Connection 8.x ソフトウェアへの切り替え



CHAPTER 2

Cisco Unity Connection 2.x から出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード

この章は、次の項で構成されています。

- 「[Connection 8.x へのアップグレードプロセスについて](#)」 (P.2-1)
- 「[Connection 8.5 にアップグレードする際に再設定が必要な機能](#)」 (P.2-2)
- 「[Connection 2.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするためのタスク リスト](#)」 (P.2-2)
- 「[Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換 \(特定のサーバのみ\)](#)」 (P.2-6)
- 「[ローカル DVD による Connection 2.x ソフトウェアから 8.x へのアップグレード](#)」 (P.2-9)
- 「[ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバからの、Connection 2.x ソフトウェアから 8.x へのアップグレード](#)」 (P.2-10)
- 「[アップグレードしたバージョンの Connection 8.x ソフトウェアへの切り替え](#)」 (P.2-12)
- 「[Exchange 情報へのアクセス権を持つ Connection 8.0 ユーザの外部サービス アカウントにおける電子メール アドレスの調整](#)」 (P.2-13)

Connection 8.x へのアップグレード プロセスについて

Cisco Unity Connection のアップグレードプロセスに関する考慮事項は次のとおりです。

- サーバをアップグレードするときは、既存のバージョンの Connection を実行したままで、新しいバージョンを別のパーティションにインストールします。
 - Connection サーバを初めてアップグレードする場合は、アップグレード時に新しいバージョンが空のパーティションにコピーされます。
 - 以前に Connection サーバをアップグレードしたことがある場合、アップグレード時に新しいバージョンが、アクティブでないパーティションにコピーされます。通常、このパーティションには、アクティブ パーティションで実行されているバージョンより古いバージョンの Connection が存在しています (以前に新しいバージョンにアップグレードした後、旧バージョンに戻している場合は、アクティブでないパーティションには現在実行されているバージョンより新しいバージョンの Connection が含まれています)。アップグレード開始前にアクティブでないパーティションにあったソフトウェアは上書きされます。
 - 現在のバージョンによっては、希望のバージョンまでに 2 回アップグレードする必要があります。その場合、アップグレードが完了すると現在のバージョンは使用できなくなります。これは、現在のバージョンを含むパーティションが 2 回目のアップグレードで上書きされるためです。

- アップグレード開始時に、アクティブでないパーティションを再起動するかどうか選択します。再起動することを選択した場合は、アップグレードが完了した時点で、サーバは自動的に再起動し、アップグレード後のバージョンの Connection を実行します。再起動しない場合は、アップグレード完了後に、手動でアップグレード後のバージョンに切り替える必要があります。
- アップグレードしたソフトウェアへの切り替えには数分かかります。

Connection 8.5 にアップグレードする際に再設定が必要な機能

Connection 8.5 には、現在 Connection ユニファイドメッセージングに搭載されている次の機能の拡張機能が搭載されています。

- Text To Speech を使用した Exchange の電子メールへのアクセス。
- 電話による Exchange のカレンダーへのアクセスにより、今後の会議のリストを聞いたり、会議の開催者にメッセージを送信したり、参加者に会ったりすることが可能。
- Exchange の連絡先をインポートし、Connection Personal Call Transfer Rules で使用したり、ボイス コマンドを使用して電話をかける際に使用することが可能。

Connection 2.x からのアップグレード後に、Connection が Exchange 2007 にアクセスする場合、これらの機能は再設定するまで動作しなくなります。タスク リストに、アップグレードプロセスのどの段階でこれらの機能を再設定するかを示します。

Connection 2.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするためのタスク リスト

既存の Connection 2.x サーバから出荷されている 8.x バージョンにアップグレードするには、次のタスクを実行します。

1. 再構成するまで動作しなくなる機能のリストを確認します。「[Connection 8.5 にアップグレードする際に再設定が必要な機能](#)」(P.2-2) を参照してください。
2. 該当する『Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List』を参照し、次の点を判断します。
 - 現在の Connection サーバが Connection 8.x に対応しているかどうか。
 - 現在の Connection サーバがサポートされている場合は、ハードディスクの交換が必要かどうか。
 - 現在の Connection サーバがサポートされている場合は、メモリの増設が必要となる機能を追加するかどうか。

この資料は、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html から入手可能です。

サーバがサポートされていない場合は、ライセンス ファイルを取得する前にサーバを交換してください。ライセンス ファイルは、サーバの MAC アドレスに関連付けられています。

3. 出荷されているバージョンへのアップグレードに関するその他の情報については、該当するバージョンの『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』を参照してください。特に、「Installation and Upgrade Information」の項の情報に注意してください。リリース ノートは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html から入手可能です。

4. Connection 8.x へのアップグレードに必要なライセンス ファイルを取得します。この段階では、ファイルをインストールしないでください。インストールは、以降のアップグレードプロセスで行います。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「**Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x**」の章を参照してください。
5. アップグレードに必要なソフトウェアが準備してあることを確認します。次のことに注意してください。
 - Connection サーバを交換する場合は、Connection 7.1(3) ソフトウェアも必要です。ただし、7.1(3) よりも前のバージョンの Connection の中には、直接 Connection 7.1(3) にアップグレードできないバージョンもあるため、直接 Connection 7.1(3) にアップグレードできる中間バージョンのソフトウェアも必要になる可能性があります。サポートされているアップグレードについては、『*Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/compat/ccmcompmatr.html) の「**Supported Cisco Unified Communications Manager Upgrades**」を参照してください。



(注)

7.x バージョンに関しては、Cisco Unity Connection と Cisco Unified CM のバージョン番号は同一です。Connection 2.x バージョンは、Cisco Unified CM 6.x バージョンに対応しています。

次の 2 つの理由により、Connection 7.1(3) ソフトウェアが必要です。1 つめの理由は、古いサーバの一部は Connection 8.x の仕様をサポートしておらず、これらの古いサーバ上で、Connection 8.x をインストールしようとすると失敗するためです。また、バージョン 7.1(3) よりも前の Connection ソフトウェアには、新しいサーバに必要なドライバが含まれていません。このため、前のバージョンの Connection を新しいサーバにインストールしたり、Disaster Recovery System を使用して新しいサーバにデータを移行したり、新しいサーバを Connection 8.x にアップグレードしたりすることができなくなります。

- Connection サーバを交換したり、サーバ内のハード ディスクを交換する場合は、Cisco.com からダウンロードするソフトウェアは、新規のインストールには使用できないため、物理ディスクを発注する必要があります。

サーバを交換せず、サーバ内のハード ディスクも交換しない場合は、アップグレード用のソフトウェアを Cisco.com からダウンロードしてください。ソフトウェアを Cisco.com からダウンロードする方法については、該当する『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html) の「**Installation and Upgrade Information**」を参照してください。

- Connection 2.x バージョンの一部は直接 Connection 8.x にアップグレードできないため、サーバを交換しない場合でも、Connection 8.x にアップグレードする前に、中間のバージョンにアップグレードするためのソフトウェアが必要になる可能性があります。サポートされているアップグレードについては、『*Cisco Unified Communications Manager Software Compatibility Matrix*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/compat/ccmcompmatr.html) の「**Supported Cisco Unified Communications Manager Upgrades**」を参照してください。



(注)

7.x バージョンに関しては、Cisco Unity Connection と Cisco Unified CM のバージョン番号は同一です。Connection 2.x バージョンは、Cisco Unified CM 6.x バージョンに対応しています。

6. *Connection* サーバに英語（米国）以外の言語がインストールされており、その言語を引き続き使用したい場合：該当する *Connection* 8.0. または 8.5 の言語ファイルをダウンロードします。
「[Connection 8.x の言語ファイルのダウンロード](#)」（P.8-3）を参照してください。



注意 *Connection* サーバに英語（米国）以外の言語がインストールされていて、使用されている場合は、以降のアップグレードプロセスで *Connection* 8.0. または 8.5 バージョンの同じ言語をインストールする必要があります。これを行わないと、*Connection* との対話が一部のユーザに対して正常に動作しなくなります。

7. タスク 5. に記述されている中間バージョンへのアップグレードが必要な場合：必要に応じて *Connection* をアップグレードします。次の該当する章を参照してください。
- *Connection* 2.x から 7.x にアップグレードする場合は、*Cisco Unity Connection 再設定およびアップグレードガイド Release 7.x* (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/upgrade/guide/7xcucrugx.html) の「[Upgrading Cisco Unity Connection 2.x to the Shipping 7.x Version](#)」の章を参照してください。
 - *Connection* 2.x より新しい 2.x バージョンにアップグレードする場合は、『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 2.x*』（http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/2x/os_administration/guide/2xucosagx.html）の「[Software Upgrades](#)」の章を参照してください。

Connection 8.x のライセンス ファイルを *Connection* 2.x または 7.1(3) サーバにインストールしないでください。



注意 現在の *Connection* サーバが *Connection* 8.x に対応していない場合、*Connection* を再度機能させるには、必要な中間アップグレードを組み込んで、*Connection* 2.x から *Connection* 8.x へのアップグレードを完了させる必要があります。バージョン 8.x へのアップグレードに必要なライセンス ファイルを取得する場合、シスコからお送りするのは 8.x のライセンス ファイルのみです。これは、中間のバージョンには使用できません。

8. 現在のサーバを *Connection* 8.x 用に使用し、ハードディスクを交換するか、またはメモリを増設する場合：
- a. Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。
 - b. ハードディスクを交換するか、またはメモリを増設します。「[Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換（特定のサーバのみ）](#)」（P.2-6）を参照してください。
 - c. タスク 8.a. でサーバをバックアップしたときにインストールされていたバージョンの *Connection* を再インストールします。該当する『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』（http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_installation_guides_list.html）を参照してください。
 - d. タスク 8.a. で作成した DRS バックアップを使用して、サーバ上にデータを復元します。
 - e. タスク 10. に進みます。
9. 現在のサーバを交換する場合：サーバを交換します。*Cisco Unity Connection 再設定およびアップグレードガイド Release 7.x* (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/upgrade/guide/7xcucrugx.html) の「[Replacing Cisco Unity Connection 7.x Servers](#)」の章の「[Replacing a Single 7.x Server Without a Connection Cluster](#)」を参照してください。

10. 交換するハードディスクまたは交換するサーバのバックアップがない場合：Disaster Recovery System を使用して、サーバのバックアップを行います。詳細については、『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 2.x*』（http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/2x/drs_administration/guide/2xcucdrsag.html）を参照してください。
11. Connection サーバのソフトウェアをアップグレードします。次の該当する項を参照してください。
 - 「ローカル DVD による Connection 2.x ソフトウェアから 8.x へのアップグレード」（P.2-9）
 - 「ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバからの、Connection 2.x ソフトウェアから 8.x へのアップグレード」（P.2-10）
 - 「ローカル DVD による Connection 7.x または 8.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード」（P.1-15）
 - 「ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバからの、Connection 2.x ソフトウェアから 8.x へのアップグレード」（P.2-10）
12. タスク II で、ソフトウェアのアップグレード終了後、後から再起動を行うことを選択した場合：アップグレードしたパーティションに切り替えます。「アップグレードしたバージョンの Connection 8.x ソフトウェアへの切り替え」（P.2-12）を参照してください。

ソフトウェア アップグレードの最後に自動的に再起動することを選択した場合は、アップグレードしたパーティションへの切り替えが完了します。
13. タスク 4 で取得したライセンス ファイルをインストールします。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』（http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html）の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x」の章を参照してください。
14. 必要に応じて、Connection 8.0. または 8.5 の言語をインストールします。「Connection 8.x の言語ファイルのインストール」（P.8-4）を参照してください。

日本語をインストールして Cisco Unity Connection Administration をローカライズするには、Cisco Unified Communications Manager の日本語ロケールもインストールする必要があります。該当する『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』（http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicew/ps556/prod_maintenance_guides_list.html）の「Software Upgrades」の章にある「Locale Installation」を参照してください。

他の言語をインストールして Cisco Personal Communications Assistant をローカライズする場合も、それぞれ該当する Cisco Unified Communications Manager のロケールをインストールする必要があります。該当する『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』（http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicew/ps556/prod_maintenance_guides_list.html）の「Software Upgrades」の章にある「Locale Installation」を参照してください。
15. Connection 8.0 にアップグレードし、Connection 2.x のユーザが Exchange の連絡先および予定表情報へのアクセス権を持っていた場合：各ユーザについて外部サービス アカウントの電子メールアドレスを調整します。「Exchange 情報へのアクセス権を持つ Connection 8.0 ユーザの外部サービス アカウントにおける電子メールアドレスの調整」（P.2-13）を参照してください。
16. Connection 2.x から Connection 8.5 以降にアップグレードする場合で、次のいずれかが該当する場合は：必要に応じて、ユニファイド メッセージングを設定するか、ユニファイド メッセージングの設定をアップデートします。
 - アップグレード前は、Exchange の電子メールへのアクセスに Text To Speech を使用していた。
 - アップグレード前は、Exchange のカレンダーへのアクセスに電話を使用していた。
 - アップグレード前は、Personal Call Transfer Rules またはボイス コマンドに Exchange の連絡先を使用していた。
 - アップグレード前は、MeetingPlace カレンダーにアクセスしていた。

- Connection と Exchange のメールボックス (単一受信トレイ) を同期させたい。

詳細については、『*Unified Messaging Guide for Cisco Unity Connection Release 8.5 and Later*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/unified_messaging_guide/85xc_ucumgx.html) の該当する章を参照してください。

次のことに注意してください。

- Connection 2.x の外部サービスは、ユニファイド メッセージング サービスに変換されます。ユニファイド メッセージング サービスは有効化されますが、デフォルトの設定が使用中の Active Directory および Exchange の設定に対して理想的ではない場合があります。
- Connection データベースに保存されていて、Exchange へのアクセスに使用されていたユーザーパスワードは、Connection 8.5 では使用されなくなりました。Connection では、パスワードの代わりに Active Directory で作成した 1 つ以上のユニファイド メッセージング アカウントを使用して Exchange にアクセスします。

17. タスク 16. で単一受信トレイを設定し、完全な単一受信トレイ機能を使用したい場合: ワークステーションで、Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook Release 8.5 をインストールするか、これにアップグレードし、ViewMail を Exchange で Connection ボイス メッセージにアクセスするように設定します。

Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換 (特定のサーバのみ)



(注)

アップグレードするサーバでメモリのアップグレードもハードディスクの交換も必要ない場合は、この項を省略してください。

Cisco Unity Connection 2.x を実行していて、Connection 8.x の使用にも適したサーバでも、Connection 8.x をサポートするためにハードディスクの交換が必要になる場合があります。さらに、一部の機能 (たとえばサイト内またはサイト間ネットワークなど) をアップグレードしたサーバに追加する場合、メモリの増設が必要になることもあります。

使用している Connection サーバの詳細については、『*Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html) で該当するサーバに適用される表を参照してください。



警告

オン/オフ スイッチのあるシステムで作業を始める場合は、はじめに電源スイッチをオフにし、電源コードのプラグを抜いてください。ステートメント 1



警告

シャーシを開ける前に、電話網電圧に接触しないように電話網ケーブルの接続を切断します。ステートメント 2



警告

この装置の設置および保守作業は、AS/NZS 3260 Clause 1.2.14.3 Service Personnel に定められている保守担当者が行う必要があります。ステートメント 88



警告

作業中は、カードの静電破壊を防ぐため、必ず静電気防止用リストストラップを着用してください。感電する危険があるので、手や金属工具がバックプレーンに直接触れないようにしてください。ステートメント 94



警告

この製品には安全カバーが不可欠です。安全カバーを設置していない状態で装置を操作しないでください。安全カバーが正しく設置されていない装置を扱うと、安全認可が無効になり、火災や電気による事故を引き起こすおそれがあります。ステートメント 117



警告

雷が発生しているときは、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行わないでください。ステートメント 1001



警告

必ず設置手順を読んでから、システムを電源に接続してください。ステートメント 1004



警告

ラックに装置を取り付けたり、ラック内の装置の保守作業を行ったりする場合は、事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次の注意事項を守ってください。

- ラックに設置する装置が 1 台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。
- ラックに他の装置も設置する場合は、最も重量のあるコンポーネントをラックの最下部に設置し、軽いものをラック上部に設置してください。
- ラックに安定器具が付属している場合は、その安定器具を取り付けてから、装置をラックに設置したり、ラック内の装置の保守作業を行ってください。ステートメント 1006



警告

バッテリーが適正に交換されなかった場合、爆発の危険があります。製造元が推奨するものと同じまたは同等のバッテリーだけを使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。ステートメント 1015



警告

この装置は、出入りが制限された場所に設置されることを想定しています。出入りが制限された場所とは、特殊なツール、ロックおよびキー、または他のセキュリティ手段を使用しないと入室できない場所を意味します。ステートメント 1017



警告

感電事故を防ぐため、Safety Extra-low Voltage (SELV; 安全超低電圧) 回路を Telephone-Network Voltage (TNV; 電話網電圧) 回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路、WAN ポートには TNV 回路が使用されています。LAN ポートおよび WAN ポートによっては、どちらも RJ-45 コネクタが使用されている場合があります。ケーブルを接続するときは注意してください。ステートメント 1021



警告

火災の危険性を抑えるため、No.26 AWG 以上の通信回線コードだけを使用してください。ステートメント 1023



警告

この装置はアース接続する必要があります。絶対にアース導体を破損させたり、アース線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。ステートメント 1024



警告

ブランクの前面プレートおよびカバー パネルには、3 つの重要な役割があります。シャーシ内の危険な電圧および電流による感電を防ぐこと、他の装置への EMI の影響を防ぐこと、およびシャーシ内の空気の流れを適切な状態に保つことです。必ずすべてのカード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーをスロットに正しく取り付けられた状態で、システムを運用してください。ステートメント 1029



警告

この装置の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030



警告

この製品を廃棄処分する際には、各国の法律および規制に従って取り扱ってください。ステートメント 1040

上記の安全上の警告の翻訳については、『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html) を参照してください。

メモリをアップグレードする、またはハードディスクを交換するには (特定のサーバのみ)

ステップ 1 カバーを取り外します。

ステップ 2 メモリを増設しない場合は、[ステップ 3](#) に進みます。

サーバ モデルに応じて、メモリ モジュールを適切なスロットまたは場所に取り付けます。詳細については、『*Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List*』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html) を参照してください。



注意

新しいメモリ モジュールを誤ったスロットに取り付けると、サーバとオペレーティング システムがそのモジュールを認識しない場合や、Cisco Unity Connection のパフォーマンスが低下する場合があります。

ステップ 3 ハードディスクを交換しない場合は、[ステップ 4](#) に進みます。

サーバのハードディスクをすべて交換します。



注意

既存のハードディスクを取り外し、それと同じ台数のハードディスクを取り付ける必要があります。台数が異なると、Cisco Unity Connection のインストールが失敗します。

- a. サーバに設置されているハードディスクの現在の場所 (ハードディスクとハードディスク スロットの対応関係を含む) を書き留めます。交換に失敗し、現在の構成に戻す必要が生じた場合に、既存のハードディスクを現在の場所に戻す必要があるためです。
- b. サーバからドライブトレイを取り外します。

- c. ドライブトレイから古いハードディスクを取り外します。
- d. 新しいハードディスクをドライブトレイに装着します。
- e. ステップ a. で書き留めた場所にドライブトレイを再度取り付けます。

ステップ 4 カバーを再度取り付けます。

ローカル DVD による Connection 2.x ソフトウェアから 8.x へのアップグレード

ローカル DVD を実行して Connection をアップグレードするには、次のいずれかの方法を実行します。

- シスコから発送された DVD を使用する。
- Cisco.com から署名済みの .iso ファイルをダウンロードし、ダウンロードしたソフトウェアのディスクイメージを作成する。ダウンロードした .iso ファイルからディスクイメージを抽出し、それを DVD に書き込む。

ローカル DVD を使用して Connection 2.x ソフトウェアから 8.x にアップグレードするには

- ステップ 1** DVD を Cisco Unity Connection サーバのディスクドライブに挿入します。
- ステップ 2** Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- ステップ 3** [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] メニューから、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] を選択します。
- ステップ 4** [ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ページの [ソース (Source)] フィールドで、[DVD/CD] を選択します。
- ステップ 5** [ディレクトリ (Directory)] フィールドに、スラッシュ (/) を入力します。
- ステップ 6** [次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 7** インストールするアップグレードバージョンを選択し、[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 8** 次のページで、アップグレードの進行状況をモニタします。

このステップの途中で Web ブラウザを閉じた場合、[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ページを再度表示しようとする、次のメッセージが表示されることがあります。

警告: 別のセッションでソフトウェアをインストール中です。[制御の取得 (Assume Control)] をクリックしてインストールを継続します。

アップグレードのモニタリングを継続する場合は、[制御の取得 (Assume Control)] を選択します。

Real-Time Monitoring Tool でアップグレードをモニタすることもできます。

- ステップ 9** 適切な再起動の方法を選択します。

アップグレード後に、アップグレードされたパーティションを自動的に再起動する	[アップグレードされたパーティションをリブート (Reboot to Upgraded Partition)] を選択します。
アップグレード後に、アップグレードされたパーティションを後で手動で再起動する	[アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択します。

ステップ 10 [次へ (Next)] を選択します。

ステップ 11 **ステップ 9** で [アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択した場合は、アップグレード ソフトウェアのインストールが完了したら、[終了 (Finish)] を選択します。[アップグレードのステータス (Upgrade Status)] ウィンドウにアップグレード ログが表示されます。

[アップグレードされたパーティションをリブート (Reboot to Upgrade Partition)] を選択した場合は、次のことに注意してください。

- Connection サービスが停止します。
- 旧バージョンがインストールされているパーティションのデータが、新バージョンがインストールされているパーティションにコピーされます。データベース スキーマの変更に合わせてデータ フォーマットを更新する必要がある場合は、この時点で行われます。メッセージは共通パーティションに保存されているので、コピーされません。
- Connection サーバが再起動されて、新しいバージョンに切り替わります。



(注) **show cuc version** CLI コマンドを使用して、アップグレード ソフトウェアのインストールのステータスを確認できます。インストールが完了すると、アクティブでないパーティションにアップグレードされたソフトウェアがあり、アクティブなパーティションに古いソフトウェアがある状態になります。

ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバからの、Connection 2.x ソフトウェアから 8.x へのアップグレード

ネットワーク ロケーションから Connection をアップグレードするには、Cisco.com から署名済みの .iso ファイルをダウンロードし、その .iso ファイルを FTP または SFTP サーバにコピーします。Connection では、シスコから発送された DVD の内容や、ダウンロードした .iso ファイルから抽出した内容を FTP または SFTP サーバにコピーすることはできません。これは、改ざんされたソフトウェアを使用したアップグレードを予防するためです。

ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバから、Connection 2.x ソフトウェアを 8.x にアップグレードするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection サーバがアクセスできる FTP または SFTP サーバ上のフォルダにアップグレード ファイルをコピーします。
- ステップ 2** Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- ステップ 3** [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] メニューから、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] を選択します。
- ステップ 4** [ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ページの [ソース (Source)] フィールドで、[リモート ファイルシステム (Remote Filesystem)] を選択します。
- ステップ 5** [ディレクトリ (Directory)] フィールドに、アップグレード ファイルを格納したフォルダのパスを入力します。

アップグレード ファイルが Linux または UNIX サーバ上にある場合は、フォルダ パスの先頭にスラッシュ (/) を入力する必要があります (たとえば、アップグレード ファイルが upgrade フォルダにある場合は、/upgrade と入力する必要があります)。

アップグレードファイルが Windows サーバ上にある場合は、次のように FTP または SFTP サーバに適切な構文を使用する必要があります。

- パスの記述はスラッシュ (/) で開始し、その後のパスの区切りにもスラッシュを使用します。バック スラッシュ (\) は使用しません。
- パスの先頭部分は、サーバ上の FTP または SFTP のルート フォルダにする必要があります。したがって、ドライブ文字 (C: など) で始まる Windows の絶対パスは入力できません。

ステップ 6 [サーバ (Server)] フィールドに、サーバ名または IP アドレスを入力します。

ステップ 7 [ユーザ名 (User Name)] フィールドに、リモート サーバにログインするときに使用するエイリアスを入力します。

ステップ 8 [ユーザ パスワード (User Password)] フィールドに、リモート サーバにログインするときに使用するパスワードを入力します。

ステップ 9 [転送プロトコル (Transfer Protocol)] フィールドで、適切な転送プロトコルを選択します。

ステップ 10 [次へ (Next)] を選択します。

ステップ 11 インストールするアップグレード バージョンを選択し、[次へ (Next)] を選択します。

ステップ 12 次のページで、アップグレードの進行状況をモニタします。

このステップの途中でリモート サーバとの接続が失われた場合、またはブラウザを閉じた場合は、[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ページを再度表示しようとすると、次のメッセージが表示されることがあります。

警告: 別のセッションでソフトウェアをインストール中です。[制御の取得 (Assume Control)] をクリックしてインストールを継続します。

アップグレードのモニタリングを継続する場合は、[制御の取得 (Assume Control)] を選択します。

Real-Time Monitoring Tool でアップグレードをモニタすることもできます。

ステップ 13 適切な再起動の方法を選択します。

アップグレード後に、アップグレードされたパーティションを自動的に再起動する	[アップグレードされたパーティションをリブート (Reboot to Upgraded Partition)] を選択します。
アップグレード後に、アップグレードされたパーティションを後で手動で再起動する	[アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択します。

ステップ 14 [次へ (Next)] を選択します。

ステップ 15 **ステップ 13** で [アップグレード後にリブートしない (Do not reboot after upgrade)] を選択した場合は、アップグレードソフトウェアのインストールが完了したら、[終了 (Finish)] を選択します。[アップグレードのステータス (Upgrade Status)] ウィンドウにアップグレード ログが表示されます。

[アップグレードされたパーティションをリブート (Reboot to Upgrade Partition)] を選択した場合は、次のことに注意してください。

- Connection サービスが停止します。
- 旧バージョンがインストールされているパーティションのデータが、新バージョンがインストールされているパーティションにコピーされます。データベース スキーマの変更に合わせてデータフォーマットを更新する必要がある場合は、この時点で行われます。メッセージは共通パーティションに保存されているので、コピーされません。
- Connection サーバが再起動されて、新しいバージョンに切り替わります。



(注) **show cuc version** CLI コマンドを使用して、アップグレードソフトウェアのインストールのステータスを確認できます。インストールが完了すると、アクティブでないパーティションにアップグレードされたソフトウェアがあり、アクティブなパーティションに古いソフトウェアがある状態になります。

アップグレードしたバージョンの Connection 8.x ソフトウェアへの切り替え

アップグレードの終了時に、Connection がアップグレードされたパーティションに自動的に切り替えることを選択しなかった場合は、パーティションを切り替える準備が整った時点で、次の手順を実行します。

アップグレードしたバージョンの Connection 8.x ソフトウェアに切り替えるには

- ステップ 1 Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- ステップ 2 [設定 (Settings)] メニューから、[バージョン (Version)] を選択します。
- ステップ 3 [バージョン設定 (Version Settings)] ページで、[バージョンの切り替え (Switch Versions)] を選択します。次が実行されます。
 - Connection サービスが停止します。
 - 旧バージョンがインストールされているパーティションのデータが、新バージョンがインストールされているパーティションにコピーされます。データベーススキーマの変更に合わせてデータフォーマットを更新する必要がある場合は、この時点で行われます。メッセージは共通パーティションに保存されているので、コピーされません。
 - Connection サーバが再起動されて、新しいバージョンに切り替わります。

show cuc version CLI コマンドを使用して、アップグレードソフトウェアのインストールのステータスを確認できます。インストールが完了すると、アクティブでないパーティションにアップグレードされたソフトウェアがあり、アクティブなパーティションに古いソフトウェアがある状態になります。

Exchange 情報へのアクセス権を持つ Connection 8.0 ユーザの外部サービス アカウントにおける電子メール アドレスの調整

この項の手順は、Connection 2.x から Connection 8.0 にアップグレードする場合にのみ必要です（外部サービス アカウントのデータベース エントリが、バージョン 8.x に移行されます）。

Connection 2.x が Exchange の連絡先および予定表の情報にアクセスするように設定されている場合、Connection 8.0 の予定表連動機能の一部（ボイス メッセージを会議の開催者または参加者に送信する機能など）が正常に動作しないことがあります。

この問題を回避するために、Exchange の連絡先および予定表情報へのアクセス権を持つ各ユーザの外部サービス アカウントについて、次の手順を実行します。

Exchange 情報へのアクセス権を持つユーザの外部サービス アカウントにおいて電子メール アドレスを調整するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で、[ユーザ (Users)] を展開し、[ユーザ (Users)] を選択します。
- ステップ 2** [ユーザの検索 (Search Users)] ページで、ユーザのエイリアスを選択します。
- ステップ 3** [ユーザの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで、[編集 (Edit)] メニューから [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] を選択します。
- ステップ 4** [外部サービスのアカウント (External Service Accounts)] ページで、[サービス タイプ (Service Type)] が [Exchange 2007] または [Exchange 2003] になっていて、[予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] がイネーブルになっているサービスの表示名を選択します。
- ステップ 5** [外部サービスのアカウントの編集 (Edit External Service Account)] ページの [電子メール (Email Address)] フィールドに、ユーザの Exchange メールボックスのプライマリ SMTP アドレスを入力し、[保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 6** [テスト (Test)] を選択して、[電子メール (Email Address)] フィールドのエントリを確認します。
- ステップ 7** [サービス タイプ (Service Type)] が [Exchange 2007] または [Exchange 2003] になっていて、[予定表へのユーザ アクセス (User Access to Calendar)] がイネーブルになっている残りのユーザ サービスすべてについて、[ステップ 4](#)～[ステップ 6](#)を繰り返します。
- ステップ 8** Exchange の連絡先および予定表情報へのアクセス権を持つ残りのユーザすべてについて、この手順を繰り返します。



CHAPTER 3

Cisco Unity Connection 8.x サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す

この章は、次の項で構成されています。

- 「[Connection 8.x から非アクティブなパーティションのバージョンへの復帰について](#)」 (P.3-1)
- 「[Connection 8.x サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す](#)」 (P.3-3)
- 「[Connection 8.x クラスタ内のサーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す](#)」 (P.3-4)
- 「[Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x メンバー サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す](#)」 (P.3-5)
- 「[Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x サイト ゲートウェイ サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す](#)」 (P.3-6)

Connection 8.x から非アクティブなパーティションのバージョンへの復帰について

アップグレード後も、非アクティブなパーティションのソフトウェア バージョンに切り替えることにより、アップグレード前に実行していたソフトウェア バージョンに戻すことができます。



注意

非アクティブなパーティションのバージョンに戻すと、その後は最新バージョンに切り替えることができなくなります。最新バージョンにするには、このガイドの指示に従って、アップグレードを再インストールする必要があります。

非アクティブなパーティションのバージョンに戻すことにより、データおよびメッセージに次のような影響があります。

- 新しいバージョンにアップグレードしてから追加されたユーザは、非アクティブなパーティションのバージョンに戻すと、存在なくなります。新しいユーザを再度追加する必要があります。
- メッセージはすべて保持されます。ただし、アップグレード後に追加されたユーザは存在なくなるため、それらのユーザのメッセージは身元不明になります。身元不明メッセージは、配信不能メッセージ フォルダに移動されます。
- アップグレード後に、メールボックスをあるメールボックス ストアから別のメールボックス ストアに移動していた場合、アップグレード前のメールボックス ストアに戻されます。
- アップグレード後にメールボックス ストアを作成すると、新しいメールボックス ストアは削除されます。

- *Connection 8.5* のみ : 非アクティブなパーティションのバージョンは、単一受信トレイをサポートしません。次のことに注意してください。
 - Exchange のメールボックスと同期しているメッセージは、Connection および Exchange の両方に存在し続けますが、それぞれの関連付けはなくなります。メッセージは両方の場所から削除する必要があり、ステータスの変更（たとえば、未読から既読へ）、サブジェクト名への変更、および優先順位への変更はレプリケートされなくなります。Exchange におけるステータスの変更（たとえば未読から既読へ）は、メッセージ受信インジケータを変更しなくなります。
 - 非アクティブなパーティションで有効だったメッセージアクションは、引き続き有効になります。
 - Connection 8.5 以降に再度アップグレードする場合、両方に表示されるメッセージは、再び関連付けられます。Exchange からは削除されたが Connection には残っているメッセージは、Exchange メールボックスと再度同期します。
- 非アクティブなパーティションのバージョンがディスパッチ メッセージをサポートしていない場合（Connection 7.0(1) よりも前のすべてのバージョン）、新しいバージョンの Connection のディスパッチ メッセージは、旧バージョンの標準メッセージに変換されます。件名には「DISPATCH」の文字が残ります（ディスパッチ メッセージとは、コールハンドラまたはインタビュー ハンドラから同報リストに送られたメッセージで、グループ内の 1 ユーザのみが対応する必要があります。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』（http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html）の「Messaging in Cisco Unity Connection 8.x」の章の「Dispatch Messages」を参照してください）。
- メッセージの回収が設定されていても、非アクティブなパーティションのバージョンがメッセージの回収に対応していない場合は（Connection 8.x よりも前のすべてのバージョン）、新バージョンの Connection の送信済みアイテム フォルダ内のメッセージは削除されます。
送信済みアイテム フォルダは、メッセージの回収が設定後に初めてメッセージが送信された際に作成されます。メッセージの回収をサポートするバージョンに戻しても、送信済みアイテム フォルダが作成されない場合、送信済みアイテム フォルダ内のメッセージは、配信不能メッセージ フォルダ内に移動されます。
- 音声入力が設定されている場合、Connection 7.x 以前に戻し、その後 Connection 8.x に再度アップグレードすると、復帰および再アップグレードの前に残した音声入力メッセージに関する追加のプロンプトが再生されます。
転写された個々のボイス メッセージには、メッセージのテキストを含むテキスト ファイルが添付されています。添付ファイルを含むほとんどのボイス メッセージについては、Connection が「添付ファイルあり」のプロンプトを再生し、メッセージに添付ファイルがあることを通知します。「添付ファイルあり」のプロンプトは、添付ファイルがボイス メッセージを転写したテキストである場合は必要ないため、Connection は、転写されたボイス メッセージに関するこのプロンプトを再生しません。ただし、添付ファイルの内容が転写かどうかを追跡するフィールドは Connection 7.x 以前に存在していなかったため、前のバージョンに戻すと、既存のメッセージに関する情報は失われます。Connection 8.x に再度アップグレードすると、Connection は、復帰前に存在していた、添付ファイルを含むすべてのボイス メッセージ（添付ファイルが転写のものも含む）に対して「添付ファイルあり」のプロンプトを再生します。再アップグレード後に転写された新しいメッセージには、この問題は発生しません。
- 非アクティブなパーティションのバージョンが下書きメッセージに対応していない場合（Connection 8.x よりも前のすべてのバージョン）、新バージョンの Connection の下書きメッセージは削除されます。
下書きフォルダは、この機能の設定後に下書きメッセージが初めて保存される際に作成されます（ユーザが回線を切断するか、またはアプリケーションを終了した場合に、Connection が自動的に下書きメッセージを保存するようにするか、または Connection がユーザに下書きメッセージの保

存を許可するように設定する必要があります)。下書きメッセージをサポートするバージョンに戻しても、下書きフォルダが作成されない場合、下書きフォルダ内のメッセージは、配信不能メッセージフォルダ内に移動されます。

- Connection 2.x に戻す場合、メッセージの将来的な配信をサポートしていないため、将来の配信のためにキューに入っているメッセージは、ハードディスクから削除されませんが、配信もされず、送信者がアクセスすることもできません。

配信予定フォルダは、ユーザがメッセージに将来配信する予定であることをマーク付けした際に、初めて作成されます。将来的な配信をサポートするバージョンに戻しても配信予定フォルダが作成されない場合、新しいバージョンで配信予定フォルダに入るはずのメッセージは、配信不能メッセージフォルダ内に移動されます。

Connection 8.x サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す

この項の手順は、クラスタ内にはないサーバで、Connection サイトのメンバーサーバではなく、Connection サイト間、または Connection サイトと Cisco Unity サイト間のゲートウェイサーバではないサーバのみに使用できます。



注意

非アクティブなパーティションのバージョンに戻す作業は、必要な場合を除き、通常の業務時間内には行わないでください。バージョンを戻すと Connection サーバが再起動し、再起動が完了するまでの約 15 分間、Connection は動作しません。

Connection 8.x サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻すには

- ステップ 1** Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- ステップ 2** [設定 (Settings)] メニューから、[バージョン (Version)] を選択します。
[バージョン設定 (Version Settings)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [バージョンの切り替え (Switch Versions)] ボタンを選択します。
システムの再起動について確認すると、システムが再起動されます。処理が完了するまでに、最大で 15 分かかります。
- ステップ 4** バージョンの切り替えが正常に完了したことを確認します。
 - a. Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - b. [設定 (Settings)] メニューから、[バージョン (Version)] を選択します。[バージョン設定 (Version Settings)] ウィンドウが表示されます。
 - c. アクティブなパーティションで、適切な製品バージョンが実行されていることを確認します。
 - d. アクティブにしたサービスがすべて動作していることを確認します。
 - e. Cisco Unity Connection Administration にログインします。
 - f. 設定データが存在することを確認します。

Connection 8.x クラスタ内のサーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す

Connection クラスタ内のサーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻すには、次の 3 つの手順を実行します。

この項の手順は、Connection サイトのメンバー サーバではなく、Connection サイト間、または Connection サイトと Cisco Unity サイト間のゲートウェイ サーバではないサーバのみに使用できます。



注意

クラスタを正常に機能させるには、両方のサーバを復帰させ、データベース レプリケーションをリセットする必要があります。



注意

非アクティブなパーティションのバージョンに戻す作業は、必要な場合を除き、通常の業務時間内には行わないでください。バージョンを戻すと Connection サーバが再起動し、再起動が完了するまでの約 15 分間、Connection は動作しません。また、パブリッシャ サーバを戻している間にサブスクリバ サーバに残されたボイス メッセージは消去されます。

Connection クラスタ内のパブリッシャ サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻すには

- ステップ 1** Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- ステップ 2** [設定 (Settings)] メニューから、[バージョン (Version)] を選択します。
[バージョン設定 (Version Settings)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [バージョンの切り替え (Switch Versions)] ボタンを選択します。
システムの再起動について確認すると、システムが再起動されます。処理が完了するまでに、最大で 15 分かかります。
- ステップ 4** バージョンの切り替えが正常に完了したことを確認します。
 - a. Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - b. [設定 (Settings)] メニューから、[バージョン (Version)] を選択します。[バージョン設定 (Version Settings)] ウィンドウが表示されます。
 - c. アクティブなパーティションで、適切な製品バージョンが実行されていることを確認します。
 - d. アクティブにしたサービスがすべて動作していることを確認します。
 - e. Cisco Unity Connection Administration にログインします。
 - f. 設定データが存在することを確認します。

Connection 8.x クラスタ内のサブスクリバ サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻すには

- ステップ 1** Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- ステップ 2** [設定 (Settings)] メニューから、[バージョン (Version)] を選択します。[バージョン設定 (Version Settings)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 3** [バージョンの切り替え (Switch Versions)] ボタンを選択します。
- システムの再起動について確認すると、システムが再起動されます。処理が完了するまでに、最大で 15 分かかります。
- ステップ 4** バージョンの切り替えが正常に完了したことを確認します。
- サブスクライバ サーバで、Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - [設定 (Settings)] メニューから、[バージョン (Version)] を選択します。[バージョン設定 (Version Settings)] ウィンドウが表示されます。
 - アクティブなパーティションで、適切なバージョンが実行されていることを確認します。
 - アクティブにしたサービスがすべて動作していることを確認します。

サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻した後で、Connection 8.x クラスタのデータベース レプリケーションをリセットするには

パブリッシャ サーバで、`utils dbreplication reset all` CLI コマンドを実行します。

Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x メンバー サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す

サイト間リンクが Cisco Unity Connection サイトと Cisco Unity サイト間または 2 つの Connection サイト間に設定されている場合は、サイト内の Connection メンバー サーバまたはクラスタを非アクティブなパーティションのバージョンの Connection に戻すために、次のタスクを実行します。



注意

非アクティブなパーティションのバージョンに戻す作業は、必要な場合を除き、通常の業務時間内には行わないでください。バージョンを戻すと Connection サーバが再起動し、再起動が完了するまでの約 15 分間、Connection は動作しません。

- このサーバを、アクティブ パーティション上のバージョンにアップグレードする前に Connection サイトに追加した場合、タスク 2. に進んでください。メンバー サーバのバージョンを戻す前に、このメンバー サーバを削除する必要はありません。
- このサーバを、アクティブ パーティション上のバージョンにアップグレードしてから Connection サイトに追加した場合は、サイトからこのメンバー サーバを削除してください。クラスタが構成されている場合は、このタスクをパブリッシャ サーバ上で実行します。詳細については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x」の章の「Removing a Location From a Cisco Unity Connection Site」を参照してください。
- クラスタが構成されていない場合は、サーバのバージョンを戻します。「Connection 8.x サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す」(P.3-3) を参照してください。

クラスタが構成されている場合は、両方のサーバのバージョンを戻して、データベース レプリケーションをリセットします。「[Connection 8.x クラスタ内のサーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す](#)」(P.3-4) を参照してください。

3. タスク 1. で Connection サイトからサーバを削除した場合で、戻したバージョンがネットワークをサポートし、そのサーバを Cisco Voicemail Organization に追加したい場合は、ネットワークを再度セットアップしてください。『*Networking Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Setting Up Networking Between Cisco Unity Connection 8.x Servers](#)」の章を参照してください。

Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x サイト ゲートウェイ サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す

サイト間リンクが Cisco Unity Connection サイトと Cisco Unity サイト間または 2 つの Connection サイト間に設定されている場合は、Connection サイト ゲートウェイ サーバまたはクラスタを非アクティブなパーティションのバージョンの Connection に戻すために、次のタスクを実行します。



注意

非アクティブなパーティションのバージョンに戻す作業は、必要な場合を除き、通常の業務時間内には行わないでください。バージョンを戻すと Connection サーバが再起動し、再起動が完了するまでの約 15 分間、Connection は動作しません。

1. このサーバを、アクティブ パーティション上のバージョンにアップグレードする前にサイト間リンクを設定した場合、タスク 4. に進んでください。バージョンを戻す前に、ゲートウェイ サーバを Connection サイトから削除する必要はありません。

このサーバを、アクティブ パーティション上のバージョンにアップグレードしてからサイト間リンクを設定した場合で、Connection サイトのゲートウェイが他の Connection サイトにリンクしている場合は、2 つの Connection サイトの間のサイト間リンクを削除します。クラスタが構成されている場合は、このタスクをパブリッシュ サーバ上で実行します。詳細については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章の「[Removing an Intersite Link Between Two Cisco Unity Connection Sites](#)」を参照してください。

このサーバを、アクティブ パーティション上のバージョンにアップグレードしてからサイト間リンクを設定した場合で、Connection サイトのゲートウェイが Cisco Unity サイトにリンクしている場合は、Connection サイトと Cisco Unity サイトの間のサイト間リンクを削除します。クラスタが構成されている場合は、このタスクをパブリッシュ サーバ上で実行します。詳細については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章の「[Removing an Intersite Link Between a Cisco Unity Connection Site and a Cisco Unity Site](#)」を参照してください。

2. タスク 1. でサイト間リンクを削除した場合は、Connection Administration の [ツール (Tools)] > [タスク管理 (Task Management)] ページで、[削除済みリモート サイトに関連付けられているオブジェクトの削除 (Remove Objects Associated With Deleted Remote Sites)] タスクが数分以内に実行されるようにスケジュールを変更します (デフォルトでは、このタスクは毎日午後 10 時に実行されます)。

3. タスク 1. でサイト間リンクを削除した場合は、2 箇所の進行状況を確認します。
 - [削除済みリモート サイトに関連付けられているオブジェクトの削除 (Remove Objects Associated With Deleted Remote Sites)] タスクの [タスク定義の基本設定 (Task Definition Basics)] ページ。エラーが発生した場合、ここに表示されます。
 - [サイト間リンク (Intersite Links)] ページ (Connection Administration の [ネットワーク (Networking)] > [リンク (Links)] > [サイト間リンク (Intersite Links)])。このタスクが完了すると、このページからリンクが消去され、サーバはブリッジヘッドサーバではなくなります。



注意 タスクが完了するまでは、サーバの復帰を継続しないでください。

4. このサーバを、アクティブ パーティション上のバージョンにアップグレードする前に Connection サイトに追加した場合、タスク 5. に進んでください。メンバー サーバのバージョンを戻す前に、このメンバー サーバを削除する必要はありません。

このサーバを、アクティブ パーティション上のバージョンにアップグレードしてから Connection サイトに追加した場合は、サイトからこのメンバー サーバを削除してください。クラスタが構成されている場合は、このタスクをパブリッシャ サーバ上で実行します。詳細については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x」の章の「Removing a Location From a Cisco Unity Connection Site」を参照してください。
5. クラスタが構成されていない場合は、サーバのバージョンを戻します。「[Connection 8.x サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す](#)」(P.3-3) を参照してください。

クラスタが構成されている場合は、両方のサーバのバージョンを戻して、データベース レプリケーションをリセットします。「[Connection 8.x クラスタ内のサーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す](#)」(P.3-4) を参照してください。
6. タスク 1. でサイト間リンクを削除した場合、またはタスク 4. で Connection サイトからサーバを削除した場合で、戻したバージョンがネットワークをサポートし、そのサーバを Cisco Voicemail Organization に追加したい場合は、ネットワークを再度セットアップしてください。『*Networking Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の該当する章を参照してください。



CHAPTER 4

Cisco Unity Connection 1.x からバージョン 8.x への移行

この章は、次の項で構成されています。

- 「Connection 1.x からバージョン 8.x に移行するためのタスク リスト」 (P.4-1)
- 「Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換（特定のサーバのみ）」 (P.4-3)
- 「複数の Connection 8.x テンプレートを使用したユーザ アカウントの作成の準備」 (P.4-6)

Connection 1.x からバージョン 8.x に移行するためのタスク リスト

Connection 8.x に正しく移行するには、次の概略的なタスク リストを使用します。これらのタスクでは、次のように、このガイドおよびその他の Connection の資料にある詳細な手順について言及しています。正しく移行するためには、資料に従ってください。

1. 新しいサーバを導入するのではなく、現在の Connection サーバを再利用する場合は、該当する『Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List』を参照し、サーバに交換用ハードディスクまたは追加の RAM が必要かどうかを確認してください。この資料は、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html から入手可能です。
2. Connection サーバがバージョン 1.1 を実行している場合：バージョン 1.2 にアップグレードします。詳細については、『Cisco Unity Connection Reconfiguration and Upgrade Guide, Release 1.x』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/1x/installation/guide/inst.html) の「Upgrading Cisco Unity Connection or Voice-Recognition Software to the Shipping Version」の章を参照してください。
3. Cisco Unity Connection 8.x へのアップグレードに必要なライセンス ファイルを取得します。この段階では、ファイルをインストールしないでください。インストールは、以降の移行プロセスで行います。『System Administration Guide for Cisco Unity Connection』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x」の章を参照してください。
4. 『System Requirements for Cisco Unity Connection Release 8.x』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucsysreqs.html) の「Requirements for Migrating from Cisco Unity Connection 1.x to Version 8.x」を参照してください。

5. 出荷されているバージョンへのアップグレードに関するその他の情報については、該当するバージョンの『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』を参照してください。特に、「Installation and Upgrade Information」の項の情報に注意してください。リリース ノートは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html から入手可能です。
6. 次のツールをダウンロードします。
 - Connection 1.x Disaster Recovery ツール。このツールは、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/CxN/DIRT/DIRT.html> から入手可能です。
 - COBRAS。このツールは、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html> から入手可能です。
7. タスク 6. でダウンロードしたツールをインストールします
8. Connection 1.x Disaster Recovery ツールを使用してサーバのバックアップを行います。このバックアップは、Connection 8.x システムにデータを復元するためには使用されません。このバックアップは、必要に応じて Connection 1.2 に戻せるようにするためのものです。



(注) Connection 1.x Disaster Recovery ツールは、Connection 2.x 以降で使用可能な Disaster Recovery System とは異なります。

9. COBRAS を使用し、Connection データとメッセージをエクスポートします。詳細については、COBRAS のヘルプ (<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html>) を参照してください。
10. 追加のメモリまたはハードディスクの交換が必要な場合：メモリを追加するか、またはハードディスクを交換します。このガイドの「[Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換 \(特定のサーバのみ\)](#)」(P.4-3) を参照してください。
11. Connection 8.x をインストールし、設定を開始します。『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System (Without a Connection Cluster)」の Part 1 から Part 3 を参照してください。
12. システムにユーザとコール管理データを入力します。次の資料を参照してください。
 - COBRAS のヘルプ (<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html>)。
 - 『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System (Without a Connection Cluster)」の「Part 4: Populating the System with User and Call Management Data」。インポートされるデータのタスクは省略します。
13. Connection 8.x の設定を完了します。『*Installation Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System (Without a Connection Cluster)」の Part 5 から Part 9 を参照してください。

Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換（特定のサーバのみ）

**(注)**

アップグレードするサーバでメモリのアップグレードもハードディスクの交換も必要ない場合は、この項を省略してください。

Cisco Unity Connection の使用に適したサーバの一部では、次が必要になります。

- あらゆる構成で Connection 8.x を実行するためのメモリ アップグレード。
- 音声認識およびサイト内またはサイト間ネットワーキングの両方が設定された場合に、指定された数の Connection ユーザをサポートするためのメモリ アップグレード。
- Connection クラスタをサポートするためのハードディスク交換。

『Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html) で該当するサーバに適用される表を参照してください。

**警告**

オン/オフ スイッチのあるシステムで作業を始める場合は、はじめに電源スイッチをオフにし、電源コードのプラグを抜いてください。ステートメント 1

**警告**

シャーシを開ける前に、電話網電圧に接触しないように電話網ケーブルの接続を切断します。ステートメント 2

**警告**

この装置の設置および保守作業は、AS/NZS 3260 Clause 1.2.14.3 Service Personnel に定められている保守担当者が行う必要があります。ステートメント 88

**警告**

作業中は、カードの静電破壊を防ぐため、必ず静電気防止用リストストラップを着用してください。感電する危険があるので、手や金属工具がバックプレーンに直接触れないようにしてください。ステートメント 94

**警告**

この製品には安全カバーが不可欠です。安全カバーを設置していない状態で装置を操作しないでください。安全カバーが正しく設置されていない装置を扱うと、安全認可が無効になり、火災や電気による事故を引き起こすおそれがあります。ステートメント 117

**警告**

雷が発生しているときは、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行わないでください。ステートメント 1001

**警告**

必ず設置手順を読んでから、システムを電源に接続してください。ステートメント 1004



警告

ラックに装置を取り付けたり、ラック内の装置の保守作業を行ったりする場合は、事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次の注意事項を守ってください。

- ラックに設置する装置が 1 台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。
- ラックに他の装置も設置する場合は、最も重量のあるコンポーネントをラックの最下部に設置し、軽いものをラック上部に設置してください。
- ラックに安定器具が付属している場合は、その安定器具を取り付けてから、装置をラックに設置したり、ラック内の装置の保守作業を行ってください。ステートメント 1006



警告

バッテリーが適正に交換されなかった場合、爆発の危険があります。製造元が推奨するものと同じまたは同等のバッテリーだけを使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。ステートメント 1015



警告

この装置は、出入りが制限された場所に設置されることを想定しています。出入りが制限された場所とは、特殊なツール、ロックおよびキー、または他のセキュリティ手段を使用しないと入室できない場所を意味します。ステートメント 1017



警告

感電事故を防ぐため、Safety Extra-low Voltage (SELV; 安全超低電圧) 回路を Telephone-Network Voltage (TNV; 電話網電圧) 回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路、WAN ポートには TNV 回路が使用されています。LAN ポートおよび WAN ポートによっては、どちらも RJ-45 コネクタが使用されている場合があります。ケーブルを接続するときは注意してください。ステートメント 1021



警告

火災の危険性を抑えるため、No.26 AWG 以上の通信回線コードだけを使用してください。ステートメント 1023



警告

この装置はアース接続する必要があります。絶対にアース導体を破損させたり、アース線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。ステートメント 1024



警告

ブランクの前面プレートおよびカバー パネルには、3 つの重要な役割があります。シャーシ内の危険な電圧および電流による感電を防ぐこと、他の装置への EMI の影響を防ぐこと、およびシャーシ内の空気の流れを適切な状態に保つことです。必ずすべてのカード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーをスロットに正しく取り付けられた状態で、システムを運用してください。ステートメント 1029



警告

この装置の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030



警告

この製品を廃棄処分する際には、各国の法律および規制に従って取り扱ってください。ステートメント 1040

上記の安全上の警告の翻訳については、『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html) を参照してください。

Connection 8.x をサポートするためにメモリをアップグレードする、またはハードディスクを交換するには (特定のサーバのみ)

ステップ 1 カバーを取り外します。

ステップ 2 メモリを増設しない場合は、**ステップ 3** に進みます。

サーバモデルに応じて、メモリ モジュールを適切なスロットまたは場所に取り付けます。詳細については、『*Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List*』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html) を参照してください。



注意

新しいメモリ モジュールを誤ったスロットに取り付けると、サーバとオペレーティング システムがそのモジュールを認識しない場合や、Cisco Unity Connection のパフォーマンスが低下する場合があります。

ステップ 3 ハードディスクを交換しない場合は、**ステップ 4** に進みます。



注意

既存のハードディスクを取り外し、それと同じ台数のハードディスクを取り付ける必要があります。台数が異なると、Cisco Unity Connection のインストールが失敗します。

ハードディスクを交換します。

- a. サーバに設置されているハードディスクの現在の場所 (ハードディスクとハードディスク スロットの対応関係を含む) を書き留めます。交換に失敗し、現在の構成に戻す必要が生じた場合に、既存のハードディスクを現在の場所に戻す必要があるためです。
- b. サーバからドライブ トレイを取り外します。
- c. ドライブ トレイから古いハードディスクを取り外します。
- d. 新しいハードディスクをドライブ トレイに装着します。
- e. ステップ a. で書き留めた場所にドライブ トレイを再度取り付けます。

ステップ 4 カバーを再度取り付けます。

複数の Connection 8.x テンプレートを使用したユーザ アカウントの作成の準備

Connection 1.x からユーザ データをエクスポートするユーティリティでは、すべてのユーザのデータを含む 1 つの CSV ファイルが作成され、このデータを Connection 8.x にインポートするユーティリティでは、同じテンプレートを使用してすべての新しいユーザ アカウントが作成されます。2 つ以上のテンプレートを使用してユーザ アカウントを作成したい場合は、1 つのテンプレートにつき 1 つのファイルになるよう、CSV ファイルを分割できます (ユーザをテンプレート間で分割する方法によっては、すべてのユーザ アカウントを同じテンプレートで作成してから、個別にユーザ設定を更新したほうが時間を短縮できる場合もあります)。

複数の Connection 8.x テンプレートを使用してユーザ アカウントを作成するために複数の CSV ファイルを準備するには

- ステップ 1** Connection 1.x のデータをエクスポートした場所に、使用するテンプレートごとにサブフォルダを作成します。各サブフォルダに対応するテンプレートと同じ名前を付けます。
- ステップ 2** 各サブフォルダに CSV ファイルをコピーします。元の CSV ファイルと同じファイル名を使用しなければ、インポートに失敗します。
- ステップ 3** 録音名 WAV ファイルを Connection 1.x のデータのエクスポート先から、[ステップ 1](#) で作成した各サブフォルダにすべてコピーします。ファイル名の形式は、<user_alias>_VOICE_NAME.wav です。
CSV ファイルからユーザ データをインポートすると、対応する録音名 WAV ファイルも一緒にインポートされます。インポート ユーティリティは、これらのファイルをインポート元の CSV ファイルを含むフォルダのみから検索します。
- ステップ 4** 各サブフォルダの CSV ファイルを開き、対応するテンプレートを使用してインポートしないユーザの行を削除します。

たとえば、SalesStaffTemplate フォルダの CSV ファイルを編集している場合は、SalesStaffTemplate を使用して作成しないユーザの行をすべて削除します。



CHAPTER 5

フラッシュ カットオーバーを使用した Cisco Unity 4.0(5) 以降から Cisco Unity Connection 8.x への移行

この章は、次の項で構成されています。

- 「Cisco Unity から Connection 8.x へのフラッシュ カットオーバーの概要」 (P.5-1)
- 「フラッシュ カットオーバーを使用して Cisco Unity 4.0(5) 以降から Connection 8.x に移行するためのタスク リスト」 (P.5-4)
- 「Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換 (特定のサーバのみ)」 (P.5-7)
- 「複数の Connection 8.x テンプレートを使用したユーザ アカウントの作成の準備」 (P.5-10)
- 「COBRAS を使用した、ユーザ データとメッセージの Connection 8.x へのインポート」 (P.5-11)
- 「Cisco Unity to Connection Migration Export ツールを使用した、ユーザ データとメッセージの Connection 8.x へのインポート」 (P.5-11)

Cisco Unity から Connection 8.x へのフラッシュ カット オーバーの概要

次の項を参照してください。

- 「フラッシュ カットオーバーを使用して Cisco Unity 4.0(5) 以降から Connection 8.x に移行するために使用するツールについて」 (P.5-2)
- 「移行されたメッセージによる Connection 8.x サーバ上の使用可能ディスク領域の超過」 (P.5-2)
- 「メッセージを移行する場合のメールボックスの同期の動作 (Connection 8.5 以降のみ)」 (P.5-3)
- 「Active Directory からの Cisco Unity データの削除」 (P.5-3)

フラッシュ カットオーバーを使用して Cisco Unity 4.0(5) 以降から Connection 8.x に移行するために使用するツールについて

Cisco Unity 4.0(5) 以降のシステムから Connection 8.x にユーザ データを移行し、必要に応じてボイス メッセージを移行するには、COBRAS (Cisco Objected Backup and Restore Application Suite) または Cisco Unity 4.x to Connection 2.x Migration Export ツールのいずれかを使用して Cisco Unity システム からデータとメッセージをエクスポートする必要があります。

COBRAS

COBRAS は、Cisco Unity to Connection Migration Export ツールよりも多くのデータをエクスポート します。また、COBRAS は Cisco Unity to Connection Migration Export ツールとは異なり、Secure Shell (SSH; セキュア シェル) サーバ アプリケーションを実行しているサーバを必要としません。

COBRAS と COBRAS のヘルプは、

<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html> から入手可能です。

Cisco Unity to Connection Migration Export ツール

Cisco Unity to Connection Migration Export ツールは、COBRAS で問題が生じた場合に備えたバック アップ移行手段として主に使用されます。しかし、このツールは Cisco Unity 4.0(5) 以降のデータと メッセージをインポートするために Secure Shell (SSH; セキュア シェル) サーバ アプリケーションを 実行しているサーバを必要とします。SSH サーバ アプリケーションの設定は、複雑で時間のかかる作 業になる場合があります。

Migration Export ツールとツールのヘルプは、

<http://www.ciscounitytools.com/Applications/CxN/UnityToConnectionMigrationExport/UnityToConnectionMigrationExport.html> から入手可能です。

移行されたメッセージによる Connection 8.x サーバ上の使用可能ディスク領域の超過

Cisco Unity から Connection へのメッセージの移行はしません。Connection サーバ上のハード ディスクが Cisco Unity から移行されたメッセージですぐに空きがなくなってしまうためです。Exchange と同様に、Connection はシングルインスタンス メッセージングをサポートしています。これは、メッ セージが同報リストに送信されると、1 つのコピーのみが保存されることを意味します。しかし、 COBRAS は移行の際にシングルインスタンス メッセージングを維持できないため、同報リストに送信 され、Connection に移行された各メッセージのコピーが、各受信者につき 1 つ Connection データベ ースに含まれます。たとえば、1 つの Cisco Unity ボイス メッセージを 10 人のメンバーがいる同報リス トに送信し、次にこのメッセージを Connection に移行すると、Connection データベースには 10 個の メッセージのコピーが含まれます。

同報リストへのメッセージをシングルインスタンス メッセージングから拡張した場合、すべてのボイス メッセージの合計サイズを予測できないため、問題がさらに複雑になります。このため、Connection サーバのハードディスクは移行されたメッセージでいっぱいになる可能性が大いにあります。

メッセージを移行する代わりに、Cisco Unity サーバを数週間実行させたままにし、移行の前に残され たメッセージにユーザがアクセスできるようにすることを推奨します。

COBRAS はセキュア メッセージ、ファクス、または受信確認を移行しません。

メッセージを移行する場合のメールボックスの同期の動作（Connection 8.5 以降のみ）

「移行されたメッセージによる Connection 8.x サーバ上の使用可能ディスク領域の超過」(P.5-2)でも説明したとおり、メッセージの移行は推奨されていません。ただし、Cisco Unity から Connection 8.5 以降にメッセージを移行する必要がある場合で、Connection と Exchange メールボックスの同期（単一受信トレイ）を設定する場合は、次のことに注意します。

- 移行されたメッセージは各ユーザの Connection メールボックスおよび Exchange メールボックスに表示されます。
- COBRAS は、移行されたメッセージの読み取り / 書き込みのステータスを維持します。メッセージが移行される前に、ユーザが Cisco Unity 内のメッセージを再生した場合、メッセージは Connection と Exchange のメールボックスの両方で読み取られます。
- 同じ Cisco Unity サブスクリバのメッセージを 2 回以上移行した場合、対応する Connection ユーザには、移行が実行されるたびに、移行された各メッセージのコピーがさらに 1 つずつ Connection と Exchange の両方に作成されます。

Cisco Unity サーバをユニファイド メッセージングとして設定する場合、次の動作が発生するため移行を推奨しません。

- 移行されたメッセージが 2 個ずつ各ユーザの Exchange メールボックスに表示される：単一受信トレイが設定されている場合の、Exchange のメールボックスで同期する元のメッセージと移行されたメッセージです。
- Exchange の元のメッセージの再生に Outlook を使用する場合（メッセージが受信された際に、Cisco Unity が Exchange に送信したメッセージ）、そのメッセージは Connection では未読のままになり、メッセージ受信インジケータはオンのままになります。これは移行されたメッセージに対してのみ発生します。移行されたメッセージ（単一受信トレイ機能により Exchange のメールボックスと同期されたメッセージ）を再生したり、移行後に受信したメッセージを再生すると、必要に応じて新しい内線番号のメッセージ受信インジケータがオフにされます。

メッセージを移行しなければならない唯一の設定：Cisco Unity サブスクリバのセキュア メッセージを設定しており、移行後に対応する Connection ユーザが Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook を使用して Cisco Unity サーバからメッセージを再生できるようにしたい場合。この設定では、Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook をバージョン 8.5 にアップグレードさせる必要もあります。これは、Cisco Unity ViewMail バージョン 8.0 が Connection のセキュア メッセージにアクセスできず、Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook バージョン 8.5 は Cisco Unity のセキュア メッセージにアクセスできないためです。

Active Directory からの Cisco Unity データの削除

Cisco Unity の設定によっては、移行が完了した後で Cisco Unity 固有の属性を Active Directory アカウントから削除するか、または Uninstall Unity ツール、Bulk Subscriber Delete ツール、または両方のツールを使用して Active Directory アカウントを削除することができます。Cisco Unity 固有の属性の削除または Active Directory アカウントの削除に使用する方法にかかわらず、Cisco Unity データを Connection に移行したら、サーバで Uninstall Unity を実行し、Active Directory から Cisco Unity オブジェクトを削除する必要があります。

フラッシュ カットオーバーによる移行およびユニファイド メッセージングの設定では、Uninstall Unity ユーティリティを使用して Cisco Unity 固有の属性を Active Directory アカウントから削除します。このツールは、現在のサーバをホームとするすべての Cisco Unity ユーザの Active Directory アカウントから Cisco Unity の属性を削除します。

Cisco Unity ユーザの社内フォレストで複数の Active Directory アカウントを作成したボイス メッセージ設定の場合、Cisco Unity 固有の属性だけでなく、Active Directory アカウントも削除する必要があります。Active Directory アカウントを削除するには、Tools Depot にある Bulk Subscriber Delete ツールを使用する必要があります。

別々のフォレストを作成したボイス メッセージ設定で Cisco Unity サーバ、ドメイン コントローラ、およびグローバル カタログ サーバにオペレーティング システムを再インストールする場合は、Active Directory の属性とアカウントを削除する必要はありません。

フラッシュ カットオーバーを使用して Cisco Unity 4.0(5) 以降から Connection 8.x に移行するためのタスク リスト

Connection 8.x に正しく移行するには、次の概略的なタスク リストを使用します。これらのタスクでは、次のように、このガイドおよびその他の Connection の資料にある詳細な手順について言及しています。正しく移行するためには、資料に従ってください。



(注)

段階的なデータの移動による Cisco Unity から Connection への移行については、「[段階的なデータの移動による Cisco Unity から Cisco Unity Connection 8.x への移行](#)」の章を参照してください。

1. 新しいサーバを導入するのではなく、現在の Cisco Unity サーバを再利用する場合は、該当する『*Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List*』を参照し、サーバに交換用ハードディスクまたは追加の RAM が必要かどうかを確認してください。この資料は、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html から入手可能です。
2. 再発行された Cisco Unity ライセンス ファイルをコピーまたは取得し、Connection アップグレード ライセンスを取得する：
 - a. Connection に対して Cisco Unity サーバを再利用するかどうかに応じて、Cisco Unity ライセンス ファイルをコピーするか、再発行されたライセンス ファイルを取得します。

新しいサーバをインストールせず に現在の Cisco Unity サーバを再 利用する	Cisco Unity ライセンス ファイルをネットワーク ロケーションにコピーします。この段階では、ライセンス ファイルをインストールしないでください。インストールは、以降の移行プロセスで行います。
新しいサーバを導入する	<ol style="list-style-type: none"> a. 新しい Cisco Unity Connection サーバの MAC アドレスで再発行された Cisco Unity ライセンス ファイルを取得します。『<i>System Administration Guide for Cisco Unity Connection</i>』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x」の章を参照してください。 b. 再発行されたライセンス ファイルをネットワーク ロケーションに保存します。この段階では、ライセンス ファイルをインストールしないでください。インストールは、以降の移行プロセスで行います。


- b. Connection アップグレード ライセンスを取得する (Connection 8.x を有効化し、Connection 固有の機能に必要)。

『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

3. 『*System Requirements for Cisco Unity Connection 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucsysreqs.html) の「Requirements for Migrating from Cisco Unity 4.0(5) or Later to Cisco Unity Connection Version 8.x」を参照してください。
 4. Cisco Unity Connection の出荷されているバージョンの詳細については、該当するバージョンの『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』を参照してください。特に、「Installation and Upgrade Information」の項の情報に注意してください。リリース ノートは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html から入手可能です。
 5. Cisco Unity サーバでバージョン 4.0(1) ～ 4.0(4) を実行している場合：Cisco Unity 4.0(5) 以降へのアップグレードに必要なソフトウェアをダウンロードします。詳細については、該当するリリース ノート (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicewsw/ps2237/prod_release_notes_list.html) でソフトウェアのダウンロードに関する項を参照してください。
 6. 次のツールをダウンロードします。
 - Cisco Unity Disaster Recovery ツール。このツールは、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/Unity/DIRT/DIRT.html> から入手可能です。
 - COBRAS。このツールは、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html> から入手可能です。
 - 任意：Cisco Unity to Connection Migration Export ツール。このツールは、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/CxN/UnityToConnectionMigrationExport/UnityToConnectionMigrationExport.html> から入手可能です。
 - Cisco Unity の属性とオブジェクトが社内ディレクトリに保存されている場合：Uninstall Unity ツール。
<http://ciscounitytools.com/Applications/Unity/UninstallUnity/UninstallUnity.html>
 7. ステップ 6. でダウンロードしたツールをインストールします。

Cisco Unity フェールオーバーが設定されている場合：

 - セカンダリ サーバに Cisco Unity の Disaster Recovery Backup ツールをインストールします。
 - アクティブなサーバがプライマリ サーバまたはセカンダリ サーバであるかどうかにかかわらず、その他のすべてのツールをアクティブなサーバにインストールします。
 8. Cisco Unity Disaster Recovery ツールを使用してサーバのバックアップを行います。このバックアップは、Connection 8.x システムにデータを復元するためには使用されません。このバックアップは、必要に応じて Cisco Unity に戻せるようにするためのものです。
 9. *Migration Export* ツールを使用するときに、Cisco Unity サーバにアクセスできるサーバに *Secure Shell (SSH; セキュア シェル)* サーバアプリケーションがあらかじめインストールされていない場合：SSH サーバアプリケーションをインストールします。Cisco Unity データを Connection 8.x にインポートする移行ツールは、エクスポートされたユーザ データとメッセージにアクセスするために SSH を使用します。
-  (注) テストの対象となったのは Windows の OpenSSH のみであり、その他の SSH アプリケーションを使用した移行時の問題がカスタマーによって報告されています。
10. 任意：Cisco Unity to Connection Migration Export ツールを使用し、Cisco Unity データとメッセージをエクスポートします。このツールによってエクスポートされたデータは、何らかの理由により COBRAS が失敗した場合のみ使用します。詳細については、ツールのヘルプ (<http://www.ciscounitytools.com/Applications/CxN/UnityToConnectionMigrationExport/UnityToConnectionMigrationExport.html>) を参照してください。

Cisco Unity サーバにアクセスできるサーバに Secure Shell (SSH; セキュア シェル) サーバ アプリケーションがインストールされている場合は、SSH サーバにエクスポートします。SSH サーバがない場合は、任意のネットワーク ロケーションにデータをエクスポートします。SSH サーバは必要に応じて後から設定できます。

11. Cisco Unity サーバでバージョン 4.0(1) ~ 4.0(4) を実行している場合: Cisco Unity 4.0(5) 以降にアップグレードします。詳細については、次の資料を参照してください。
 - Cisco Unity の該当するバージョンのリリース ノート (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_release_notes_list.html)。
 - 該当する『*Reconfiguration and Upgrade Guide*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps2237/prod_installation_guides_list.html) の該当するアップグレードに関する章
12. COBRAS を使用し、Cisco Unity データ (および、任意でメッセージ) をエクスポートします。詳細については、ツールのヘルプ (<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html>) を参照してください。

単一受信トレイを設定しており、Cisco Unity がユニファイド メッセージングとして設定されている場合、Exchange と同期している Connection ボイス メッセージが保存される場所は、現在 Cisco Unity ボイス メッセージが保存されているメールボックスと同じであるため、COBRAS で [新規ユーザ作成のバックアップから社内電子メールアドレスを含める (Include Corporate Email Addresses from Backup for New User Creation)] チェックボックスを選択することを推奨します。Connection サーバの Cisco Unity データを復元すると、Cisco Unity ユーザに関連付けられている Exchange の電子メールアドレスは、Cisco Unity Connection Administration の [ユーザの基本設定 (User Basics)] ページにある [社内電子メールアドレス (Corporate Email Address)] フィールドに保存されます。これにより、移行プロセスにおける単一受信トレイ機能の設定が容易になります。

13. 追加のメモリまたはハードディスクの交換が必要な場合: メモリを追加するか、またはハードディスクを交換します。「[Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換 \(特定のサーバのみ\)](#)」(P.5-7) を参照してください。
14. Connection 8.x をインストールし、設定を開始します。『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「[Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System \(Without a Connection Cluster\)](#)」の Part 1 から Part 3 を参照してください。
15. COBRAS を使用して Connection サーバに Cisco Unity データを復元します。次の資料を参照してください。
 - このガイドの「[COBRAS を使用した、ユーザ データとメッセージの Connection 8.x へのインポート](#)」(P.5-11)。
 - 『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「[Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System \(Without a Connection Cluster\)](#)」の「Part 4: Populating the System with User and Call Management Data」。

代わりに Migration Import ツールを使用してデータを復元する必要がある場合は、次の資料を参照してください。

- 『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html)
の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある
「[Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System \(Without a Connection Cluster\)](#)」の「Part 4: Populating the System with User and Call Management Data」。
 - 「[複数の Connection 8.x テンプレートをを使用したユーザ アカウントの作成の準備](#)」(P.5-10)
 - 「[Cisco Unity to Connection Migration Export ツールを使用した、ユーザ データとメッセージの Connection 8.x へのインポート](#)」(P.5-11)
16. Connection 8.x の設定を完了します。『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「[Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System \(Without a Connection Cluster\)](#)」の Part 5 から Part 9 を参照してください。



- (注) ライセンスをインストールする際、Connection クラスタを構成している場合は、パブリッシャサーバの MAC アドレスを含むライセンスをパブリッシャサーバにインストールする必要があります。サブスクライバサーバの MAC アドレスを含むライセンスはサブスクライバサーバにインストールする必要があります。

17. 移行が成功したかどうか、Connection でテストを実行します。
18. Cisco Unity の属性とオブジェクトが社内ディレクトリにある場合：Cisco Unity をアンインストールすると Active Directory から Cisco Unity の属性とオブジェクトが削除されます。詳細については、「[Active Directory からの Cisco Unity データの削除](#)」(P.5-3) を参照してください。

Connection 8.x をサポートするためのメモリ アップグレードまたはハードディスク交換（特定のサーバのみ）



- (注) アップグレードするサーバでメモリのアップグレードもハードディスクの交換も必要ない場合は、この項を省略してください。

Cisco Unity Connection の使用に適したサーバの一部では、Connection 8.x をサポートするか、または Connection 8.x の機能をサポートするために、メモリのアップグレードまたはハードディスクの交換が必要になります。

『*Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List*』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html) で該当するサーバに適用される表を参照してください。



警告

オン/オフ スイッチのあるシステムで作業を始める場合は、はじめに電源スイッチをオフにし、電源コードのプラグを抜いてください。ステートメント 1



警告

シャーシを開ける前に、電話網電圧に接触しないように電話網ケーブルの接続を切断します。ステートメント 2



警告

この装置の設置および保守作業は、AS/NZS 3260 Clause 1.2.14.3 Service Personnel に定められている保守担当者が行う必要があります。ステートメント 88



警告

作業中は、カードの静電破壊を防ぐため、必ず静電気防止用リストストラップを着用してください。感電する危険があるので、手や金属工具がバックプレーンに直接触れないようにしてください。ステートメント 94



警告

この製品には安全カバーが不可欠です。安全カバーを設置していない状態で装置を操作しないでください。安全カバーが正しく設置されていない装置を扱うと、安全認可が無効になり、火災や電気による事故を引き起こすおそれがあります。ステートメント 117



警告

雷が発生しているときは、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行わないでください。ステートメント 1001



警告

必ず設置手順を読んでから、システムを電源に接続してください。ステートメント 1004



警告

ラックに装置を取り付けたり、ラック内の装置の保守作業を行ったりする場合は、事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次の注意事項を守ってください。

- ラックに設置する装置が 1 台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。
- ラックに他の装置も設置する場合は、最も重量のあるコンポーネントをラックの最下部に設置し、軽いものをラック上部に設置してください。
- ラックに安定器具が付属している場合は、その安定器具を取り付けてから、装置をラックに設置したり、ラック内の装置の保守作業を行ってください。ステートメント 1006



警告

バッテリーが適正に交換されなかった場合、爆発の危険があります。製造元が推奨するものと同じまたは同等のバッテリーだけを使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。ステートメント 1015



警告

この装置は、出入りが制限された場所に設置されることを想定しています。出入りが制限された場所とは、特殊なツール、ロックおよびキー、または他のセキュリティ手段を使用しないと入室できない場所を意味します。ステートメント 1017



警告

感電事故を防ぐため、Safety Extra-low Voltage (SELV; 安全超低電圧) 回路を Telephone-Network Voltage (TNV; 電話網電圧) 回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路、WAN ポートには TNV 回路が使用されています。LAN ポートおよび WAN ポートによっては、どちらも RJ-45 コネクタが使用されている場合があります。ケーブルを接続するときは注意してください。ステートメント 1021



警告

火災の危険性を抑えるため、No.26 AWG 以上の通信回線コードだけを使用してください。ステートメント 1023



警告

この装置はアース接続する必要があります。絶対にアース導体を破損させたり、アース線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。ステートメント 1024



警告

ブランクの前面プレートおよびカバー パネルには、3 つの重要な役割があります。シャーシ内の危険な電圧および電流による感電を防ぐこと、他の装置への EMI の影響を防ぐこと、およびシャーシ内の空気の流れを適切な状態に保つことです。必ずすべてのカード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーをスロットに正しく取り付けられた状態で、システムを運用してください。ステートメント 1029



警告

この装置の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030



警告

この製品を廃棄処分する際には、各国の法律および規制に従って取り扱ってください。ステートメント 1040

上記の安全上の警告の翻訳については、『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection*』
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html)
を参照してください。

Connection 8.x をサポートするためにメモリをアップグレードする、またはハードディスクを交換するには (特定のサーバのみ)

ステップ 1 カバーを取り外します。

ステップ 2 メモリを増設しない場合は、**ステップ 3** に進みます。

サーバ モデルに応じて、メモリ モジュールを適切なスロットまたは場所に取り付けます。詳細については、『*Cisco Unity Connection 8.<x> Supported Platforms List*』
(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html) を参照してください。



注意

新しいメモリ モジュールを誤ったスロットに取り付けると、サーバとオペレーティング システムがそのモジュールを認識しない場合や、Cisco Unity Connection のパフォーマンスが低下する場合があります。

ステップ 3 ハードディスクを交換しない場合は、**ステップ 4** に進みます。



注意

既存のハードディスクを取り外し、それと同じ台数のハードディスクを取り付ける必要があります。台数が異なると、Cisco Unity Connection のインストールが失敗します。

ハードディスクを交換します。

- a. サーバに設置されているハードディスクの現在の場所（ハードディスクとハードディスク スロットの対応関係を含む）を書き留めます。交換に失敗し、現在の構成に戻す必要が生じた場合に、既存のハードディスクを現在の場所に戻す必要があるためです。
- b. サーバからドライブトレイを取り外します。
- c. ドライブトレイから古いハードディスクを取り外します。
- d. 新しいハードディスクをドライブトレイに装着します。
- e. ステップ a. で書き留めた場所にドライブトレイを再度取り付けます。

ステップ 4 カバーを再度取り付けます。

複数の Connection 8.x テンプレートを使用したユーザ アカウントの作成の準備

Cisco Unity 4.0(5) 以降からユーザ データをエクスポートするユーティリティでは、すべてのユーザのデータを含む 1 つの CSV ファイルが作成され、このデータを Connection 8.x にインポートするユーティリティでは、同じテンプレートを使用してすべての新しいユーザ アカウントが作成されます。2 つ以上のテンプレートを使用してユーザ アカウントを作成したい場合は、1 つのテンプレートにつき 1 つのファイルになるよう、CSV ファイルを分割できます（ユーザをテンプレート間で分割する方法によっては、すべてのユーザ アカウントを同じテンプレートで作成してから、個別にユーザ設定を更新したほうが時間を短縮できる場合もあります）。

複数の Connection 8.x テンプレートを使用してユーザ アカウントを作成するために複数の CSV ファイルを準備するには

- ステップ 1** Cisco Unity 4.0(5) 以降のデータをエクスポートした場所に、使用するテンプレートごとにサブフォルダを作成します。各サブフォルダに対応するテンプレートと同じ名前を付けます。
- ステップ 2** 各サブフォルダに CSV ファイルをコピーします。元の CSV ファイルと同じファイル名を使用しなければ、インポートに失敗します。
- ステップ 3** 録音名 WAV ファイルを Cisco Unity 4.0(5) 以降のデータのエクスポート先から **ステップ 1** で作成した各サブフォルダにすべてコピーします。ファイル名の形式は、<user_alias>_VOICE_NAME.wav です。
CSV ファイルからユーザ データをインポートすると、対応する録音名 WAV ファイルも一緒にインポートされます。インポート ユーティリティは、これらのファイルをインポート元の CSV ファイルを含むフォルダのみから検索します。
- ステップ 4** 各サブフォルダの CSV ファイルを開き、対応するテンプレートを使用してインポートしないユーザの行を削除します。

たとえば、SalesStaffTemplate フォルダの CSV ファイルを編集している場合は、SalesStaffTemplate を使用して作成しないユーザの行をすべて削除します。

COBRAS を使用した、ユーザ データとメッセージの Connection 8.x へのインポート

ユーザ データ、および必要に応じてメッセージを Connection にインポートするための詳細については、COBRAS のヘルプ (<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html>) を参照してください。

Cisco Unity to Connection Migration Export ツールを使用した、ユーザ データとメッセージの Connection 8.x へのインポート



(注)

COBRAS ツールを使用してデータをエクスポートした場合は、データとメッセージのインポートについて、COBRAS のヘルプ (<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html>) を参照してください。

ユーザ データとメッセージの両方をエクスポートした場合は、メッセージをインポートする前にユーザ データをインポートする必要があります。



注意

Cisco Unity Web アプリケーションのパスワードは Active Directory にあるため、エクスポートできません。データをインポートして新しいユーザ アカウントを作成する場合は、すべてのアカウントに同じパスワードが設定されます。このパスワードは、データをインポートしたときに指定したテンプレートのパスワードです。

ユーザ データを Cisco Unity Connection 8.x にインポートするときに、ユーザの移行ユーティリティでは、パスワードが Connection クレデンシャル ポリシーで指定されたパスワード要件を満たしているかどうかを確認されません。ユーザが初めて電話を使用して Connection 8.x にログインするか、Web ツールにログインするときにパスワードの変更を要求されます。クレデンシャル ポリシーによって、パスワード要件が適用されます。インポートしたユーザ データに空白のパスワードが含まれている場合、これらの新しいユーザ アカウントは選択したテンプレートのデフォルトのパスワードを使用して作成されます。

この項は、ユーザ データをインポートする手順とメッセージをインポートする手順の 2 つの手順で構成されています。

Cisco Unity to Connection Migration Export ツールを使用してユーザ データを Connection 8.x にインポートするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で [ツール (Tools)]、[移行ユーティリティ (Migration Utilities)] の順に展開し、[ユーザの移行 (Migrate Users)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ名または IP アドレス (Server Name or IP Address)] フィールドに、Cisco Unity ユーザ データをコピーした SSH サーバの名前または IP アドレスを入力します。
- ステップ 3** [パス名 (Path Name)] フィールドに、インポートするユーザ データを含むフォルダへのパスを入力します。

パスの形式は、そのフォルダにアクセスするために SSH サーバ アプリケーションを設定した方法によって異なります。

ステップ 4 [ユーザ名 (User Name)] フィールドと [パスワード (Password)] フィールドに、データをエクスポートしたサーバとファイルにアクセスするために必要な権限のあるアカウントのアカウント名とパスワードを入力します。

ステップ 5 [ユーザ テンプレート (User Template)] で、インポートしたデータで作成するすべてのユーザに適用する設定を含むテンプレートを選択します。

ステップ 6 [失敗したオブジェクトのファイル名 (Failed Objects Filename)] フィールドにログ ファイルのファイル名を入力します。Connection は、データをインポートできなかったユーザに関する情報を指定されたファイルに保存します。

ステップ 7 [送信 (Submit)] を選択します。

インポートが完了すると、[ステータス (Status)] に「一括管理ツールが完了しました (Bulk Administration Tool completed)」というメッセージのほか、インポートに成功したユーザ数とインポートに失敗したユーザ数が表示されます。

ステップ 8 ユーザのインポートに失敗した場合は、作成できなかったユーザ アカウントの情報について [ステップ 6](#) で指定したファイルを確認し、必要に応じてエラーを修正します。

たとえば、オペレータと UndeliverableMessagesMailbox のエラーなど、すべてのバージョンの Connection に共通するアカウントのエラーは無視してかまいません。

インポートに失敗したアカウントの数が少ない場合は、Cisco Unity Connection Administration で失敗したアカウントを手動で作成したほうが時間を短縮できる場合もあります。



注意

アカウントを手動で作成し、Cisco Unity からエクスポートしたメッセージをインポートする場合は、各アカウントに対応する Cisco Unity アカウントと同一のエイリアスと SMTP アドレスを指定する必要があります。新しいアカウントに異なるエイリアスまたは SMTP アドレスを指定すると、Connection 8.x はインポートされたメッセージを新しいアカウントと関連付けられなくなります。

ステップ 9 必要に応じて、インポートできないユーザ データを修正し、再びインポートします。

- a. ログ ファイルをローカルに保存します。インポートできなかったユーザの行のみが含まれるこのファイルは、[ステップ 6](#) で [失敗したオブジェクトのファイル名 (Failed Objects Filename)] フィールドで指定したファイルです。
- b. ログ ファイルのデータを修正します。
- c. ログ ファイルの名前を UnityMigrationOutput.csv から、インポート元の CSV ファイルと一致する名前に変更します。
- d. 名前を変更したログ ファイルをインポート元の CSV ファイルを含むフォルダにコピーし、元の CSV ファイルを上書きします。
- e. すべてのアカウントのインポートに成功するまで、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 8](#) を繰り返します。



注意

ユーザ データと一緒にメッセージもエクスポートした場合は、すべてのユーザ アカウントの作成に成功した後にメッセージをインポートしないと、メッセージのインポートに失敗します。

- ステップ 10** 複数のテンプレートを使用してインポートできるように複数の CSV ファイルを作成した場合は、「複数の Connection 8.x テンプレートを使用してユーザ アカウントを作成するために複数の CSV ファイルを準備するには」(P.5-10) の手順で作成した残りの各 CSV ファイルに対してステップ 2 ～ ステップ 8 を繰り返します。

Cisco Unity to Connection Migration Export ツールを使用してメッセージを Connection 8.x にインポートするには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Administration で [ツール (Tools)]、[移行ユーティリティ (Migration Utilities)] の順に展開し、[メッセージの移行 (Migrate Messages)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ名または IP アドレス (Server Name or IP Address)] フィールドに、Cisco Unity ユーザ データとメッセージをエクスポートした SSH サーバの名前または IP アドレスを入力します。
- ステップ 3** [パス名 (Path Name)] フィールドに、インポートするメッセージを含むフォルダへのパスを入力します。パスの形式は、そのフォルダにアクセスするために SSH サーバ アプリケーションを設定した方法によって異なります。
- ステップ 4** [ユーザ名 (User Name)] フィールドと [パスワード (Password)] フィールドに、データをエクスポートしたサーバとファイルにアクセスするために必要な権限のあるアカウントのアカウント名とパスワードを入力します。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] を選択します。
- インポートが完了すると、[ステータス (Status)] に「一括管理ツールが完了しました (Bulk Administration Tool completed)」というメッセージのほか、移行されたメッセージの数が表示されます。
-



CHAPTER 6

段階的なデータの移動による Cisco Unity から Cisco Unity Connection 8.x への移行

この章は、次の項で構成されています。

- 「Cisco Unity から Cisco Unity Connection 8.x への段階的な移行の概要」 (P.6-1)
- 「段階的なデータの移動により Cisco Unity から Connection 8.x に移行するためのタスク リスト」 (P.6-4)

Cisco Unity から Cisco Unity Connection 8.x への段階的な移行の概要

ユーザやその他のデータを Cisco Unity から Cisco Unity Connection へ段階的に移行する前に、次の移行に関する概念および手順についての資料を参照してください。

- Connection ネットワーキングの設定に関する資料。『*Networking Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の次の章を参照してください。
 - 「Overview of Networking Concepts in Cisco Unity Connection 8.x」
 - 「Setting Up Networking Between Cisco Unity and Cisco Unity Connection 8.x Servers」
- データの移行に使用する COBRAS (Cisco Unified Backup and Restore Application Suite) に関する資料。次を参照してください。
 - COBRAS のヘルプ (<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/Help/COBRAS.htm>)
 - COBRAS のヘルプの使用に関するトレーニング ビデオ (<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/Help/COBRAS.htm>)

次の項を参照してください。

- 「段階的な移行とフラッシュ カットオーバーによる移行」 (P.6-2)
- 「移行されたメッセージによる Connection 8.x サーバ上の使用可能ディスク領域の超過」 (P.6-2)
- 「メッセージを移行する場合のメールボックスの同期の動作 (Connection 8.5 以降のみ)」 (P.6-2)
- 「移行による Cisco Unity ユーザへの影響」 (P.6-3)
- 「Connection への Cisco Unity パブリック同報リストのコピー」 (P.6-4)
- 「Active Directory からの Cisco Unity データの削除」 (P.6-4)

段階的な移行とフラッシュ カットオーバーによる移行

ユーザやその他のデータの段階的な移行は、複雑で時間のかかる作業です。段階的な移行が絶対条件でない限り、「[フラッシュ カットオーバーを使用した Cisco Unity 4.0\(5\) 以降から Cisco Unity Connection 8.x への移行](#)」の章にあるフラッシュ カットオーバーによる移行の検討を推奨します。

移行されたメッセージによる Connection 8.x サーバ上の使用可能ディスク領域の超過

メッセージを Cisco Unity から Connection に移行しないでください。Exchange と同様に、Connection はシングルインスタンス メッセージングをサポートしています。これは、メッセージが同報リストに送信されると、1つのコピーのみが保存されることを意味します。しかし、COBRAS は移行の際にシングルインスタンス メッセージングを維持できないため、同報リストに送信され、Connection に移行された各メッセージのコピーが、各受信者につき 1つ Connection データベースに含まれます。たとえば、1つの Cisco Unity ボイス メッセージを 10人のメンバーがいる同報リストに送信し、次にこのメッセージを Connection に移行すると、Connection データベースには 10個のメッセージのコピーが含まれます。

同報リストへのメッセージをシングルインスタンス メッセージングから拡張した場合、すべてのボイス メッセージの合計サイズを予測できないため、問題がさらに複雑になります。このため、Connection サーバのハードディスクは移行されたメッセージでいっぱいになる可能性が大いにあります。

COBRAS はセキュア メッセージ、ファクス、または受信確認を移行しません。

Connection ネットワーキングが設定されているときに COBRAS Import for Connection 7.x and Later を実行すると、COBRAS は自動的にホット モードで開始されます。このモードは、Cisco Unity ユーザを Connection に段階的に移行するためのモードです。ホット モードには、メッセージを移行するためのオプションがありません。メッセージを移行するには、次を実行する必要があります。

- a. COBRAS Export を実行し、Cisco Unity ユーザを Connection に移行する前に Cisco Unity からメッセージをエクスポートします。
- b. COBRAS Import を実行し、ユーザを移行した後に Connection にメッセージをインポートします。

該当する場合は、タスク リストにこれらの手順をいつ実行するかが示されています。

メッセージを移行する場合のメールボックスの同期の動作（Connection 8.5 以降のみ）

「[移行されたメッセージによる Connection 8.x サーバ上の使用可能ディスク領域の超過](#)」(P.6-2)でも説明したとおり、メッセージの移行は推奨されていません。ただし、Cisco Unity から Connection 8.5 以降にメッセージを移行する必要がある場合で、Connection と Exchange メールボックスの同期（単一受信トレイ）を設定する場合は、次のことに注意します。

- 移行されたメッセージは各ユーザの Connection メールボックスおよび Exchange メールボックスに表示されます。
- COBRAS は、移行されたメッセージの読み取り / 書き込みのステータスを維持します。メッセージが移行される前に、ユーザが Cisco Unity 内のメッセージを再生した場合、メッセージは Connection と Exchange のメールボックスの両方で読み取られます。

- 同じ Cisco Unity サブスクライバのメッセージを 2 回以上移行した場合、対応する Connection ユーザには、移行が実行されるたびに、移行された各メッセージのコピーがさらに 1 つずつ Connection と Exchange の両方に作成されます。

Cisco Unity サーバをユニファイド メッセージングとして設定する場合、次の動作が発生するため移行を推奨しません。

- 移行されたメッセージが 2 個ずつ各ユーザの Exchange メールボックスに表示される：単一受信トレイが設定されている場合の、Exchange のメールボックスで同期する元のメッセージと移行されたメッセージです。
- Exchange の元のメッセージの再生に Outlook を使用する場合（メッセージが受信された際に、Cisco Unity が Exchange に送信したメッセージ）、そのメッセージは Connection では未読のままになり、メッセージ受信インジケータはオンのままになります。これは移行されたメッセージに対してのみ発生します。移行されたメッセージ（単一受信トレイ機能により Exchange のメールボックスと同期されたメッセージ）を再生したり、移行後に受信したメッセージを再生すると、必要に応じて新しい内線番号のメッセージ受信インジケータがオフにされます。

メッセージを移行しなければならない唯一の設定：Cisco Unity サブスクライバのセキュア メッセージを設定しており、移行後に対応する Connection ユーザが Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook を使用して Cisco Unity サーバからメッセージを再生できるようにしたい場合。この設定では、Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook をバージョン 8.5 にアップグレードさせる必要もあります。これは、Cisco Unity ViewMail バージョン 8.0 が Connection のセキュア メッセージにアクセスできず、Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook バージョン 8.5 は Cisco Unity のセキュア メッセージにアクセスできないためです。

移行による Cisco Unity ユーザへの影響

Cisco Unity ユーザを Connection に移行すると、ユーザのプライマリ内線番号の先頭に英字文字列が付きます。これは、次のように影響します。

- 移行されたユーザは、古いパイロット番号に電話をかけて古い Cisco Unity ボイス メッセージにアクセスできなくなります。これは、ユーザの内線番号が今はユーザの Connection メールボックスと関連付けられているためです。
- 移行されたユーザが、電話ユーザ インターフェイスを使用して各自の Cisco Unity ボイス メッセージにアクセスできるようにするには、新しいパイロット番号を設定し、ログイン アーカイブ メールボックス カンパセーションにコールを転送する直接コールのルーティング ルールを作成する必要があります。このカンパセーションによって、古い Cisco Unity プライマリ内線番号を入力することで、Cisco Unity サーバのメッセージにユーザがアクセスできるようになります。

詳細については、「[メッセージを移行する場合のメールボックスの同期の動作 \(Connection 8.5 以降のみ\)](#)」(P.6-2) を参照してください。

- 移行されたユーザは Cisco Unity ディレクトリの一覧に表示されなくなります。
- 移行されていないユーザは、移行されたユーザの Cisco Unity メールボックスにメッセージを送信できなくなります。
- 移行されたユーザの Cisco Unity 通知デバイス（たとえば、メッセージ受信インジケータなど）はディセーブルになります。
- 移行されたユーザの代行内線番号は削除されます。

Connection への Cisco Unity パブリック同報リストのコピー

CiscoUnityTools.com Web サイトにある Public Distribution List Builder for Unity を使用し、Cisco Unity パブリック同報リストを Connection にコピーできます。詳細については、ツールのヘルプとトレーニング ビデオ (<http://www.ciscounitytools.com/Applications/Unity/PublicDistributionListBuilder/PublicDistributionListBuilder.html>) を参照してください。

Active Directory からの Cisco Unity データの削除

Cisco Unity の設定によっては、移行が完了した後で Cisco Unity 固有の属性を Active Directory アカウントから削除するか、または Uninstall Unity ツール、Bulk Subscriber Delete ツール、または両方のツールを使用して Active Directory アカウントを削除することができます。Cisco Unity 固有の属性の削除または Active Directory アカウントの削除に使用する方法にかかわらず、最後の Cisco Unity ユーザを指定された Cisco Unity サーバから Connection に移行したら、サーバで Uninstall Unity を実行し、Active Directory から Cisco Unity オブジェクトを削除する必要があります。

ユニファイド メッセージングの設定では、Tools Depot にある Bulk Subscriber Delete ツールまたは Uninstall Unity ユーティリティのいずれかを使用し、Cisco Unity 固有の属性を Active Directory アカウントから削除できます。Bulk Subscriber Delete は、ユーザを移行しながら属性を削除したい場合に便利です。Uninstall Unity は、Cisco Unity から属性を削除するユーザを選択できないため、すべてのユーザの移行が完了するまで使用できません。このツールは、現在のサーバをホームとするすべての Cisco Unity ユーザの Active Directory アカウントから Cisco Unity の属性を削除します。

Cisco Unity ユーザの社内フォレストで複数の Active Directory アカウントを作成したボイス メッセージ設定の場合、Cisco Unity 固有の属性だけではなく、Active Directory アカウントも削除する必要があります。Active Directory アカウントを削除するには、Bulk Subscriber Delete ツールを使用する必要があります。

別々のフォレストを作成したボイス メッセージ設定で Cisco Unity サーバ、ドメイン コントローラ、およびグローバル カタログ サーバにオペレーティング システムを再インストールする場合は、Active Directory の属性とアカウントを削除する必要はありません。

段階的なデータの移動により Cisco Unity から Connection 8.x に移行するためのタスク リスト

正しく Connection 8.x に段階的に移行するには、次の概略的なタスク リストを使用します。これらのタスクでは、次のように、このガイドおよびその他の Connection の資料にある詳細な手順について言及しています。正しく移行するためには、資料に従ってください。

1. 『*System Requirements for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucsysreqs.html) の「Requirements for Migrating from Cisco Unity to Cisco Unity Connection Version 8.x」を参照してください。
2. Cisco Unity サーバの移行の準備を行います。
 - a. 『*System Requirements for Cisco Unity Connection Release 8.x*』に記載された要件を満たすために、必要に応じて 1 台または複数の Cisco Unity サーバを Cisco Unity 8.x にアップグレードします。
 - b. 該当する場合は、Connection ネットワーキング サイトにある Cisco Unity 5.x または 7.x サーバの段階的な移行を可能にするエンジニアリング スペシャルをインストールします。

3. 再発行された Cisco Unity ライセンス ファイルを取得し、Connection アップグレード ライセンス を取得する：
 - a. 新しい Cisco Unity Connection サーバの MAC アドレスで再発行された Cisco Unity ライセンス ファイルを取得します。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsa gx.html) の「**Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x**」の章を参照してください。
 - b. Connection アップグレード ライセンスを取得する (Connection 8.x を有効化し、Connection 固有の機能に必要)。

移行が完了するまで、Cisco Unity サーバにある既存の Cisco Unity ライセンス ファイルを引き続き使用できます。しかし、移行先の Connection サーバの新しいライセンスが発行された後は、Cisco Unity ライセンス ファイルを (たとえば、追加のユーザ ライセンスで) 更新できなくなります。また、約 90 日後に Cisco TAC は、Connection ライセンスにライセンスが移行された Cisco Unity サーバのサポートを停止します。

4. 再発行されたライセンス ファイルをネットワーク ロケーションに保存します。

この段階では、ライセンス ファイルをインストールしないでください。インストールは、新しい Connection サーバを設置するタスク 5. で行います。



(注) Connection クラスタを構成する場合は、パブリッシャ サーバの MAC アドレスを含むライセンスをパブリッシャ サーバにインストールする必要があります。サブスクリバ サーバの MAC アドレスを含むライセンスはサブスクリバ サーバにインストールする必要があります。

5. 必要に応じて 1 台または複数の Connection 8.x サーバを設置し、存在する場合は既存の Connection サーバをバージョン 8.x にすべてアップグレードします。詳細については、次を参照してください。
 - 新しい Connection 8.x サーバの設置については、『*Installation Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucig x.html) を参照してください。
 - Connection 7.x から 8.x へのアップグレードについては、「**Cisco Unity Connection 7.x または 8.x から出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード**」の章を参照してください。
 - Connection 2.x から 8.x へのアップグレードについては、「**Cisco Unity Connection 2.x から出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード**」の章を参照してください。
6. Cisco Unity Connection の出荷されているバージョンの詳細については、該当するバージョンの『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』を参照してください。特に、「**Installation and Upgrade Information**」の項の情報に注意してください。リリース ノートは、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/release/notes/701cucrn.html から入手可能です。
7. 次のツールをダウンロードします。
 - Cisco Unity の Disaster Recovery Backup ツール。このツールは、http://www.ciscounitytools.com/App_DisasterRecoveryTools.htm から入手可能です。
 - COBRAS Import for Connection 7.x and Later ツール。このツールは、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html> から入手可能です。
 - ボイス メッセージを Cisco Unity から Connection に移行する場合 : COBRAS Export for Unity ツール。このツールは、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html> から入手可能です。



(注) CiscoUnityTools.com の COBRAS に関するページには、COBRAS のいくつかのバージョンがあります。正しいバージョンをダウンロードするように注意してください。

- ユーザの移行中に Cisco Unity データベースのユーザデータと Active Directory の Cisco Unity ユーザの属性を削除する場合：Bulk Subscriber Delete ツール。このツールは、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/Unity/BulkSubscriberDelete403/BulkSubscriberDelete403.html> から入手可能です。
 - Cisco Unity の属性とオブジェクトが社内ディレクトリに保存されている場合：Uninstall Unity ツール。このツールは、<http://www.ciscounitytools.com/Applications/Unity/UninstallUnity/UninstallUnity.html> から入手可能です。
8. 最初の Cisco Unity サーバに COBRAS Import for Connection 7.x を含め、ステップ 7. でダウンロードしたツールをインストールします。
- Cisco Unity フェールオーバーが設定されている場合：
- セカンダリ サーバに Cisco Unity の Disaster Recovery Backup ツールをインストールします。
 - アクティブなサーバがプライマリ サーバまたはセカンダリ サーバであるかどうかにかかわらず、その他のすべてのツールをアクティブなサーバにインストールします。
9. Connection ネットワーキングを設定します。詳細については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「Setting Up Networking Between Cisco Unity and Cisco Unity Connection 8.x Servers」の章を参照してください。
10. Connection に移行する Cisco Unity サーバで、Connection サイトへの Cisco Unity サイト ゲートウェイに ping コマンドを送信できることを確認します。
11. Cisco Unity Disaster Recovery ツールを使用して、Cisco Unity サーバのバックアップを行います。このバックアップは、Connection 8.x システムにデータを移行するためには使用されません。このバックアップは、必要に応じて Cisco Unity に戻せるようにするためのものです。
12. ボイス メッセージを Cisco Unity から Connection に移行する場合：COBRAS Export for Unity を使用してデータとボイス メッセージをエクスポートします。



注意 ボイス メッセージの移行は推奨されていません。詳細については、「Cisco Unity から Cisco Unity Connection 8.x への段階的な移行の概要」(P.6-1) を参照してください。

13. ボイス メッセージを Cisco Unity から Connection に移行しない場合：移行されたユーザによる Cisco Unity サーバの古いボイス メッセージへのアクセスを設定します。
- a. 電話システムで、Cisco Unity に対するコールのための新しいボイスメール パイロット番号を設定します。
 - b. Cisco Unity Administrator の直接コールのコール ルーティング テーブルで、ルーティング テーブルの最上位に直接ルーティング ルールを追加します。タスク 13.a. で設定したパイロット番号からのコールに回答する新しいルーティング ルールを設定し、移行されたユーザが各自の古い Cisco Unity メールボックスにアクセスできるようにするログイン アーカイブ メールボックス カンバセーションにコールを転送します。カンバセーションは、発信者に各自の Cisco Unity プライマリ内線番号と PIN の入力を求めます。
- ユーザを移行すると代行内線番号はすべて削除されるため、ユーザは代行内線番号を使用してアーカイブ メールボックスにアクセスできません。

14. 移行する Cisco Unity ユーザに次の情報を提供します。
- Connection で新しいボイス メッセージにアクセスする方法。
 - ボイス メッセージを Cisco Unity から Connection に移行しない場合: タスク 13.a. で設定したパイロット番号を使用して各自の古い Cisco Unity ボイス メッセージにアクセスする方法。

15. COBRAS を使用して Cisco Unity ユーザを Connection に移行します。

単一受信トレイを設定しており、Cisco Unity がユニファイド メッセージングとして設定されている場合、Exchange と同期している Connection ボイス メッセージが保存される場所は、現在 Cisco Unity ボイス メッセージが保存されているメールボックスと同じであるため、COBRAS で [新規ユーザ作成のバックアップから社内電子メール アドレスを含める (Include Corporate Email Addresses from Backup for New User Creation)] チェックボックスを選択することを推奨します。Connection サーバの Cisco Unity データを復元すると、Cisco Unity ユーザに関連付けられている Exchange の電子メール アドレスは、Cisco Unity Connection Administration の [ユーザの基本設定 (User Basics)] ページにある [社内電子メール アドレス (Corporate Email Address)] フィールドに保存されます。これにより、移行プロセスにおける単一受信トレイ機能の設定が容易になります。

詳細については、ツールのヘルプ

(<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html>) を参照してください。

**注意**

通常の業務時間内にユーザを移行しないでください。Connection に移行される Cisco Unity ユーザは、移行中は Cisco Unity のアーカイブされたメッセージまたは Connection の新しいメッセージのどちらにもアクセスできません。また、タスク 16. で説明するように、ユーザの移行後もユーザの電話または電話システムを再設定しない限り、ユーザは新しいメッセージにアクセスできません。

16. 次のように電話または電話システムを再設定します。

- ユーザの内線番号が通話中であるか、またはユーザが応答しない場合は、Connection にコールを転送します。
- 必要に応じて、ユーザがメッセージ ボタンを押したときに Connection にコールを転送します。

17. 移行されたすべてのユーザの情報がレプリケートされるまで待ちます。

- Connection に移行された Cisco Unity ユーザは、Cisco Unity Administrator に表示されなくなります。
- Connection Administration では、Cisco Unity から移行されたユーザが通常のユーザとして表示されます (移行の開始前は、連絡先として表示されます。移行中は、連絡先およびユーザの両方として表示されます)。

18. ボイス メッセージを Cisco Unity から Connection に移行する場合:

- a. COBRAS Import for Connection 7.x and Later を Cisco Unity サーバ以外の Windows コンピュータにインストールします。COBRAS Import は Cisco Unity サーバからも実行できますが、Cisco Security Agent for Cisco Unity が実行されていないコンピュータで実行したほうが動作がスムーズです。
- b. COBRAS Import を実行し、移行されたユーザのために Connection にボイス メッセージをインポートします。詳細については、ツールのヘルプ (<http://www.ciscounitytools.com/Applications/General/COBRAS/COBRAS.html>) を参照してください。

19. 必要に応じて、Tools Depot の Administration Tools フォルダにある Bulk Subscriber Delete ツールを使用し、移行された Cisco Unity ユーザを削除します。Bulk Subscriber Delete を使用すると、選択したユーザを Cisco Unity データベースから削除し、次のいずれかのオプションを選択できます。

- 選択したユーザの Cisco Unity 固有のプロパティを Active Directory から削除します。
- 選択したユーザの Active Directory アカウントと Exchange メールボックスを削除します。

詳細については、次を参照してください。

- ツールのヘルプ
(<http://www.ciscounitytools.com/Applications/Unity/BulkSubscriberDelete403/BulkSubscriberDelete403.html>)。
- 「Active Directory からの Cisco Unity データの削除」(P.6-4)。

20. タスク 14. ~ タスク 19. を繰り返し、このサーバの残りの Cisco Unity ユーザを Connection に移行します。
21. Cisco Unity の属性とオブジェクトが社内ディレクトリにある場合: Cisco Unity をアンインストールすると Active Directory から Cisco Unity の属性とオブジェクトが削除されます。詳細については、「Active Directory からの Cisco Unity データの削除」(P.6-4) を参照してください。
22. タスク 8. ~ タスク 21. を繰り返し、残りの Cisco Unity サーバのユーザを Connection に移行します。



CHAPTER 7

Cisco Unity Connection 物理サーバから Connection 8.x 仮想マシンへの移行

この章は、次の項で構成されています。

- 「Connection 物理サーバから Connection 8.x 仮想マシンに移行するためのタスク リスト」 (P.7-1)
- 「Connection 8.x 仮想マシンの起動順序の変更」 (P.7-3)

Connection 物理サーバから Connection 8.x 仮想マシンに移行するためのタスク リスト

1. 『*System Requirements for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucsysreqs.html) の「Requirements for Installing Cisco Unity Connection 8.x on a Virtual Machine」を確認してください。
2. 『*Cisco Unity Connection 8.x Supported Platforms List*』にあるバーチャライゼーションの仕様に関する表で、最大ポート数および最大ユーザ数に基づいて Connection サーバに展開する VMware 構成を決定します。次に、その構成に対応する VMware OVA テンプレートを書き留めます。この資料は、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/supported_platforms/8xcucspl.html から入手可能です。
3. 任意：タスク 2. で確認した VMware OVA テンプレートをダウンロードします。該当する『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html) の「Installing Cisco Unity Connection for the First Time on a Virtual Machine」を参照してください。
また、手動で仮想マシンを設定することもできます。この場合、OVA テンプレートは必要ありません。



(注) VMware OVA テンプレートのダウンロードに関する情報は、バージョン 8.0(2) 以降の『*Release Notes for Cisco Unity Connection*』に記載されています。

4. Connection 物理サーバがバージョン 7.1(3)、または 8.0(2) 以降を実行している場合：タスク 5. に進みます。
Connection 物理サーバがバージョン 8.0(1) を実行している場合：Connection 8.0(2) 以降にアップグレードします。詳細については、このガイドの「[Cisco Unity Connection 7.x または 8.x から出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード](#)」の章を参照してください。

Connection 物理サーバがバージョン 7.1(2) 以前を実行している場合 : Connection 7.1(3) にアップグレードします。Cisco Unity Connection 再設定およびアップグレードガイド Release 7.x (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/upgrade/guide/7xcucrugx.html) の該当する章を参照してください (以降のタスクでバージョン 8.0(2) 以降にアップグレードします)。



注意 移行のために必要な期間よりも長く、Connection 7.1(3) を仮想環境で実行することはサポートされていません。

5. 『System Requirements for Cisco Unity Connection Release 8.x』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucsysreqs.html) の「Requirements for Installing a Cisco Unity Connection 8.x Virtual Machine」に従い、Connection 仮想マシンが実行される物理ホストのプロビジョニングを行います。
6. タスク 3. で VMware OVA テンプレートをダウンロードした場合 : 仮想マシンを作成して設定するテンプレートを展開します。
タスク 3. で VMware OVA テンプレートをダウンロードしなかった場合 : Connection サーバの仮想マシンを作成し、『System Requirements for Cisco Unity Connection Release 8.x』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/requirements/8xcucsysreqs.html) の「Requirements for Installing a Cisco Unity Connection 8.x Virtual Machine」にある設定と一致するように仮想マシンのハードウェア プロパティを設定します。
7. 物理サーバの利用可能なディスク領域の合計が仮想マシンよりも大きい場合 : Connection 仮想マシンの利用可能なディスク領域の合計が物理サーバの利用可能なディスク領域の合計以上になるように、VMware 仮想マシンのハードウェア設定を変更します。
利用可能なディスク領域の合計は、RAID 構成を考慮に入れた Connection で使用できるディスク領域です (たとえば、RAID 1 として構成された 2 台の 146 GB のハードディスクの場合、利用可能なディスク領域の合計は 146 GB です)。
8. VMware vSphere Client で、Connection 仮想マシンに独立型永続モードで割り当てられる仮想ディスクを設定します。これによって、最高のストレージパフォーマンスが提供されます。
9. 仮想マシンで BIOS 設定を変更し、仮想マシンが最初に DVD 仮想デバイスから起動され、次に仮想ハードディスクから起動されるようにします。「Connection 8.x 仮想マシンの起動順序の変更」(P.7-3) を参照してください。
10. Disaster Recovery System を使用して、Connection 物理サーバのバックアップを行います。詳細については、該当する『Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。
11. `utils system shutdown` CLI コマンドを使用して、Connection 物理サーバをシャットダウンします。詳細については、該当する『Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。
12. 仮想マシンで、該当する場合はエンジニアリング スペシャルも含め、物理サーバにインストールされているバージョンと同一の Connection をインストールします。『Installation Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) を参照してください。

次の 2 つのインストール設定は、Connection 仮想マシンと Connection 物理マシンの両方で同じにする必要があります。設定が異なる場合、Disaster Recovery System を使用した物理サーバから仮想マシンへのデータの転送に失敗します。

- サーバのホスト名
- サーバの IP アドレス

次の設定は Connection 仮想マシンのライセンス MAC の値を作成するために使用します。これらの設定のいずれかを後から変更した場合は、仮想マシンの新しいライセンス ファイルを取得する必要があります。次の設定には、近い将来に変更されることのない設定を入力することを推奨します。

- タイムゾーン
- NTP サーバ
- NIC の速度とデュプレックスの設定
- DHCP 設定
- プライマリ DNS 設定
- SMTP ホスト名
- X.509 証明書情報 (組織、部門、ロケーション、都道府県、および国)

また、ライセンス MAC の値の作成には、ホスト名と IP アドレスも使用されます。データを復元できるように Connection 仮想マシンには、Connection 物理サーバと同じホスト名を付ける必要があります。データの復元後は Connection ライセンスを取得する前に、Connection 仮想マシンのホスト名または IP アドレスを変更できます。

13. タスク 10. で作成したバックアップを使用して、Connection 仮想マシンにデータを復元します
14. 任意: Connection 仮想マシンのホスト名を変更します。詳細については、このガイドの「[Cisco Unity Connection 8.x サーバの名前の変更](#)」の章を参照してください。
15. 仮想マシンに *Connection 7.1(3)* をインストールした場合: バージョン 8.0(2) 以降にアップグレードします。詳細については、このガイドの「[Cisco Unity Connection 7.x または 8.x から出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード](#)」の章を参照してください。
16. Connection 仮想マシンで `show status` CLI コマンドを実行します。
コマンドは、次のような値を返します。
License MAC: 78acc1573f20
ライセンス MAC の値を書き留めます。
17. タスク 16. で書き留めたライセンス MAC の値を使用し、Connection ライセンスを取得してインストールします。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

Connection 8.x 仮想マシンの起動順序の変更

この項の手順を実行し、仮想マシンが最初に DVD 仮想デバイスから起動され、次に仮想ハードディスクから起動されるように BIOS 設定を変更します。

Connection 8.x 仮想マシンの起動順序を変更するには

- ステップ 1 VMware vSphere Client で、OVA テンプレートを展開した仮想マシンの電源をオフにします。
- ステップ 2 vSphere Client の左側のペインで仮想マシンの名前を右クリックし、[Edit Settings] を選択します。
- ステップ 3 [Virtual Machine Properties] ダイアログボックスで [Options] タブを選択します。
- ステップ 4 [Settings] カラムの [Advanced] で、[Boot Options] を選択します。

■ Connection 8.x 仮想マシンの起動順序の変更

- ステップ 5** [Force BIOS Setup] で [The Next Time the Virtual Machine Boots, Force Entry into the BIOS Setup Screen] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 6** [OK] を選択し、[Virtual Machine Properties] ダイアログボックスを閉じます。
- ステップ 7** 仮想マシンの電源をオンにします。仮想マシンは BIOS メニューで起動されます。
- ステップ 8** ブートメニューまで移動し、ブートデバイスの順序を変更して、CD-ROM デバイスが一覧の先頭に表示され、ハードドライブ デバイスが次に表示されるようにします。
- ステップ 9** 変更を保存し、BIOS 設定を終了します。
-



CHAPTER 8

Cisco Unity Connection 8.x の言語の追加または削除

この章は、次の項で構成されています。

- 「Connection 8.x サーバに言語を追加するためのタスク リスト（非 Connection クラスタ）」 (P.8-1)
- 「Connection 8.x クラスタに言語を追加するためのタスク リスト」 (P.8-2)
- 「Connection 8.x の言語ファイルのダウンロード」 (P.8-3)
- 「Connection 8.x の言語ファイルのインストール」 (P.8-4)
- 「Connection 8.x の言語設定の変更」 (P.8-7)
- 「Connection 8.x の言語ファイルの削除」 (P.8-7)

Connection 8.x サーバに言語を追加するためのタスク リスト（非 Connection クラスタ）



(注)

言語のライセンスは必要なく、Connection 8.x ではインストールして使用できる言語の数に制限を設けていません。ただし、インストールする言語の数が多ければ多いほど、ボイス メッセージを保存するためのハードディスク領域が少なくなります。『Cisco Unity Connection 8.x Supported Platforms List』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/supported_platforms/8xcucspl.html) にある各サーバで利用できるストレージの時間（分単位）に関する情報は、5 言語を超える言語がインストールされていないことを想定しています。

次のタスクを実行し、英語（米国）以外の言語を Connection クラスタの一部ではない Connection サーバにダウンロードしてインストールします。

1. インストールする Connection の言語をダウンロードします。「Connection 8.x の言語ファイルのダウンロード」 (P.8-3) を参照してください。
2. タスク 1. でダウンロードした Connection の言語をインストールします。「Connection 8.x の言語ファイルのインストール」 (P.8-4) を参照してください。
3. Cisco Unity Connection Administration をローカライズするために日本語を使用する場合：Cisco Unified Communications Manager の日本語ロケールをダウンロードしてインストールします。該当する『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide』 (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) の「Software Upgrades」の章にある「Locale Installation」を参照してください。

4. *Cisco Personal Communications Assistant* をローカライズするために他の言語を使用する場合：それぞれに該当する Cisco Unified Communications Manager のロケールをダウンロードしてインストールします。『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) の「Software Upgrades」の章にある「Locale Installation」を参照してください。
5. 必要に応じて、Cisco Unity Connection Administration で言語の設定を変更します。「[Connection 8.x の言語設定の変更](#)」(P.8-7) を参照してください。

Connection 8.x クラスタに言語を追加するためのタスク リスト



(注)

言語のライセンスは必要なく、Connection 8.x ではインストールして使用できる言語の数に制限を設けていません。ただし、インストールする言語の数が多ければ多いほど、ボイス メッセージを保存するためのハードディスク領域が少なくなります。『*Cisco Unity Connection 8.x Supported Platforms List*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/supported_platforms/8xcucspl.html) にある各サーバで利用できるストレージの時間 (分単位) に関する情報は、5 言語を超える言語がインストールされていないことを想定しています。


次のタスクを実行し、英語 (米国) 以外の言語を Connection クラスタ内の両方のサーバにダウンロードしてインストールします。

1. インストールする Connection の言語をダウンロードします。「[Connection 8.x の言語ファイルのダウンロード](#)」(P.8-3) を参照してください。
2. サブスクライバ サーバのステータスを [Primary] に変更します (ステータスがすでに [Primary] になっていない場合)。Connection の言語をインストールするには、パブリッシャ サーバのステータスを [Secondary] にする必要があります。『*Cluster Configuration and Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/cluster_administration/guide/8xcuceagx.html) の「Administering a Cisco Unity Connection 8.x Cluster」の章にある「Manually Changing 8.x Server Status」の「To Manually Change an 8.x Server from Secondary Status to Primary Status」の手順を参照してください。
3. パブリッシャ サーバにタスク 1. でダウンロードした Connection の言語をインストールします。「[Connection 8.x の言語ファイルのインストール](#)」(P.8-4) を参照してください。
4. *Cisco Unity Connection Administration* をローカライズするために日本語を使用する場合：Cisco Unified Communications Manager の日本語ロケールをパブリッシャ サーバにダウンロードしてインストールします。該当する『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) の「Software Upgrades」の章にある「Locale Installation」を参照してください。
5. *Cisco Personal Communications Assistant* をローカライズするために他の言語を使用する場合：それぞれに該当する Cisco Unified Communications Manager のロケールをパブリッシャ サーバにダウンロードしてインストールします。『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) の「Software Upgrades」の章にある「Locale Installation」を参照してください。

6. パブリッシャ サーバのステータスを [Primary] に変更します。『*Cluster Configuration and Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/cluster_administration/guide/8xcuccagx.html) の「Administering a Cisco Unity Connection 8.x Cluster」の章にある「Manually Changing 8.x Server Status」の「To Manually Change an 8.x Server from Secondary Status to Primary Status」の手順を参照してください。
7. サブスライバサーバにタスク 3. でインストールしたのと同じ Connection の言語をインストールします
8. *Cisco Unity Connection Administration* をローカライズするために日本語を使用する場合：サブスライバサーバにタスク 4. でインストールした Cisco Unified Communications Manager の日本語ロケールをインストールします。
9. *Cisco Personal Communications Assistant* をローカライズするために他の言語を使用する場合：サブスライバサーバにタスク 5. でインストールしたのと同じ Cisco Unified Communications Manager のロケールをインストールします。
10. 必要に応じて、Cisco Unity Connection Administration で言語の設定を変更します。「[Connection 8.x の言語設定の変更](#)」(P.8-7) を参照してください。

Connection 8.x の言語ファイルのダウンロード

Connection 8.x の言語ファイルをダウンロードするには

- ステップ 1** 高速インターネット接続のあるコンピュータで <http://tools.cisco.com/support/downloads/pub/Redirect.x?mdfid=278875240> にある [Voice and Unified Communications Downloads] ページを開きます。
-  **(注)** ソフトウェアのダウンロード ページにアクセスするには、登録ユーザとして Cisco.com にログインする必要があります。
- ステップ 2** [Downloads] ページのツリー コントロールで、[Unified Communications Applications] > [Voicemail and Unified Messaging] > [Cisco Unity Connection] の順に展開し、該当する Connection のバージョンを選択します。
- ステップ 3** [Select a Software Type] ページで [Cisco Unity Connection Locale Installer] を選択します。
- ステップ 4** [Select a Release] ページで該当する Connection のバージョンを選択します。言語のダウンロードリンクがページの右側に表示されます。
- ステップ 5** ダウンロードするファイルのために、使用しているコンピュータに十分なハードディスク領域があることを確認します (ダウンロードするファイルのサイズは、ダウンロードリンクの下に表示されています)。各言語のファイル名は、uc-locale-<2 文字の言語の省略形>_<2 文字の国の省略形>-<バージョン>.cop.sgn になります (各言語の完全な名前もページに表示されます)。
- ステップ 6** ダウンロードするファイルの名前を選択します。
- ステップ 7** [Download Image] ページで MD5 の値を書き留めます。
- ステップ 8** 画面の指示に従ってダウンロードを完了します。
- ステップ 9** インストールする追加の Connection の言語ごとに、[ステップ 6](#) ~ [ステップ 8](#) を繰り返します。

- ステップ 10** ダウンロードしたファイルごとに、チェックサム ジェネレータを使用し、MD5 チェックサムが Cisco.com のリストにあるチェックサムと一致することを確認します。値が一致しない場合、ダウンロードしたファイルは壊れています。

**注意**

結果が予測できないため、ソフトウェアのインストールに壊れたファイルを使用しないでください。MD5 の値が一致しない場合は、ダウンロードしたファイルの値が Cisco.com のリストにある値と一致するまでファイルを再度ダウンロードします。

無料のチェックサム ツール（たとえば Microsoft File Checksum Integrity Verifier ユーティリティなど）はインターネットから入手可能です。このユーティリティの説明は、Microsoft サポート技術情報の記事 841290、「*Availability and Description of the File Checksum Integrity Verifier Utility*」にあります。また、このサポート技術情報の記事には、ユーティリティをダウンロードするためのリンクも含まれています。

- ステップ 11** ダウンロードしたファイルを FTP または SFTP サーバにコピーするか、またはファイルを CD や DVD に書き込みます。ファイルをディスクに書き込む場合は、次の考慮事項に注意してください。
- 最大 64 文字のファイル名に対応できる Joliet ファイル システムを使用します。
 - 使用しているディスク書き込みアプリケーションに、書き込んだディスクの内容を検証するオプションがある場合は、そのオプションを選択します。これにより、アプリケーションは書き込み後のディスクとソース ファイルの内容を比較します。
 - ディスクに「Cisco Unity Connection <バージョン> Languages」というラベルを付けます。
- ステップ 12** ダウンロードしたファイルを削除し、ディスク領域を空けます。

Connection 8.x の言語ファイルのインストール

Connection サーバで CD または DVD を使用するか、またはリモート ソースにあるファイルにアクセスして言語ファイルをインストールできます。次の該当する項を参照してください。

- 「[ディスクからの Connection 8.x の言語ファイルのインストール](#)」 (P.8-4)
- 「[ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバからの Connection 8.x の言語ファイルのインストール](#)」 (P.8-5)

ディスクからの Connection 8.x の言語ファイルのインストール

ディスクから Connection 8.x の言語ファイルをインストールするには

- ステップ 1** Connection Conversation Manager サービスと Connection Mixer サービスを停止します。
- a. Cisco Unity Connection Serviceability を起動します。
 - b. [Tools] メニューから [Service Management] を選択します。
 - c. [Critical Services] の [Connection Conversation Manager] の行で [Stop] を選択します。
 - d. サービスが停止されるまで待ちます。
 - e. また、[Critical Services] の [Connection Mixer] の行で [Stop] を選択します。
 - f. サービスが停止されるまで待ちます。

- ステップ 2** ディスク ドライブに言語のディスクを挿入します。
- ステップ 3** Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- ステップ 4** [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] メニューから、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] を選択します。[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [ソース (Source)] リストで [DVD/CD] を選択します。
- ステップ 6** [ディレクトリ (Directory)] フィールドに、言語ファイルを含む CD または DVD のフォルダへのパスを入力します。
言語ファイルがルート フォルダにある場合、または ISO イメージ DVD を作成した場合は、[ディレクトリ (Directory)] フィールドにスラッシュ (/) を入力します。
- ステップ 7** 言語のインストール プロセスを続行するには、[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 8** インストールする言語を選択し、[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 9** ダウンロードの進行状況をモニタします。
- ステップ 10** 別の言語をインストールする場合：[他ソフトウェアのインストール (Install Another)] を選択し、[ステップ 4](#) ~ [ステップ 9](#) を繰り返します。
言語のインストールを完了した場合：サービスを再起動します。
- Cisco Unity Connection Serviceability を起動します。
 - [Tools] メニューから [Service Management] を選択します。
 - [Critical Services] の [Connection Conversation Manager] の行で [Start] を選択します。
 - サービスが起動するまで待ちます。
 - また、[Critical Services] の [Connection Mixer] の行で [Start] を選択します。
 - サービスが起動するまで待ちます。
 - 日本語をインストールした場合：`utils service restart Cisco Tomcat` CLI コマンドを実行し、Tomcat サービスを再起動します。

ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバからの Connection 8.x の言語ファイルのインストール

この手順の際、Cisco Unified Operating System Administration へのアクセス中に Web ブラウザのコントロール (たとえば、更新やリロードなど) を使用しないでください。代わりに、管理インターフェイスのナビゲーション コントロールを使用してください。

ネットワーク ロケーションまたはリモート サーバから Connection 8.x の言語ファイルをインストールするには

- ステップ 1** Connection Conversation Manager サービスと Connection Mixer サービスを停止します。
- Cisco Unity Connection Serviceability を起動します。
 - [Tools] メニューから [Service Management] を選択します。
 - [Critical Services] の [Connection Conversation Manager] の行で [Stop] を選択します。
 - サービスが停止されるまで待ちます。

- e. また、[Critical Services] の [Connection Mixer] の行で [Stop] を選択します。
- f. サービスが停止されるまで待ちます。

Cisco Unified Operating System Administration にログインします。

ステップ 2 [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] メニューから、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] を選択します。[ソフトウェアのインストール/アップグレード (Software Installation/Upgrade)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ソース (Source)] リストで [リモート ファイルシステム (Remote Filesystem)] を選択します。

ステップ 4 [ディレクトリ (Directory)] フィールドに、言語ファイルを含むリモート システムのフォルダへのパスを入力します。

言語ファイルが Linux または UNIX サーバにある場合は、フォルダパスの先頭にスラッシュ (/) を入力する必要があります (たとえば、言語ファイルが languages フォルダにある場合は、/languages と入力する必要があります)。

言語ファイルが Windows サーバにある場合は、FTP または SFTP サーバに接続することに注意し、次の適切な構文を使用します。

- パスの記述はスラッシュ (/) で開始し、パスの区切りにもスラッシュを使用します。
- パスの先頭部分は、サーバ上の FTP または SFTP のルート フォルダにする必要があります。したがって、ドライブ文字 (C: など) で始まる Windows の絶対パスは入力できません。

ステップ 5 [サーバ (Server)] フィールドに、サーバ名または IP アドレスを入力します。

ステップ 6 [ユーザ名 (User Name)] フィールドに、リモート サーバのユーザ名を入力します。

ステップ 7 [ユーザ パスワード (User Password)] フィールドに、リモート サーバのパスワードを入力します。

ステップ 8 [転送プロトコル (Transfer Protocol)] リストで適切なオプションを選択します。

ステップ 9 [次へ (Next)] を選択します。

ステップ 10 インストールする言語を選択し、[次へ (Next)] を選択します。

ステップ 11 ダウンロードの進行状況をモニタします。

インストール プロセスの途中でサーバとの接続が失われた場合、またはブラウザを閉じた場合は、[ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] メニューに再度アクセスしようとするすると、次のメッセージが表示されることがあります。

警告: 別のセッションでソフトウェアをインストール中です。[制御の取得 (Assume Control)] をクリックしてインストールを継続します。

セッションを引き継ぐ場合は、[制御の取得 (Assume Control)] を選択します。

[制御の取得 (Assume Control)] が表示されない場合は、Real-Time Monitoring Tool でも言語のインストールをモニタできます。

ステップ 12 別の言語をインストールする場合: [他ソフトウェアのインストール (Install Another)] を選択し、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 11](#) を繰り返します。

言語のインストールを完了した場合: サービスを再起動します。

- a. Cisco Unity Connection Serviceability を起動します。
- b. [Tools] メニューから [Service Management] を選択します。
- c. [Critical Services] の [Connection Conversation Manager] の行で [Start] を選択します。
- d. サービスが起動するまで待ちます。
- e. また、[Critical Services] の [Connection Mixer] の行で [Start] を選択します。
- f. サービスが起動するまで待ちます。
- g. 日本語をインストールした場合: **utils service restart Cisco Tomcat** CLI コマンドを実行し、Tomcat サービスを再起動します。

Connection 8.x の言語設定の変更

表 8-1 に、言語設定を変更するための情報と手順を提供する資料の一覧を示します。

表 8-1 Connection 8.x の言語設定を変更するための資料

言語設定	資料
すべてのユーザのシステム プロンプト	『 <i>System Administration Guide for Cisco Unity Connection</i> 』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsag130.html) の「 Changing Conversation Settings for All Users in Cisco Unity Connection 8.x 」の章にある「 Language of System Prompts 」
テンプレート、または 1 人あるいは数人の個別ユーザのシステム プロンプト	『 <i>User Moves, Adds, and Changes Guide for Cisco Unity Connection</i> 』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/user_mac/guide/8xcucmacx.html) の「 Setting Up Features and Functionality That Are Controlled by User Account Settings in Cisco Unity Connection 8.x 」の章にある「 Phone Language That Users and Callers Hear 」
コール ハンドラ	『 <i>System Administration Guide for Cisco Unity Connection</i> 』の「 Managing Call Handlers in Cisco Unity Connection 8.x 」の章にある「 Changing Phone Language Settings 」
ディレクトリ ハンドラ	『 <i>System Administration Guide for Cisco Unity Connection</i> 』の「 Managing Directory Handlers in Cisco Unity Connection 8.x 」の章にある「 Changing Phone Language Settings 」
インタビュー ハンドラ	『 <i>System Administration Guide for Cisco Unity Connection</i> 』の「 Managing Interview Handlers in Cisco Unity Connection 8.x 」の章にある「 Changing Phone Language Settings 」
コール ルーティング テーブル	『 <i>System Administration Guide for Cisco Unity Connection</i> 』の「 Managing Call Routing Tables in Cisco Unity Connection 8.x 」の章にある「 Changing Phone Language Settings 」

Connection 8.x の言語ファイルの削除

Connection 8.x の言語ファイルを削除するには

- ステップ 1** プラットフォームの管理者としてコマンドライン インターフェイスにログインします。
- ステップ 2** `show cuc locales` CLI コマンドを実行し、インストールされた言語ファイルのリストを表示します。
- ステップ 3** コマンドの結果で削除する言語を見つけ、言語の Locale カラムの値を書き留めます。
- ステップ 4** `delete cuc locale <code>` CLI コマンドを実行し、言語を削除します。ここで、<code> は **ステップ 3** で見つけた Locale カラムの値です。

コマンドが完了すると、次の情報が表示されます。

```
<code> uninstalled
```




CHAPTER 9

Cisco Unity Connection 8.x サーバまたはハードディスクの交換

この章は、次の項で構成されています。

- 「Connection クラスタでない単一の Connection 8.x サーバまたは単一のサーバ内のハードディスクの交換」 (P.9-1)
- 「Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバまたはパブリッシャ サーバのハードディスクの交換」 (P.9-2)
- 「Connection 8.x クラスタ内のサブスライバ サーバまたはサブスライバ サーバのハードディスクの交換」 (P.9-6)
- 「Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバおよびサブスライバ サーバ、または両方のサーバのハードディスクの交換」 (P.9-9)
- 「Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x サイト ゲートウェイの置き換え」 (P.9-18)
- 「Connection 8.x サーバへの交換用ハードディスクの取り付け」 (P.9-18)



(注) 物理サーバを仮想マシンに置き換える場合は、「Cisco Unity Connection 物理サーバから Connection 8.x 仮想マシンへの移行」を参照してください。

Connection クラスタでない単一の Connection 8.x サーバまたは単一のサーバ内のハードディスクの交換

単一の Connection 8.x サーバまたは単一の Connection 8.x サーバ内のハードディスクを正しく交換するには、この項の概略的なタスク リストを使用します。



(注) サイト内ネットワークが構成されている場合も、同じタスクを実行してください。データが復元されると、サイト内ネットワークは自動的に動作を再開します。

1. サブスライバ サーバ内のハードディスクではなくサブスライバ サーバ自体を交換する場合は、交換用サーバの MAC アドレスを含む交換用の Connection ライセンスを依頼します。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x」の章を参照してください。

2. Disaster Recovery System を使用して Connection サーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsag.html) を参照してください。
3. サーバをシャットダウンします。
4. サーバを交換する場合は、古いサーバからネットワーク ケーブルを取り外して新しいサーバに接続します。
ハードディスクを交換する場合は、「[Connection 8.x サーバへの交換用ハードディスクの取り付け \(P.9-18\)](#)」の手順を実行します。

5. Connection を再インストールします。『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「[Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System \(Without a Connection Cluster\)](#)」の「Part 1: Installing and Configuring the Cisco Unity Connection Server」を参照してください。

Connection を再インストールする場合は、次の点に注意してください。

- サーバに以前インストールされていたものと同じソフトウェアおよび ES バージョンをインストールする必要があります。異なる場合、Disaster Recovery System による復元は失敗します。
 - 以前の値と同じホスト名および IP アドレスを指定する必要があります。異なる場合、Disaster Recovery System による復元は失敗します。
 - (ハードディスクだけでなく) サーバ自体を交換する場合のみ、タスク 1. で依頼した、交換用サーバの MAC アドレスを含む交換用ライセンスをインストールします。これを行わない場合、Connection は動作しません。
6. Disaster Recovery System を使用してデータを復元します。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsag.html) を参照してください。

Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバまたはパブリッシャ サーバのハードディスクの交換

サブスライバ サーバを交換せずに、Connection クラスタ内のパブリッシャ サーバまたはパブリッシャ サーバのハードディスクを交換できます。パブリッシャ サーバの機能停止中は、サブスライバ サーバが Connection クラスタの機能をすべて処理し、システムに対するサービスが失われるのを防ぎます。

サーバまたはサーバ内のハードディスクを交換する場合、交換用のパブリッシャ サーバを設置する必要があります。サブスライバ サーバをパブリッシャ サーバに変換することはできません (ハードディスクを交換する場合、サーバのすべてのソフトウェアを再インストールする必要があります。これにより、事実上交換用サーバを準備することになります)。交換用パブリッシャ サーバ上で、新しい Connection クラスタを構成します。サブスライバ サーバを新しい Connection クラスタに接続すると、サブスライバ サーバはデータを交換用パブリッシャ サーバにレプリケートします。システムに対するサービスが失われることはありません。交換用パブリッシャ サーバのステータスが [Primary] または [Secondary] である場合、コールの処理を再開します。

この項に含まれる、該当する手順を示された順序で実行します。

交換用ライセンスを依頼するには（パブリッシャ サーバを交換する場合のみ）

パブリッシャ サーバ内のハードディスクではなくパブリッシャ サーバ自体を交換する場合は、交換用サーバの MAC アドレスを含む交換用の Connection ライセンスを依頼します。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』（http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html）の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

Connection サイトからクラスタを削除するには（サイト内ネットワーキングが構成されている場合のみ）

サイト内ネットワーキングを使用している場合、Connection サイトからサーバを削除します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』（http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html）の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

サブスクリバ サーバのステータスを手動で [Primary] に変更するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability にログインします。
- ステップ 2** [Tools] メニューで [Cluster Management] を選択します。
- ステップ 3** [Cluster Management] ページの [Server Manager] でサブスクリバ サーバを見つけます。
- ステップ 4** サブスクリバ サーバのステータスが [Primary] の場合は、この手順の以降のステップを省略して次の手順に進みます。
サブスクリバ サーバのステータスが [Secondary] の場合は、[ステップ 5](#)に進みます。
サブスクリバのステータスが [Deactivated] の場合は、[Secondary] に変更します。
 - a.** サブスクリバ サーバの [Change Server Status] カラムで [Activate] を選択します。
 - b.** サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。
 - c.** [Server Status] カラムでサブスクリバ サーバのステータスが [Secondary] になっていることを確認します。
- ステップ 5** サブスクリバ サーバの [Change Server Status] カラムで [Make Primary] を選択します。
- ステップ 6** サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。
変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更されたステータスが表示されます。



(注) パブリッシャ サーバのステータスは自動的に [Secondary] に変更されます。

パブリッシャ サーバのステータスを手動で [Secondary] から [Deactivated] に変更するには

-
- ステップ 1** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にログインします。
- ステップ 2** [Cisco Unity Connection] メニューで [Port Monitor] を選択します。右側のペインに [Port Monitor] ツールが表示されます。
- ステップ 3** [Node] フィールドでパブリッシャ サーバを選択します。
- ステップ 4** 右側のペインで [Start Polling] を選択します。
- ステップ 5** ボイス メッセージ ポートがサーバのコールを処理中でないかどうか確認します。
- ステップ 6** Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページに戻ります。
- ステップ 7** ボイス メッセージ ポートがパブリッシャ サーバのコールを処理中でない場合は、[ステップ 8](#) に進みます。パブリッシャ サーバのコールを処理しているボイス メッセージ ポートがある場合は、[Cluster Management] ページの [Change Port Status] でパブリッシャ サーバに対し [Stop Taking Calls] を選択して、パブリッシャ サーバのすべてのポートがアイドル状態であることが RTMT に表示されるのを待ちます。
- ステップ 8** [Server Manager] において、パブリッシャ サーバの [Change Server Status] カラムで [Deactivate] を選択します。
- ステップ 9** サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更されたサーバのステータスが表示されます。
-

交換用のパブリッシャ サーバまたはハードディスクを導入するには

-
- ステップ 1** パブリッシャ サーバをシャットダウンします。
サブスクリバ サーバでは、Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページの [Server Status] カラムでパブリッシャ サーバのステータスが [Not Functioning] であると表示されます。
- ステップ 2** パブリッシャ サーバを交換する場合は、古いパブリッシャ サーバからネットワーク ケーブルを取り外して新しいパブリッシャ サーバに接続します。
ハードディスクを交換する場合は、「[Connection 8.x サーバへの交換用ハードディスクの取り付け \(P.9-18\)](#)」の手順を実行します。
- ステップ 3** Connection を再インストールします。『[Installation Guide for Cisco Unity Connection](#)』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「[Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System \(Without a Connection Cluster\)](#)」の「Part 1: Installing and Configuring the Cisco Unity Connection Server」の手順を実行します。

Connection を再インストールする場合は、次の点に注意してください。

- サブスクリバ サーバにインストールされているものと同じソフトウェアおよび ES バージョンをインストールする必要があります。異なる場合、Connection クラスタが正常に機能しない可能性があります。
- 交換するパブリッシャ サーバと同じホスト名を指定する必要があります。異なる場合、Connection クラスタは機能しなくなります。
- 交換するパブリッシャ サーバと同じセキュリティ パスワードを指定する必要があります。このパスワードは、サブスクリバ サーバのセキュリティ パスワードとも一致します。異なる場合、Connection クラスタは機能しなくなります。セキュリティ パスワードがわからない場合は、パブリッシャ サーバを設置する前に、サブスクリバ サーバ上で `set password user` CLI コマンドを使用してパスワードを変更できます。詳細については、該当するバージョンの『[Command Line](#)』

Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

- (ハードディスクだけでなく) サーバ自体を交換する場合のみ、交換用パブリッシャ サーバの MAC アドレスを含む交換用ライセンスをインストールします。これを行わない場合、Connection は動作しません。

交換用パブリッシャ サーバでクラスタを構成するには

- ステップ 1** パブリッシャ サーバで Cisco Unity Connection Administration にログインします。
 - ステップ 2** Cisco Unity Connection Administration で [システム設定 (System Settings)] を展開してから、[クラスタ (Cluster)] を選択します。
 - ステップ 3** [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ページで [新規追加 (Add New)] を選択します。
 - ステップ 4** [新規サーバ設定 (New Server Configuration)] ページの [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドにサブスクリイバ サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
 - ステップ 5** [説明 (Description)] フィールドにサブスクリイバ サーバの説明を入力します。
 - ステップ 6** [保存 (Save)] を選択します。
 - ステップ 7** Cisco Unity Connection Administration からログアウトします。
-

サブスクリイバ サーバを新しい Connection クラスタに接続し、データおよびメッセージをパブリッシャ サーバにレプリケートするには

- ステップ 1** サブスクリイバ サーバの Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) にログインします。
- ステップ 2** `utils cuc cluster renegotiate` CLI コマンドを実行します。



(注) CLI コマンドが完了すると、パブリッシャ サーバは自動的に再起動します。

- ステップ 3** サブスクリイバ サーバで `show cuc cluster status` CLI コマンドを実行して、新しい Connection クラスタが正しく構成されていることを確認します。
-

クラスタを Connection サイトに再度追加するには (サイト内ネットワーキングが構成されている場合のみ)

サイト内ネットワーキングを使用している場合、クラスタを Connection サイトに再度追加します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

Connection 8.x クラスタ内のサブスクリバサーバまたはサブスクリバサーバのハードディスクの交換

Connection クラスタ内のサブスクリバサーバまたはサブスクリバサーバのハードディスクを交換できます。サブスクリバサーバの機能停止中は、パブリッシャサーバが Connection クラスタの機能をすべて処理し、システムに対するサービスが失われるのを防ぎます。

サーバまたはサーバ内のハードディスクを交換する場合、サブスクリバサーバを Connection クラスタから削除して交換用のサブスクリバサーバを追加します（ハードディスクを交換する場合、サーバのすべてのソフトウェアを再インストールする必要があります。これにより、事実上交換用サーバを準備することになります）。交換用サブスクリバサーバを設置すると、パブリッシャサーバはデータを交換用サブスクリバサーバにレプリケートします。システムに対するサービスが失われることはありません。交換用サブスクリバサーバのステータスが [Primary] または [Secondary] である場合、コールの処理を再開します。

サブスクリバサーバを交換する場合は、交換用サブスクリバサーバの MAC アドレスを含む交換用の Connection ライセンスを依頼する必要があります。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

この項に含まれる、該当する手順を示された順序で実行します。

交換用ライセンスを依頼するには（サブスクリバサーバを交換する場合のみ）

サブスクリバサーバ内のハードディスクではなくサブスクリバサーバ自体を交換する場合は、交換用サーバの MAC アドレスを含む交換用の Connection ライセンスを依頼します。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

パブリッシャサーバのステータスを手動で [Primary] に変更するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability にログインします。
- ステップ 2** [Tools] メニューで [Cluster Management] を選択します。
- ステップ 3** [Cluster Management] ページの [Server Manager] でパブリッシャサーバを見つけます。
- ステップ 4**

パブリッシャサーバのステータスが [Primary] の場合は、この手順の以降のステップを省略して次の手順に進みます。

パブリッシャサーバのステータスが [Secondary] の場合は、[ステップ 5](#)に進みます。

パブリッシャのステータスが [Deactivated] の場合は、[Secondary] に変更します。

 - a. パブリッシャサーバの [Change Server Status] カラムで [Activate] を選択します。
 - b. サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。
 - c. [Server Status] カラムでパブリッシャサーバのステータスが [Secondary] になっていることを確認します。
- ステップ 5** パブリッシャサーバの [Change Server Status] カラムで [Make Primary] を選択します。
- ステップ 6** サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。

変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更されたステータスが表示されます。



(注) サブスクリバサーバのステータスは自動的に [Secondary] に変更されます。

サブスクリバサーバのステータスを手動で [Secondary] から [Deactivated] に変更するには

- ステップ 1 Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にログインします。
- ステップ 2 [Cisco Unity Connection] メニューで [Port Monitor] を選択します。右側のペインに [Port Monitor] ツールが表示されます。
- ステップ 3 [Node] フィールドでサブスクリバサーバを選択します。
- ステップ 4 右側のペインで [Start Polling] を選択します。
- ステップ 5 ボイスメッセージポートがサーバのコールを処理中でないかどうか確認します。
- ステップ 6 Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページに戻ります。
- ステップ 7 ボイスメッセージポートがサーバのコールを処理中でない場合は、[ステップ 8](#)に進みます。
サブスクリバサーバのコールを処理しているボイスメッセージポートがある場合は、[Cluster Management] ページの [Change Port Status] でサブスクリバサーバに対し [Stop Taking Calls] を選択して、サーバのすべてのポートがアイドル状態であることが RTMT に表示されるのを待ちます。
- ステップ 8 [Server Manager] において、サブスクリバサーバの [Change Server Status] カラムで [Deactivate] を選択します。
- ステップ 9 サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。
変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更されたサーバのステータスが表示されます。

交換用のサブスクリバサーバまたはハードディスクを導入するには

- ステップ 1 サブスクリバサーバをシャットダウンします。
パブリッシャサーバでは、Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページの [Server Status] カラムでサブスクリバサーバのステータスが [Not Functioning] であると表示されます。
- ステップ 2 サブスクリバサーバを交換する場合は、古いサブスクリバサーバからネットワークケーブルを取り外して新しいサブスクリバサーバに接続します。
ハードディスクを交換する場合は、「[Connection 8.x サーバへの交換用ハードディスクの取り付け \(P.9-18\)](#)」の手順を実行します。
- ステップ 3 『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x system with a Connection Cluster Configured」の「Part 3: Configuring the Cluster, and Installing and Configuring the Subscriber Connection Server」の手順を実行します。
Connection を再インストールする場合は、次の点に注意してください。

- パブリッシャサーバにインストールされているものと同じソフトウェアおよび ES バージョンをインストールする必要があります。異なる場合、Connection クラスタが正常に機能しない可能性があります。
- 交換するサブスライバサーバと同じセキュリティパスワードを指定する必要があります。このパスワードは、パブリッシャサーバのセキュリティパスワードとも一致します。異なる場合、Connection クラスタは機能しなくなります。セキュリティパスワードがわからない場合は、サブスライバサーバを設置する前に、パブリッシャサーバ上で **set password user CLI** コマンドを使用してパスワードを変更できます。詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。
- (ハードディスクだけでなく) サーバ自体を交換する場合のみ、交換用サブスライバサーバの MAC アドレスを含む交換用ライセンスをインストールする必要があります。これを行わない場合、Connection は動作しません。

パブリッシャサーバの Connection Administration でサブスライバサーバのホスト名または IP アドレスを変更するには (サブスライバサーバのホスト名または IP アドレスを変更した場合のみ)

- ステップ 1** 交換用サブスライバサーバのホスト名または IP アドレスが元のサブスライバサーバと同じ場合は、この手順の以降のステップを省略して次の手順に進みます。
交換用サブスライバサーバのホスト名または IP アドレスが異なる場合は、パブリッシャサーバで Cisco Unity Connection Administration にログインします。
- ステップ 2** Cisco Unity Connection Administration で [システム設定 (System Settings)] を展開してから、[クラスタ (Cluster)] を選択します。
- ステップ 3** [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ページで [検索 (Find)] を選択して、クラスタ内のすべてのサーバを表示します。
- ステップ 4** サブスライバサーバの前のチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] を選択します。
- ステップ 5** サーバの削除の確認を求められたら、[OK] を選択します。
- ステップ 6** [新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 7** [新規サーバ設定 (New Server Configuration)] ページの [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドに交換用サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 8** [説明 (Description)] フィールドに「**Server 2**」などのサーバの説明を入力します。
- ステップ 9** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 10** Cisco Unity Connection Administration からログアウトします。

Connection クラスタが構成されているかを確認するには

- ステップ 1** サブスライバサーバの Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) にログインします。
- ステップ 2** **show cuc cluster status** CLI コマンドを実行します。

Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバおよびサブスクリバ サーバ、または両方のサーバのハードディスクの交換

次の該当する項を参照してください。

- 「交換前の両方の Connection 8.x サーバが使用可能であり、正常に機能している場合」 (P.9-9)
- 「交換前の Connection 8.x サーバがどちらも機能していない場合」 (P.9-15)

交換前の両方の Connection 8.x サーバが使用可能であり、正常に機能している場合

Connection クラスタ内のパブリッシャ サーバおよびサブスクリバ サーバの両方が使用可能であり、正常に機能している場合は、段階的なプロセスを踏むことで、両方のサーバまたは両方のサーバ内のハードディスクを交換できます。

- 一方のサーバの交換中は、もう一方のサーバが Connection クラスタの機能をすべて処理し、システムに対するサービスが失われるのを防ぎます。
- それぞれの交換用サーバが設置されると、もう一方のサーバがデータを交換用サーバにレプリケートします。

この項に含まれる、該当する手順を示された順序で実行します。

交換用ライセンスを依頼するには（両方のサーバを交換する場合のみ）

サーバ内のハードディスクではなく両方のサーバ自体を交換する場合は、交換用サーバの MAC アドレスを含む交換用の Connection ライセンスを依頼します。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

Connection サイトからクラスタを削除するには（サイト内ネットワークが構成されている場合のみ）

サイト内ネットワークを使用している場合、Connection サイトからクラスタを削除します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

パブリッシャサーバのステータスを手動で [Primary] に変更するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability にログインします。
- ステップ 2** [Tools] メニューで [Cluster Management] を選択します。
- ステップ 3** [Cluster Management] ページの [Server Manager] でパブリッシャサーバを見つけます。
- ステップ 4** パブリッシャサーバのステータスが [Primary] の場合は、この手順の以降のステップを省略して次の手順に進みます。
- パブリッシャサーバのステータスが [Secondary] の場合は、[ステップ 5](#)に進みます。
- パブリッシャのステータスが [Deactivated] の場合は、[Secondary] に変更します。
- パブリッシャサーバの [Change Server Status] カラムで [Activate] を選択します。
 - サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。
 - [Server Status] カラムでパブリッシャサーバのステータスが [Secondary] になっていることを確認します。
- ステップ 5** パブリッシャサーバの [Change Server Status] カラムで [Make Primary] を選択します。
- ステップ 6** サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。
- 変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更されたステータスが表示されます。



(注) サブスクリバサーバのステータスは自動的に [Secondary] に変更されます。

サブスクリバサーバのステータスを手動で [Secondary] から [Deactivated] に変更するには

- ステップ 1** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にログインします。
- ステップ 2** [Cisco Unity Connection] メニューで [Port Monitor] を選択します。右側のペインに [Port Monitor] ツールが表示されます。
- ステップ 3** [Node] フィールドでサブスクリバサーバを選択します。
- ステップ 4** 右側のペインで [Start Polling] を選択します。
- ステップ 5** ボイスメッセージポートがサーバのコールを処理中でないかどうか確認します。
- ステップ 6** Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページに戻ります。
- ステップ 7** ボイスメッセージポートがサーバのコールを処理中でない場合は、[ステップ 8](#)に進みます。
- サブスクリバサーバのコールを処理しているボイスメッセージポートがある場合は、[Cluster Management] ページの [Change Port Status] でサブスクリバサーバに対し [Stop Taking Calls] を選択して、サーバのすべてのポートがアイドル状態であることが RTMT に表示されるのを待ちます。
- ステップ 8** [Server Manager] において、サブスクリバサーバの [Change Server Status] カラムで [Deactivate] を選択します。
- ステップ 9** サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。
- 変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更されたサーバのステータスが表示されます。

交換用のサブスクリバ サーバまたはハードディスクを導入するには

- ステップ 1** サブスクリバ サーバをシャットダウンします。
- パブリッシャ サーバでは、Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページの [Server Status] カラムでサブスクリバ サーバのステータスが [Not Functioning] であると表示されません。
- ステップ 2** サブスクリバ サーバを交換する場合は、古いサブスクリバ サーバからネットワーク ケーブルを取り外して新しいサブスクリバ サーバに接続します。
- ハードディスクを交換する場合は、「[Connection 8.x サーバへの交換用ハードディスクの取り付け \(P.9-18\)](#)」の手順を実行します。
- ステップ 3** 『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「[Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x system with a Connection Cluster Configured](#)」の「[Part 3: Configuring the Cluster, and Installing and Configuring the Subscriber Connection Server](#)」の手順を実行します。
- Connection を再インストールする場合は、次の点に注意してください。
- パブリッシャ サーバにインストールされているものと同じソフトウェアおよび ES バージョンをインストールする必要があります。異なる場合、Connection クラスタが正常に機能しない可能性があります。
 - 交換するサブスクリバ サーバと同じセキュリティ パスワードを指定する必要があります。このパスワードは、パブリッシャ サーバのセキュリティ パスワードとも一致します。異なる場合、Connection クラスタは機能しなくなります。セキュリティ パスワードがわからない場合は、サブスクリバ サーバを設置する前に、パブリッシャ サーバ上で **set password user** CLI コマンドを使用してパスワードを変更できます。詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。
 - (ハードディスクだけでなく) サーバ自体を交換する場合のみ、交換用サブスクリバ サーバの MAC アドレスを含む交換用ライセンスをインストールする必要があります。これを行わない場合、Connection は動作しません。

パブリッシャ サーバの Connection Administration でサブスクリバ サーバのホスト名または IP アドレスを変更するには (サブスクリバ サーバのホスト名または IP アドレスを変更した場合のみ)

- ステップ 1** Connection の再インストール時に元のサブスクリバ サーバと同じホスト名および IP アドレスを指定した場合は、この手順を省略して次の手順に進みます。
- 交換用サブスクリバ サーバのホスト名または IP アドレスが異なる場合は、パブリッシャ サーバで Cisco Unity Connection Administration にログインします。
- ステップ 2** Cisco Unity Connection Administration で [システム設定 (System Settings)] を展開してから、[クラスタ (Cluster)] を選択します。
- ステップ 3** [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ページで [検索 (Find)] を選択して、クラスタ内のすべてのサーバを表示します。
- ステップ 4** サブスクリバ サーバの前のチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] を選択します。

- ステップ 5 サーバの削除の確認を求められたら、[OK] を選択します。
- ステップ 6 [新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 7 [新規サーバ設定 (New Server Configuration)] ページの [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドに交換用サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 8 [説明 (Description)] フィールドに「Server 2」などのサーバの説明を入力します。
- ステップ 9 [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 10 Cisco Unity Connection Administration からログアウトします。

Connection クラスタが交換用サブスクリバサーバで構成されているかを確認するには

- ステップ 1 サブスクリバサーバの Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) にログインします。
- ステップ 2 `show cuc cluster status` CLI コマンドを実行します。

サブスクリバサーバのステータスを手動で [Primary] に変更するには

- ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability にログインします。
- ステップ 2 [Tools] メニューで [Cluster Management] を選択します。
- ステップ 3 [Cluster Management] ページの [Server Manager] でサブスクリバサーバを見つけます。
- ステップ 4 サブスクリバサーバのステータスが [Primary] の場合は、この手順の以降のステップを省略して次の手順に進みます。サブスクリバサーバのステータスが [Secondary] の場合、サブスクリバサーバの [Change Server Status] カラムで [Make Primary] を選択します。
- ステップ 5 サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。
変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更されたステータスが表示されます。



(注) パブリッシャサーバのステータスは自動的に [Secondary] に変更されます。

パブリッシャサーバのステータスを手動で [Secondary] から [Deactivated] に変更するには

- ステップ 1 Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にログインします。
- ステップ 2 [Cisco Unity Connection] メニューで [Port Monitor] を選択します。右側のペインに [Port Monitor] ツールが表示されます。
- ステップ 3 [Node] フィールドでパブリッシャサーバを選択します。
- ステップ 4 右側のペインで [Start Polling] を選択します。
- ステップ 5 ボイスメッセージポートがサーバのコールを処理中でないかどうか確認します。
- ステップ 6 Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページに戻ります。
- ステップ 7 ボイスメッセージポートがパブリッシャサーバのコールを処理中でない場合は、ステップ 8 に進みます。

パブリッシャサーバのコールを処理しているボイスメッセージポートがある場合は、[Cluster Management] ページの [Change Port Status] でパブリッシャサーバに対し [Stop Taking Calls] を選択して、パブリッシャサーバのすべてのポートがアイドル状態であることが RTMT に表示されるのを待ちます。

- ステップ 8** [Server Manager] において、パブリッシャサーバの [Change Server Status] カラムで [Deactivate] を選択します。
- ステップ 9** サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。
変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更されたサーバのステータスが表示されます。


交換用のパブリッシャサーバまたはハードディスクを導入するには

- ステップ 1** パブリッシャサーバをシャットダウンします。
[Cluster Management] ページの [Server Status] カラムでパブリッシャサーバのステータスが [Not Functioning] であると表示されます。
- ステップ 2** パブリッシャサーバを交換する場合は、古いパブリッシャサーバからネットワークケーブルを取り外して新しいパブリッシャサーバに接続します。
ハードディスクを交換する場合は、「[Connection 8.x サーバへの交換用ハードディスクの取り付け \(P.9-18\)](#)」の手順を実行します。
- ステップ 3** Connection を再インストールします。『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「[Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System \(Without a Connection Cluster\)](#)」の「Part 1: Installing and Configuring the Cisco Unity Connection Server」の手順を実行します。
Connection を再インストールする場合は、次の点に注意してください。
- サブスクリバサーバにインストールされているものと同じソフトウェアおよび ES バージョンをインストールする必要があります。異なる場合、Connection クラスタが正常に機能しない可能性があります。
 - 交換するパブリッシャサーバと同じホスト名を指定する必要があります。異なる場合、Connection クラスタは機能しなくなります。
 - 交換するパブリッシャサーバと同じセキュリティパスワードを指定する必要があります。このパスワードは、サブスクリバサーバのセキュリティパスワードとも一致します。異なる場合、Connection クラスタは機能しなくなります。セキュリティパスワードがわからない場合は、パブリッシャサーバを設置する前に、サブスクリバサーバ上で **set password user** CLI コマンドを使用してパスワードを変更できます。詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。
 - (ハードディスクだけでなく) サーバ自体を交換する場合のみ、交換用パブリッシャサーバの MAC アドレスを含む交換用ライセンスをインストールする必要があります。これを行わない場合、Connection は動作しません。

交換用パブリッシャサーバでクラスタを構成するには

- ステップ 1 パブリッシャサーバで Cisco Unity Connection Administration にログインします。
- ステップ 2 Cisco Unity Connection Administration で [システム設定 (System Settings)] を展開してから、[クラスタ (Cluster)] を選択します。
- ステップ 3 [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ページで [新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 4 [新規サーバ設定 (New Server Configuration)] ページの [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドにサブスライバサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
- ステップ 5 [説明 (Description)] フィールドに「**Server 2**」などのサーバの説明を入力します。
- ステップ 6 [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 7 Cisco Unity Connection Administration からログアウトします。

サブスライバサーバを新しい Connection クラスタに接続し、データおよびメッセージをパブリッシャサーバにレプリケートするには

- ステップ 1 サブスライバサーバの Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) にログインします。
- ステップ 2 `utils cuc cluster renegotiate` CLI コマンドを実行します。

(注) CLI コマンドが完了すると、パブリッシャサーバは自動的に再起動します。
- ステップ 3 `show cuc cluster status` CLI コマンドを実行して、新しい Connection クラスタが正しく構成されていることを確認します。

クラスタを Connection サイトに再度追加するには (サイト内ネットワーキングが構成されている場合のみ)

サイト内ネットワーキングを使用している場合、クラスタを Connection サイトに再度追加します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「**Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x**」の章を参照してください。

交換前の Connection 8.x サーバがどちらも機能していない場合

Connection クラスタのパブリッシャ サーバもサブスクリバ サーバも機能しておらず、Connection データの復元に使用できる Disaster Recovery System バックアップがある場合は、両方のサーバまたは両方のサーバのハードディスクを同時に交換できます。このプロセスの間は、Connection クラスタはコールの応答はできません。

交換用パブリッシャ サーバを設置し、Disaster Recovery System を使用してバックアップ Connection データを復元します。その後、交換用サブスクリバ サーバを設置し、Connection によってパブリッシャ サーバからサブスクリバ サーバにデータをコピーします。コピーが完了すると、2 つのサーバ間のレプリケーションが再開されます。交換用サーバのステータスが [Primary] または [Secondary] である場合、コールの処理を行います。

この項に含まれる、該当する手順を示された順序で実行します。

交換用ライセンスを依頼するには（両方のサーバを交換する場合のみ）

サーバ内のハードディスクではなく両方のサーバ自体を交換する場合は、交換用サーバの MAC アドレスを含む交換用の Connection ライセンスを依頼します。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

交換用のパブリッシャ サーバまたはハードディスクを導入するには

ステップ 1 パブリッシャ サーバをシャットダウンします。

ステップ 2 パブリッシャ サーバを交換する場合は、古いパブリッシャ サーバからネットワーク ケーブルを取り外して新しいパブリッシャ サーバに接続します。



ハードディスクを交換する場合は、「[Connection 8.x サーバへの交換用ハードディスクの取り付け](#)」(P.9-18) の手順を実行します。

ステップ 3 Connection を再インストールします。『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「[Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System \(Without a Connection Cluster\)](#)」の「Part 1: Installing and Configuring the Cisco Unity Connection Server」の手順を実行します。

Connection を再インストールする場合は、次の点に注意してください。

- パブリッシャ サーバに以前インストールされていたものと同じソフトウェアおよび ES バージョンをインストールする必要があります。異なる場合、Disaster Recovery System による復元は失敗します。
- 以前のパブリッシャ サーバの値と同じホスト名および IP アドレスを指定する必要があります。異なる場合、Disaster Recovery System による復元は失敗します。
- (ハードディスクだけでなく) サーバ自体を交換する場合のみ、交換用パブリッシャ サーバの MAC アドレスを含む交換用ライセンスをインストールします。これを行わない場合、Connection は動作しません。

バックアップ データを交換用パブリッシャ サーバまたはハードディスクに復元するには

- ステップ 1** Disaster Recovery System にログインします。
- ステップ 2** [復元 (Restore)] メニューで [復元ウィザード (Restore Wizard)] を選択します。
- ステップ 3** [ステップ 1 復元: バックアップ デバイスの選択 (Step 1 Restore—Choose Backup Device)] ページの [デバイス名 (Device Name)] フィールドで、復元に使用するバックアップ デバイスの名前を選択し、[次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 4** [ステップ 2 復元: バックアップ Tar ファイルの選択 (Step 2 Restore—Choose the Backup Tar File)] ページの [バックアップ ファイルの選択 (Select Backup File)] フィールドで復元するバックアップ ファイルを選択し、[次へ (Next)] を選択します。
-  **(注)** バックアップ ファイル名は、システムがバックアップ ファイルを作成した日時を示します。
- ステップ 5** [ステップ 3 復元: 復元タイプの選択 (Step 3 Restore—Select the Type of Restore)] ページの [特殊機能 (Special Features)] で、復元する機能のチェックボックスをオンにして [次へ (Next)] を選択します。
-  **(注)** 選択したファイルにバックアップされていた機能のみがページに表示されます。
- ステップ 6** [ステップ 4 復元: 復元前の警告 (Step 4 Restore—Final Warning for Restore)] ページの [サーバの選択 (Select the Server)] フィールドでパブリッシャ サーバを選択し、[復元 (Restore)] を選択します。
-  **注意** パブリッシャ サーバの IP アドレスおよびホスト名は、Disaster Recovery System でデータをバックアップしたサーバと同じものである必要があります。異なる場合、Disaster Recovery System はデータを復元できません。
-  **(注)** 復元プロセス中は、Connection Administration による作業を実行しないでください。
- ステップ 7** 復元ステータスが 100% になったら、パブリッシャ サーバを再起動します。

交換用のサブスクリイバ サーバまたはハードディスクを導入するには

- ステップ 1** サブスクリイバ サーバをシャットダウンします。
- ステップ 2** サブスクリイバ サーバを交換する場合は、古いサブスクリイバ サーバからネットワーク ケーブルを取り外して新しいサブスクリイバ サーバに接続します。
- ハードディスクを交換する場合は、「[Connection 8.x サーバへの交換用ハードディスクの取り付け \(P.9-18\)](#)」の手順を実行します。
- ステップ 3** Connection を再インストールします。『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「[Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x system with a Connection Cluster Configured](#)」の「Part 3: Configuring the Cluster, and Installing and Configuring the Subscriber Connection Server」の手順を実行します。

Connection を再インストールする場合は、次の点に注意してください。

- パブリッシャ サーバにインストールされているものと同じソフトウェアおよび ES バージョンをインストールする必要があります。異なる場合、Connection クラスタが正常に機能しない可能性があります。
- パブリッシャ サーバと同じセキュリティ パスワードを指定する必要があります。異なる場合、Connection クラスタは機能しなくなります。セキュリティ パスワードがわからない場合は、サブスクリバ サーバを設置する前に、パブリッシャ サーバ上で **set password user** CLI コマンドを使用してパスワードを変更できます。詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。
- (ハードディスクだけでなく) サーバ自体を交換する場合のみ、交換用サブスクリバ サーバの MAC アドレスを含む交換用ライセンスをインストールする必要があります。これを行わない場合、Connection は動作しません。

パブリッシャ サーバからサブスクリバ サーバにデータをコピーするには

- ステップ 1** サブスクリバ サーバの Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) にログインします。
- ステップ 2** **utils cuc cluster overwrittenb** CLI コマンドを実行し、Connection によってパブリッシャ サーバからサブスクリバ サーバにデータをコピーします。
- ステップ 3** **show cuc cluster status** CLI コマンドを実行して、新しい Connection クラスタがサブスクリバ サーバで正しく構成されていることを確認します。
- ステップ 4** パブリッシャ サーバの CLI にログインします。
- ステップ 5** **show cuc cluster status** CLI コマンドを実行して、新しい Connection クラスタがパブリッシャ サーバで正しく構成されていることを確認します。

各電話システムで MWI を同期するには

- ステップ 1** オフピーク時に、Connection クラスタ内のどちらかのサーバにログインします。
- ステップ 2** Connection Administration で [テレフォニー統合 (Telephony Integrations)] を展開してから、[電話システム (Phone System)] を選択します。
- ステップ 3** [電話システムの検索 (Search Phone Systems)] ページで、1 番目の電話システムの名前を選択します。
- ステップ 4** [電話システムの基本設定 (Phone System Basics)] ページの [メッセージ受信インジケータ (Messaging Waiting Indicators)] で、[実行 (Run)] を選択します。
- ステップ 5** [次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 6** 残りの電話システムについて、[ステップ 4](#) および [ステップ 5](#) を繰り返します。

Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x サイト ゲートウェイの置き換え

Connection ネットワーキングが設定されている場合の Connection サイト ゲートウェイの置き換えについては、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章の「[Making Changes to a Connection Site Gateway](#)」を参照してください。

Connection 8.x サーバへの交換用ハードディスクの取り付け

この項の手順を使用して、インストールまたはアップグレードの一部としてサーバ内のすべてのハードディスクを空のディスクと交換します。



注意

Connection サーバ内のディスクをデータを含むディスクと交換しないでください。交換前に同じサーバの同じ RAID に含まれていたディスクでも使用できません。



注意

この項の手順は、Connection サーバ内のハードディスク交換プロセスの一部です。Connection サーバ内のハードディスクを交換する場合は、この章で既出の該当タスク リストを参照してください。Connection が正しく機能しなくなる場合があります。



警告

オン/オフ スイッチのあるシステムで作業を始める場合は、はじめに電源スイッチをオフにし、電源コードのプラグを抜いてください。ステートメント 1



警告

シャーシを開ける前に、電話網電圧に接触しないように電話網ケーブルの接続を切断します。ステートメント 2



警告

この装置の設置および保守作業は、AS/NZS 3260 Clause 1.2.14.3 Service Personnel に定められている保守担当者が行う必要があります。ステートメント 88



警告

作業中は、カードの静電破壊を防ぐため、必ず静電気防止用リストストラップを着用してください。感電する危険があるので、手や金属工具がバックプレーンに直接触れないようにしてください。ステートメント 94



警告

この製品には安全カバーが不可欠です。安全カバーを設置していない状態で装置を操作しないでください。安全カバーが正しく設置されていない装置を扱うと、安全認可が無効になり、火災や電気による事故を引き起こすおそれがあります。ステートメント 117



警告

雷が発生しているときは、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行わないでください。ステートメント 1001



警告

必ず設置手順を読んでから、システムを電源に接続してください。ステートメント 1004



警告

ラックに装置を取り付けたり、ラック内の装置の保守作業を行ったりする場合は、事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次の注意事項を守ってください。

- ラックに設置する装置が 1 台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。
- ラックに他の装置も設置する場合は、最も重量のあるコンポーネントをラックの最下部に設置し、軽いものをラック上部に設置してください。
- ラックに安定器具が付属している場合は、その安定器具を取り付けてから、装置をラックに設置したり、ラック内の装置の保守作業を行ってください。ステートメント 1006



警告

バッテリーが適正に交換されなかった場合、爆発の危険があります。製造元が推奨するものと同じまたは同等のバッテリーだけを使用してください。使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。ステートメント 1015



警告

この装置は、出入りが制限された場所に設置されることを想定しています。出入りが制限された場所とは、特殊なツール、ロックおよびキー、または他のセキュリティ手段を使用しないと入室できない場所を意味します。ステートメント 1017



警告

感電事故を防ぐため、Safety Extra-low Voltage (SELV; 安全超低電圧) 回路を Telephone-Network Voltage (TNV; 電話網電圧) 回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路、WAN ポートには TNV 回路が使用されています。LAN ポートおよび WAN ポートによっては、どちらも RJ-45 コネクタが使用されている場合があります。ケーブルを接続するときは注意してください。ステートメント 1021



警告

火災の危険性を抑えるため、No.26 AWG 以上の通信回線コードだけを使用してください。ステートメント 1023



警告

この装置はアース接続する必要があります。絶対にアース導体を破損させたり、アース線が正しく取り付けられていない装置を稼働させたりしないでください。アースが適切かどうかははっきりしない場合には、電気検査機関または電気技術者に確認してください。ステートメント 1024



警告

ブランクの前面プレートおよびカバー パネルには、3 つの重要な役割があります。シャーシ内の危険な電圧および電流による感電を防ぐこと、他の装置への EMI の影響を防ぐこと、およびシャーシ内の空気の流れを適切な状態に保つことです。必ずすべてのカード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーをスロットに正しく取り付けられた状態で、システムを運用してください。ステートメント 1029



警告

この装置の設置、交換、または保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030



警告

この製品を廃棄処分する際には、各国の法律および規制に従って取り扱ってください。ステートメント 1040

上記の安全上の警告の翻訳については、『*Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection*』
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html)
を参照してください。

Connection 8.x サーバに交換用ハードディスクの取り付けには

ステップ 1 カバーを取り外します。

ステップ 2 サーバのハードディスクをすべて交換します。



注意

Connection のインストールまたはアップグレードの一部としてハードディスクを交換する場合は、既存のハードディスクをすべて取り外し、それと同じ台数のハードディスクを取り付ける必要があります。台数が異なると、Connection のインストールまたはアップグレードは失敗します。

- a. サーバに設置されているハードディスクの現在の場所（ハードディスクとハードディスク スロットの対応関係を含む）を書き留めます。交換に失敗し、現在の構成に戻す必要が生じた場合に、既存のハードディスクを現在の場所に戻す必要があるためです。
- b. サーバからドライブトレイを取り外します。
- c. ドライブトレイから古いハードディスクを取り外します。
- d. 新しいハードディスクをドライブトレイに装着します。
- e. ステップ a. で書き留めた場所にドライブトレイを再度取り付けます。

ステップ 3 カバーを再度取り付けます。



CHAPTER 10

Cisco Unity Connection 8.x クラスタの作成または変更

この章は、次の項で構成されています。

- 「8.x サーバの追加による Connection クラスタの作成」 (P.10-1)
- 「Connection クラスタでない単一のサーバへの 8.x パブリッシャ サーバの変換」 (P.10-3)

8.x サーバの追加による Connection クラスタの作成

Connection 8.x サーバが 1 台ある場合は、サブスクリバ サーバを追加して Connection クラスタを作成できます。

この項の 3 つの手順を、示されている順序で実行します。

サブスクリバ サーバをインストールするには

『*Installation Guide for Cisco Unity Connection*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/installation/guide/8xcucigx.html) の「[Overview of Mandatory Tasks for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System](#)」の章にある「[Task List for Installing a Cisco Unity Connection 8.x System with a Connection Cluster Configured](#)」の「Part 3: Configuring the Cluster, and Installing and Configuring the Subscriber Connection Server」の手順を実行します。



注意

両方の Connection サーバに同じソフトウェアおよび ES バージョンがインストールされている必要があります。異なる場合、Connection クラスタが正常に機能しない可能性があります。

Connection クラスタの電話システムを設定するには

電話システム連動の種類に応じて、該当する資料を参照してください。

Skinny Client Control Protocol (SCCP) による Cisco Unified Communications Manager との連動

- a. サブスクリバ サーバに接続する電話システム上のポートを追加するには、該当する『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) の「Cisco Voicemail Port Wizard」の章にある「Adding Ports to an Existing Cisco Voice-Mail Server」を参照してください。
- b. 応答ボイスメール ポートの回線グループの [分散アルゴリズム (Distribution Algorithm)] フィールドを [優先度順 (Top Down)] に設定するには、該当する『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) の「Line Group Configuration」の章にある「Configuring a Line Group」を参照してください。

Skinny Client Control Protocol (SCCP) による Cisco Unified Communications Manager Express との連動

サブスクリバ サーバに接続する電話システム上のポートを追加するには、『*Cisco Unified Communications Manager Express System Administrator Guide*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps4625/products_installation_and_configuration_guides_list.html) の「Integrating Voicemail」の章にある「How to Configure Voice-Mail Integration」を参照してください。

SIP トランクによる Cisco Unified Communications Manager との連動

『*Cisco Unified Communications Manager SIP Trunk Integration Guide for Cisco Unity Connection 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guide) の「Programming the Cisco Unified Communications Manager Phone System for Integrating with Cisco Unity Connection」を参照してください。

SIP トランクによる Cisco Unified Communications Manager Express との連動

『*Cisco Unified Communications Manager Express SIP Trunk Integration Guide for Cisco Unity Connection 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html) の「Programming the Cisco Unified Communications Manager Express Phone System for Integrating with Cisco Unity Connection」を参照してください。

PIMG/TIMG 装置による連動

該当する Cisco Unity Connection 連動ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html) の「Setting Up the PIMG Units」または「Setting Up the TIMG Units」を参照してください。

SIP を使用するその他の連動

該当する Cisco Unity Connection 連動ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html) の「Programming the <電話システム名>」を参照してください。

クラスタ用に Cisco Unity Connection を設定するには

電話システム連動に応じて、該当する資料を参照してください。

Cisco Unified CM および Cisco Unified CM Express の連動

パブリッシャ サーバ上の該当するポート グループにボイス メッセージ ポートを追加するには、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing the Phone System Integrations](#)」の章にある「[Managing Ports](#)」を参照してください。



(注) Connection サーバのポート数の合計は、Cisco Unity Connection ライセンスによりイネーブルになっているポート数を超えないようにしてください。

PIMG/TIMG 連動を除くすべての電話システム連動

パブリッシャ サーバ上のポートを設定するには、該当する Cisco Unity Connection 連動ガイド

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html) の「[Creating the Integration with the <Phone System>](#)」を参照してください。

Connection クラスタでない単一のサーバへの 8.x パブリッシャ サーバの変換

サブスクリバ サーバを Connection クラスタから削除し、Connection クラスタを取り消すことができます。パブリッシャ サーバは Connection クラスタでない単一のサーバとなり、サブスクリバ サーバはネットワークから削除されます (Connection クラスタでない単一のサーバとしてサブスクリバ サーバを使用するには、サーバに Connection を再インストールする必要があります)。



(注) Connection クラスタからパブリッシャ サーバを削除することはできません。

この項の 5 つの手順を、示されている順序で実行します。

パブリッシャ サーバのステータスを手動で [Primary] に変更するには

- ステップ 1** Cisco Unity Connection Serviceability にログインします。
- ステップ 2** [Tools] メニューで [Cluster Management] を選択します。
- ステップ 3** [Cluster Management] ページの [Server Manager] でパブリッシャ サーバを見つけます。
- ステップ 4**

パブリッシャ サーバのステータスが [Primary] の場合は、この手順の以降のステップを省略して次の手順に進みます。

パブリッシャ サーバのステータスが [Secondary] の場合は、[ステップ 5](#)に進みます。

パブリッシャのステータスが [Deactivated] の場合は、[Secondary] に変更します。

 - a. パブリッシャ サーバの [Change Server Status] カラムで [Activate] を選択します。
 - b. サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。

- c. [Server Status] カラムでパブリッシャ サーバのステータスが [Secondary] になっていることを確認します。

ステップ 5 パブリッシャ サーバの [Change Server Status] カラムで [Make Primary] を選択します。

ステップ 6 サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。

変更が完了すると、[Server Status] カラムに変更されたステータスが表示されます。



(注) サブスクライバ サーバのステータスは自動的に [Secondary] に変更されます。

サブスクライバ サーバのステータスを手動で [Secondary] から [Deactivated] に変更するには

ステップ 1 Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にログインします。

ステップ 2 [Cisco Unity Connection] メニューで [Port Monitor] を選択します。右側のペインに [Port Monitor] ツールが表示されます。

ステップ 3 [Node] フィールドでサブスクライバ サーバを選択します。

ステップ 4 右側のペインで [Start Polling] を選択します。

ステップ 5 ボイス メッセージ ポートがサーバのコールを処理中でないかどうか確認します。

ステップ 6 ボイス メッセージ ポートがサーバのコールを処理中でない場合は、[ステップ 7](#)に進みます。

サーバのコールを処理しているボイス メッセージ ポートがある場合は、Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページの [Change Port Status] でサブスクライバ サーバに対し [Stop Taking Calls] を選択して、サーバのすべてのポートがアイドル状態であることが RTMT に表示されるのを待ちます。

ステップ 7 Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページにおいて、[Server Manager] の下にあるサブスクライバ サーバの [Change Server Status] カラムで [Deactivate] を選択します。

ステップ 8 サーバのステータス変更の確認を求められたら、[OK] を選択します。

変更が完了すると、[Server Status] カラムにサブスクライバ サーバの変更されたステータスが表示されます。

環境からサブスクライバ サーバを取り除くには

ステップ 1 サブスクライバ サーバをシャットダウンします。

[Server Status] カラムでサブスクライバ サーバのステータスが [Not Functioning] であると表示されます。

ステップ 2 サブスクライバ サーバからネットワーク ケーブルを取り外します。

サブスクライバ サーバを環境から取り除くことができます。

クラスタからサブスクライバ サーバを削除するには

ステップ 1 パブリッシャ サーバで Cisco Unity Connection Administration にログインします。

- ステップ 2** Cisco Unity Connection Administration で [システム設定 (System Settings)] を展開してから、[クラスター (Cluster)] を選択します。
- ステップ 3** [サーバの検索と一覧表示 (Find and List Servers)] ページで [検索 (Find)] を選択して、クラスター内のすべてのサーバを表示します。
- ステップ 4** サブスクライバサーバ名の前のチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] を選択します。
- ステップ 5** サーバの削除の確認を求められたら、[OK] を選択します。

すべてのコールが残っている Connection サーバに転送されるようにするには

電話システム連動の種類に応じて、該当する資料を参照してください。

Skippy Client Control Protocol (SCCP) による Cisco Unified Communications Manager との連動

- サブスクライバサーバに接続していた電話システム上のポートを削除するには、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。
- 電話システム上のボイスメールポートのハントグループを設定し、残っているサーバ (パブリッシャ) にだけコールを送信するようにします。

Skippy Client Control Protocol (SCCP) による Cisco Unified Communications Manager Express との連動

- サブスクライバサーバに接続していた電話システム上のポートを削除するには、『*Cisco Unified Communications Manager Express System Administration Guide*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps4625/products_installation_and_configuration_guides_list.html) を参照してください。
- 電話システム上のボイスメールポートのハントグループを設定し、残っているサーバ (パブリッシャ) にだけコールを送信するようにします。

SIP トランクによる Cisco Unified Communications Manager との連動

電話システム上のボイスメールポートのハントグループを設定し、残っているサーバ (パブリッシャ) にだけコールを送信するには、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

SIP トランクによる Cisco Unified Communications Manager Express との連動

電話システム上のボイスメールポートのハントグループを設定し、残っているサーバ (パブリッシャ) にだけコールを送信するには、『*Cisco Unified Communications Manager Express System Administration Guide*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps4625/products_installation_and_configuration_guides_list.html) を参照してください。

PIMG/TIMG 装置による連動

PIMG/TIMG 装置を設定し、コールをすべて残りのサーバ (パブリッシャ) に送信するには、該当する Cisco Unity Connection 連動ガイド (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html) の「Setting Up the PIMG Units」または「Setting Up the TIMG Units」を参照してください。

SIP を使用するその他の連動

電話システム上のボイスメール ポートのハント グループを設定し、残っているサーバ（パブリッシャ）にだけコールを送信するには、電話システムの資料を参照してください。



CHAPTER 11

Cisco Unity Connection 8.x サーバの IP アドレスの変更

この章は、次の項で構成されています。

- 「Connection 8.x サーバがホスト名または IP アドレスのどちらで定義されているかの判別」 (P.11-1)
- 「Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント」 (P.11-2)
- 「ホスト名で定義された単一の 8.x サーバの IP アドレスの変更 (非 Connection クラスタ)」 (P.11-3)
- 「IP アドレスで定義された単一の 8.x サーバの IP アドレスの変更 (非 Connection クラスタ)」 (P.11-5)
- 「ホスト名で定義された Connection 8.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更」 (P.11-8)
- 「IP アドレスで定義された Connection 8.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更」 (P.11-11)
- 「ホスト名で定義された Connection 8.x サブスクリイバ サーバの IP アドレスの変更」 (P.11-14)
- 「IP アドレスで定義された Connection 8.x サブスクリイバ サーバの IP アドレスの変更」 (P.11-17)
- 「Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x サイト ゲートウェイの IP アドレスの変更」 (P.11-19)

Connection 8.x サーバがホスト名または IP アドレスのどちらで定義されているかの判別

Connection サーバの IP アドレスを変更するための手順は、サーバがホスト名か IP アドレスで定義されているかによって異なります。

Connection 8.x サーバがホスト名または IP アドレスのどちらで定義されているかを判別するには

- ステップ 1** IP アドレスを変更するサーバで Cisco Unity Connection Administration にログインします。
- ステップ 2** [システム設定 (System Settings)] を展開して [クラスタ (Cluster)] を選択します。
クラスタを設定していない場合も [クラスタ (Cluster)] ページにアクセスします。
- ステップ 3** [検索 (Find)] を選択してクラスタ内のサーバの一覧を表示します。

- ステップ 4** IP アドレスを変更するサーバの [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] カラムの値がホスト名の場合、サーバはホスト名で定義されています。
- [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] カラムの値が IP アドレスの場合、サーバは IP アドレスで定義されています。
-

Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント

Connection サーバの IP アドレスを変更した場合、IP アドレスによって Connection サーバを参照するすべての関連コンポーネントで同様の変更を行う必要があります。

- クライアント コンピュータにおける次の Web アプリケーションへのブックマーク
 - Cisco Personal Communications Assistant
 - Cisco Unity Connection Administration
 - Real-Time Monitoring Tool
- Cisco Fax Server
- Cisco Unified Application Environment
- Cisco Unified Mobile Advantage
- Cisco Unified Presence
- Cisco Unified Personal Communicator
- Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook
- Connection にアクセスする IMAP E メール クライアント
- 電話システムおよび関連コンポーネント
 - Cisco EGW 2200
 - Cisco ISR 音声ゲートウェイ
 - Cisco SIP Proxy Server
 - Cisco Unified Communications Manager
 - Cisco Unified Communications Manager Express
 - PIMG/TIMG 装置
- RSS リーダー
- SMTP スマート ホスト
- 次を含む、VPIM によって Connection に連動しているボイス メッセージ システム
 - Cisco Unity
 - Cisco Unity Express

ホスト名で定義された単一の 8.x サーバの IP アドレスの変更 (非 Connection クラスタ)

**注意**

Connection サーバの IP アドレスの変更を業務時間内に行わないでください。変更内容を有効にするには、サーバを再起動する必要があります。

**注意**

Connection が仮想マシンにインストールされている場合、MAC アドレスの算出に仮想マシンの IP アドレスも使用されます。Connection 仮想マシンの IP アドレスを変更すると、新しい MAC アドレスを含む新規の Connection ライセンスを取得する必要があります。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

DHCP サーバから IP アドレスを取得するよう Connection サーバが設定されている場合、Connection での手順を使用してサーバの IP アドレスを手動で変更することはできません。その代わりに、次のいずれかを行う必要があります。

- DHCP/DNS の設定を変更し、**utils system restart** CLI コマンドを実行して Connection サーバを再起動します。
- **set network dhcp** CLI コマンドを実行して Connection サーバで DHCP をディセーブルにし、後述の手順に従って IP アドレスを手動で変更します。

CLI コマンドの詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

ホスト名で定義された単一の 8.x サーバの IP アドレスを変更するには (非 Connection クラスタ)

- ステップ 1** 関連コンポーネントの一覧を確認します。関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection を参照している場合、コンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスの変更が必要です。「[Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント](#)」(P.11-2) を参照してください。

**注意**

関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection サーバを参照していて、IP アドレスを適切に変更しない場合、コンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で、サーバが稼動して利用できることを確認します。
- a. RTMT を使用してサーバにログインします。
 - b. 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
 - c. 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、[ステップ 3](#) に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 3** Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。
- a. [Tools] メニューから [Cluster Management] を選択します。

- b. [Server Status] カラムで現在のサーバの値が [Primary] であることを確認します。[Server Status] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。

ステップ 4 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
```

```
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
```

```
=====
```

```
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
```

```
admin:
```

ステップ 5 Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsag.html) を参照してください。

ステップ 6 サイト内ネットワークを構成している場合、Connection サイトからサーバを削除します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。



注意

サーバを Connection サイトに再度追加する作業には時間がかかる場合があります。この手順を続ける前に、サーバをサイトに再度追加するのに必要な作業を十分に理解しておいてください。

ステップ 7 DNS サーバでサーバの DNS レコードを新しい IP アドレスに変更します。正引き用 (A) と逆引き用 (PTR) のレコードを両方とも更新します。

ステップ 8 サーバおよび該当する場合はデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを変更します。

- a. Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- b. [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
- c. [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドおよび該当する場合は [サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドの値を変更します。
- d. 新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] の [デフォルト ゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
- e. [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。

ステップ 9 RTMT で、サーバが稼動していて利用できることを確認します。

- a. RTMT を使用してサーバにログインします。
- b. 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
- c. 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、[ステップ 10](#)に進みます。

[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。

- ステップ 10** RTMT のカスタム アラートと保存済みプロファイルを更新します。
- パフォーマンス カウンタに基づく RTMT のカスタム アラートには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除し、再度設定する必要があります。
 - パフォーマンス カウンタを含む RTMT の保存済みプロファイルには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して、新しい IP アドレスに更新します。
- ステップ 11** 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します (必要な変更の手段については、対象製品の資料を参照してください)。「[Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント](#)」(P.11-2) を参照してください。
- ステップ 12** IP アドレスを変更する前にサーバが Connection サイトに含まれていた場合、サーバをサイトに再度追加します。手順については、『[Networking Guide for Cisco Unity Connection](#)』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。
- ステップ 13** Connection が仮想マシンにインストールされている場合：新しい IP アドレスに基づく新規ライセンスを取得してインストールします。詳細については、『[System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x](#)』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。
- ステップ 14** Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『[Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x](#)』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsag.html) を参照してください。

IP アドレスで定義された単一の 8.x サーバの IP アドレスの変更 (非 Connection クラスタ)



注意

Connection が仮想マシンにインストールされている場合、MAC アドレスの算出に仮想マシンの IP アドレスも使用されます。Connection 仮想マシンの IP アドレスを変更すると、新しい MAC アドレスを含む新規の Connection ライセンスを取得する必要があります。詳細については、『[System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x](#)』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。



注意

Connection サーバの IP アドレスの変更を業務時間内に行わないでください。変更内容を有効にするには、サーバを再起動する必要があります。

DHCP サーバから IP アドレスを取得するよう Connection サーバが設定されている場合、Connection での手順を使用してサーバの IP アドレスを手動で変更することはできません。その代わりに、次のいずれかを行う必要があります。

IP アドレスで定義された単一の 8.x サーバの IP アドレスの変更 (非 Connection クラスタ)

- DHCP/DNS の設定を変更し、**utils system restart** CLI コマンドを実行して Connection サーバを再起動します。
- **set network dhcp** CLI コマンドを実行して Connection サーバで DHCP をディセーブルにし、後述の手順に従って IP アドレスを手動で変更します。

CLI コマンドの詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

IP アドレスで定義された単一の 8.x サーバの IP アドレスを変更するには (非 Connection クラスタ)

- ステップ 1** 関連コンポーネントの一覧を確認します。関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection を参照している場合、コンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスの変更が必要です。
「[Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント](#)」(P.11-2) を参照してください。

**注意**

関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection サーバを参照していて、IP アドレスを適切に変更しない場合、コンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で、サーバが稼動して利用できることを確認します。
- RTMT を使用してサーバにログインします。
 - 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
 - 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、[ステップ 3](#) に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 3** Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。
- [Tools] メニューから [Cluster Management] を選択します。
 - [Server Status] カラムで現在のサーバの値が [Primary] であることを確認します。[Server Status] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
```

```
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
```

```
=====
```

```
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
```

```
admin:
```

- ステップ 5** Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsag.html) を参照してください。

- ステップ 6** サイト内ネットワークを構成している場合、Connection サイトからサーバを削除します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

**注意**

サーバを Connection サイトに再度追加する作業には時間がかかる場合があります。この手順を続ける前に、サーバをサイトに再度追加するのに必要な作業を十分に理解しておいてください。

- ステップ 7** DNS サーバでサーバの DNS レコードを新しい IP アドレスに変更します。正引き用 (A) と逆引き用 (PTR) のレコードを両方とも更新します。
- ステップ 8** Connection Administration でサーバの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unity Connection Administration にログインします。
 - [システム設定 (System Settings)] を展開して [クラスタ (Cluster)] を選択します。
 - [検索 (Find)] を選択してクラスタ内のサーバの一覧を表示します。
 - サーバの名前を選択します。
 - [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドの値を新しい IP アドレスに変更します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 9** サーバおよび該当する場合はデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
 - [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドおよび該当する場合は [サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドの値を変更します。
 - 新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにサーバを移動する場合、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] の [デフォルト ゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
 - [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。
- ステップ 10** RTMT で、サーバが稼働していて利用できることを確認します。
- RTMT を使用してサーバにログインします。
 - 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
 - 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、**ステップ 10** に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 11** RTMT のカスタム アラートと保存済みプロファイルを更新します。
- パフォーマンス カウンタに基づく RTMT のカスタム アラートには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除し、再度設定する必要があります。
 - パフォーマンス カウンタを含む RTMT の保存済みプロファイルには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して、新しい IP アドレスに更新します。
- ステップ 12** 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します (必要な変更の手段については、対象製品の資料を参照してください)。「[Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント](#)」(P.11-2) を参照してください。

- ステップ 13** IP アドレスを変更する前にサーバが Connection サイトに含まれていた場合、サーバをサイトに再度追加します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「*Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x*」の章を参照してください。
- ステップ 14** *Connection* が仮想マシンにインストールされている場合：新しい IP アドレスに基づく新規ライセンスを取得してインストールします。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「*Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x*」の章を参照してください。
- ステップ 15** Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdras.html) を参照してください。

ホスト名で定義された Connection 8.x パブリッシャ サーバの IP アドレスの変更



注意

Connection が仮想マシンにインストールされている場合、MAC アドレスの算出に仮想マシンの IP アドレスも使用されます。*Connection* 仮想マシンの IP アドレスを変更すると、新しい MAC アドレスを含む新規の *Connection* ライセンスを取得する必要があります。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「*Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x*」の章を参照してください。



注意

Connection サーバの IP アドレスの変更を業務時間内に行わないでください。*Connection* クラスタが構成されている場合、変更内容を有効にするには、両方のサーバを再起動する必要があります。

DHCP サーバから IP アドレスを取得するよう *Connection* サーバが設定されている場合、*Connection* での手順を使用してサーバの IP アドレスを手動で変更することはできません。その代わりに、次のいずれかを行う必要があります。

- DHCP/DNS の設定を変更し、**utils system restart** CLI コマンドを実行して *Connection* サーバを再起動します。
- **set network dhcp** CLI コマンドを実行して *Connection* サーバで DHCP をディセーブルにし、後述の手順に従って IP アドレスを手動で変更します。

CLI コマンドの詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

ホスト名で定義された Connection 8.x パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更するには

- ステップ 1** 関連コンポーネントの一覧を確認します。関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection を参照している場合、コンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスの変更が必要です。
「[Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント](#)」(P.11-2) を参照してください。

**注意**

関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection サーバを参照していて、IP アドレスを適切に変更しない場合、コンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) でパブリッシャ サーバとサブスクライバ サーバが稼動して利用できることを確認します。
- RTMT を使用してパブリッシャ サーバにログインします。
 - 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
 - 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
 - サブスクライバ サーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。
- ステップ 3** パブリッシャ サーバで Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。
- [Tools] メニューから [Cluster Management] を選択します。
 - [Server Status] カラムで現在のサーバの値が [Primary] または [Secondary] であることを確認します。[Server Status] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
```

```
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
```

```
=====
```

```
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
```

```
admin:
```

- ステップ 5** Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdr ag.html) を参照してください。
- ステップ 6** サイト内ネットワークを構成している場合、Connection サイトからパブリッシャ サーバを削除します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

**注意**

サーバを Connection サイトに再度追加する作業には時間がかかる場合があります。この手順を続ける前に、サーバをサイトに再度追加するのに必要な作業を十分に理解しておいてください。

- ステップ 7** DNS サーバでパブリッシャ サーバの DNS レコードを新しい IP アドレスに変更します。正引き用 (A) と逆引き用 (PTR) のレコードを両方とも更新します。
- ステップ 8** サブスクライバ サーバでパブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [パブリッシャ (Publisher)] を選択します。
 - パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 9** パブリッシャ サーバで、パブリッシャ サーバおよび該当する場合はデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
 - [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドおよび該当する場合は [サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドの値を変更します。
 - 新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにパブリッシャ サーバを移動する場合、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] の [デフォルト ゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
 - [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。
- ステップ 10** SSH アプリケーションを使用してサブスクライバ サーバにログインし、**utils system restart CLI** コマンドを実行してサーバを再起動して、ローカル名前解決ファイルを更新します。
- ステップ 11** RTMT でパブリッシャ サーバとサブスクライバ サーバが稼動していて利用できることを確認します。
- RTMT を使用してパブリッシャ サーバにログインします。
 - 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
 - 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
 - サブスクライバ サーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。
- ステップ 12** RTMT のカスタム アラートと保存済みプロファイルを更新します。
- パフォーマンス カウンタに基づく RTMT のカスタム アラートには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除し、再度設定する必要があります。
 - パフォーマンス カウンタを含む RTMT の保存済みプロファイルには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して、新しい IP アドレスに更新します。
- ステップ 13** 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します (必要な変更の手段については、対象製品の資料を参照してください)。「[Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント](#)」(P.11-2) を参照してください。

- ステップ 14** IP アドレスを変更する前にパブリッシャ サーバが Connection サイトに含まれていた場合、サーバをサイトに再度追加します。手順については、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「**Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x**」の章を参照してください。
- ステップ 15** *Connection* が仮想マシンにインストールされている場合：新しい IP アドレスに基づく新規ライセンスを取得してインストールします。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「**Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x**」の章を参照してください。
- ステップ 16** Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsa.html) を参照してください。

IP アドレスで定義された Connection 8.x パブリッシャサーバの IP アドレスの変更



注意

Connection が仮想マシンにインストールされている場合、MAC アドレスの算出に仮想マシンの IP アドレスも使用されます。*Connection* 仮想マシンの IP アドレスを変更すると、新しい MAC アドレスを含む新規の *Connection* ライセンスを取得する必要があります。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「**Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x**」の章を参照してください。



注意

Connection サーバの IP アドレスの変更を業務時間内に行わないでください。*Connection* クラスタが構成されている場合、変更内容を有効にするには、両方のサーバを再起動する必要があります。

DHCP サーバから IP アドレスを取得するよう *Connection* サーバが設定されている場合、*Connection* での手順を使用してサーバの IP アドレスを手動で変更することはできません。その代わりに、次のいずれかを行う必要があります。

- DHCP/DNS の設定を変更し、**utils system restart** CLI コマンドを実行して *Connection* サーバを再起動します。
- **set network dhcp** CLI コマンドを実行して *Connection* サーバで DHCP をディセーブルにし、後述の手順に従って IP アドレスを手動で変更します。

CLI コマンドの詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

IP アドレスで定義された Connection 8.x パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更するには

- ステップ 1** 関連コンポーネントの一覧を確認します。関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection を参照している場合、コンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスの変更が必要です。
「[Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント](#)」(P.11-2) を参照してください。

**注意**

関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection サーバを参照していて、IP アドレスを適切に変更しない場合、コンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) でパブリッシャ サーバとサブスクリバ サーバが稼動して利用できることを確認します。

- a. RTMT を使用してパブリッシャ サーバにログインします。
- b. 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
- c. 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- d. サブスクリバ サーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。

- ステップ 3** パブリッシャ サーバで Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。

- a. [Tools] メニューから [Cluster Management] を選択します。
- b. [Server Status] カラムで現在のサーバの値が [Primary] または [Secondary] であることを確認します。[Server Status] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。

- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
```

```
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
```

```
=====
```

```
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
```

```
admin:
```

- ステップ 5** サイト内ネットワークを構成している場合、Connection サイトからパブリッシャ サーバを削除します。手順については、『[Networking Guide for Cisco Unity Connection](#)』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

**注意**

サーバを Connection サイトに再度追加する作業には時間がかかる場合があります。この手順を続ける前に、サーバをサイトに再度追加するのに必要な作業を十分に理解しておいてください。

- ステップ 6** Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrs_ag.html) を参照してください。
- ステップ 7** パブリッシャ サーバの Connection Administration でパブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unity Connection Administration にログインします。
 - [システム設定 (System Settings)] を展開して [クラスタ (Cluster)] を選択します。
 - [検索 (Find)] を選択してクラスタ内のサーバの一覧を表示します。
 - パブリッシャ サーバの名前を選択します。
 - [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドの値を新しい IP アドレスに変更します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 8** パブリッシャ サーバの Cisco Unified Operating System Administration で、パブリッシャ サーバおよび該当する場合はデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
 - [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドおよび該当する場合は [サブネット マスク (Subnet Mask)] フィールドの値を変更します。
 - 新しいデフォルト ゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにパブリッシャ サーバを移動する場合、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] の [デフォルト ゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
 - [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。
- ステップ 9** サブスクライバ サーバでパブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
 - [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [パブリッシャ (Publisher)] を選択します。
 - パブリッシャ サーバの IP アドレスを変更します。
 - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 10** SSH アプリケーションを使用してサブスクライバ サーバにログインし、**utils system restart CLI** コマンドを実行してサーバを再起動して、ローカル名前解決ファイルを更新します。
- ステップ 11** RTMT でパブリッシャ サーバとサブスクライバ サーバが稼動して利用できることを確認します。
- RTMT を使用してパブリッシャ サーバにログインします。
 - 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
 - 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
 - サブスクライバ サーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。
- ステップ 12** RTMT のカスタム アラートと保存済みプロファイルを更新します。
- パフォーマンス カウンタに基づく RTMT のカスタム アラートには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除し、再度設定する必要があります。

- パフォーマンス カウンタを含む RTMT の保存済みプロファイルには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して、新しい IP アドレスに更新します。

- ステップ 13** 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します（必要な変更の手段については、対象製品の資料を参照してください）。「[Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント](#)」(P.11-2) を参照してください。
- ステップ 14** IP アドレスを変更する前にパブリッシャサーバが Connection サイトに含まれていた場合、サーバをサイトに再度追加します。手順については、『[Networking Guide for Cisco Unity Connection](#)』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。
- ステップ 15** Connection が仮想マシンにインストールされている場合：新しい IP アドレスに基づく新規ライセンスを取得してインストールします。詳細については、『[System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x](#)』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。
- ステップ 16** Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『[Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x](#)』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsa.html) を参照してください。

ホスト名で定義された Connection 8.x サブスクライバサーバの IP アドレスの変更



注意

Connection が仮想マシンにインストールされている場合、MAC アドレスの算出に仮想マシンの IP アドレスも使用されます。Connection 仮想マシンの IP アドレスを変更すると、新しい MAC アドレスを含む新規の Connection ライセンスを取得する必要があります。詳細については、『[System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x](#)』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。



注意

Connection サーバの IP アドレスの変更を業務時間内に行わないでください。Connection クラスタが構成されている場合、変更内容を有効にするには、両方のサーバを再起動する必要があります。

DHCP サーバから IP アドレスを取得するよう Connection サーバが設定されている場合、Connection での手順を使用してサーバの IP アドレスを手動で変更することはできません。その代わりに、次のいずれかを行う必要があります。

- DHCP/DNS の設定を変更し、**utils system restart** CLI コマンドを実行して Connection サーバを再起動します。
- set network dhcp** CLI コマンドを実行して Connection サーバで DHCP をディセーブルにし、後述の手順に従って IP アドレスを手動で変更します。

CLI コマンドの詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

ホスト名で定義された Connection 8.x サブスクリバサーバの IP アドレスを変更するには

- ステップ 1** 関連コンポーネントの一覧を確認します。関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection を参照している場合、コンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスの変更が必要です。「[Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント](#)」(P.11-2) を参照してください。



注意

関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection サーバを参照していて、IP アドレスを適切に変更しない場合、コンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

- ステップ 2** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) でパブリッシャサーバとサブスクリバサーバが稼動して利用できることを確認します。
- RTMT を使用してパブリッシャサーバにログインします。
 - 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
 - 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
 - サブスクリバサーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。
- ステップ 3** サブスクリバサーバで Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。
- [Tools] メニューから [Cluster Management] を選択します。
 - [Server Status] カラムで現在のサーバの値が [Primary] または [Secondary] であることを確認します。[Server Status] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。

```
admin: utils diagnose module validate_network
```

```
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```

```
Starting diagnostic test(s)
```

```
=====
```

```
test - validate_network : Passed
```

```
Diagnostics Completed
```

```
admin:
```

- ステップ 5** Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdr ag.html) を参照してください。
- ステップ 6** DNS サーバでサブスクリバサーバの DNS レコードを新しい IP アドレスに変更します。正引き用 (A) と逆引き用 (PTR) のレコードを両方とも更新します。

ステップ 7 サブスクリバサーバとパブリッシャサーバで次の 2 つの CLI コマンドを使用して、DNS の変更がパブリッシャサーバに伝送されることを確認します。

```
utils network host
```

```
show tech network hosts
```

ステップ 8 サブスクリバサーバで、サブスクリバサーバおよび該当する場合はデフォルトゲートウェイの IP アドレスを変更します。

- a. Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- b. [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
- c. [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドおよび該当する場合は [サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドの値を変更します。
- d. 新しいデフォルトゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにパブリッシャサーバを移動する場合、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] の [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
- e. [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。

ステップ 9 SSH アプリケーションを使用してパブリッシャサーバにログインし、**utils system restart** CLI コマンドを実行してサーバを再起動して、ローカル名前解決ファイルを更新します。

ステップ 10 RTMT でパブリッシャサーバとサブスクリバサーバが稼動して利用できることを確認します。

- a. RTMT を使用してパブリッシャサーバにログインします。
- b. 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
- c. 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- d. サブスクリバサーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。

ステップ 11 RTMT のカスタムアラートと保存済みプロファイルを更新します。

- パフォーマンスカウンタに基づく RTMT のカスタムアラートには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カスタムアラートを削除し、再度設定する必要があります。
- パフォーマンスカウンタを含む RTMT の保存済みプロファイルには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して、新しい IP アドレスに更新します。

ステップ 12 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します（必要な変更の手段については、対象製品の資料を参照してください）。「[Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント](#)」(P.11-2) を参照してください。

ステップ 13 *Connection* が仮想マシンにインストールされている場合：新しい IP アドレスに基づく新規ライセンスを取得してインストールします。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

ステップ 14 Disaster Recovery System を使用してパブリッシャサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrags.html) を参照してください。

IP アドレスで定義された Connection 8.x サブスクリバサーバの IP アドレスの変更

**注意**

Connection が仮想マシンにインストールされている場合、MAC アドレスの算出に仮想マシンの IP アドレスも使用されます。Connection 仮想マシンの IP アドレスを変更すると、新しい MAC アドレスを含む新規の Connection ライセンスを取得する必要があります。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』

(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

**注意**

Connection サーバの IP アドレスの変更を業務時間内に行わないでください。Connection クラスターが構成されている場合、変更内容を有効にするには、両方のサーバを再起動する必要があります。

DHCP サーバから IP アドレスを取得するよう Connection サーバが設定されている場合、Connection での手順を使用してサーバの IP アドレスを手動で変更することはできません。その代わりに、次のいずれかを行う必要があります。

- DHCP/DNS の設定を変更し、**utils system restart** CLI コマンドを実行して Connection サーバを再起動します。
- **set network dhcp** CLI コマンドを実行して Connection サーバで DHCP をディセーブルにし、後述の手順に従って IP アドレスを手動で変更します。

CLI コマンドの詳細については、該当するバージョンの『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』

(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

IP アドレスで定義された Connection 8.x サブスクリバサーバの IP アドレスを変更するには

ステップ 1

関連コンポーネントの一覧を確認します。関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection を参照している場合、コンポーネントでも Connection サーバの IP アドレスの変更が必要です。「[Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント](#)」(P.11-2) を参照してください。

**注意**

関連コンポーネントが IP アドレスによって Connection サーバを参照していて、IP アドレスを適切に変更しない場合、コンポーネントは Connection サーバにアクセスできなくなります。

ステップ 2

Real-Time Monitoring Tool (RTMT) でパブリッシャサーバとサブスクリバサーバが稼動して利用できることを確認します。

- a. RTMT を使用してパブリッシャサーバにログインします。
- b. 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
- c. 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。

[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。

- d. サブスクリバサーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。

- ステップ 3** サブスクリバサーバで Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。
- [Tools] メニューから [Cluster Management] を選択します。
 - [Server Status] カラムで現在のサーバの値が [Primary] または [Secondary] であることを確認します。[Server Status] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 4** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。
- ```
admin: utils diagnose module validate_network
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```
- ```
Starting diagnostic test(s)
=====
test - validate_network : Passed
```
- ```
Diagnostics Completed
admin:
```
- ステップ 5** Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 ([http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/8x/drs\\_administration/guide/8xcucdrsag.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsag.html)) を参照してください。
- ステップ 6** パブリッシャサーバでサブスクリバサーバの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unity Connection Administration にログインします。
  - [システム設定 (System Settings)] を展開して [クラスタ (Cluster)] を選択します。
  - [検索 (Find)] を選択してクラスタ内のサーバの一覧を表示します。
  - サブスクリバサーバの名前を選択します。
  - [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドの値を新しい IP アドレスに変更します。
  - [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 7** サブスクリバサーバで、サブスクリバサーバおよび該当する場合はデフォルトゲートウェイの IP アドレスを変更します。
- Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
  - [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
  - [ポート情報 (Port Information)] で、[IP アドレス (IP Address)] フィールドおよび該当する場合は [サブネットマスク (Subnet Mask)] フィールドの値を変更します。
  - 新しいデフォルトゲートウェイのアドレスを必要とする別のサブネットにパブリッシャサーバを移動する場合、[ゲートウェイ情報 (Gateway Information)] の [デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)] フィールドの値を変更します。
  - [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。
- ステップ 8** SSH アプリケーションを使用してパブリッシャサーバにログインし、**utils system restart** CLI コマンドを実行してサーバを再起動して、ローカル名前解決ファイルを更新します。
- ステップ 9** RTMT でパブリッシャサーバとサブスクリバサーバが稼働して利用できることを確認します。
- RTMT を使用してパブリッシャサーバにログインします。

- b. 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
- c. 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、ステップ d. に進みます。  
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- d. サブスクライバ サーバでステップ a. ～ステップ c. を繰り返します。

**ステップ 10** RTMT のカスタム アラートと保存済みプロファイルを更新します。

- パフォーマンス カウンタに基づく RTMT のカスタム アラートには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カスタム アラートを削除し、再度設定する必要があります。
- パフォーマンス カウンタを含む RTMT の保存済みプロファイルには、ハードコーディングされたサーバの IP アドレスが含まれています。カウンタを削除してから再度追加し、プロファイルを保存して、新しい IP アドレスに更新します。

**ステップ 11** 関連コンポーネントを確認し、必要に応じて設定を変更します（必要な変更の手段については、対象製品の資料を参照してください）。「[Connection 8.x サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント](#)」(P.11-2) を参照してください。

**ステップ 12** *Connection* が仮想マシンにインストールされている場合：新しい IP アドレスに基づく新規ライセンスを取得してインストールします。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』（[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html)）の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

**ステップ 13** Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』（[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/8x/drs\\_administration/guide/8xcucdrsg.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsg.html)）を参照してください。

## Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x サイトゲートウェイの IP アドレスの変更

Connection ネットワーキングが設定されている場合の Connection サイトゲートウェイの置き換えについては、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』（[http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html)）の「[Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章の「[Making Changes to a Connection Site Gateway](#)」を参照してください。





## CHAPTER 12

# Cisco Unity Connection 8.5 以降のサーバにおける IPv6 アドレスの追加または変更

この章は、次の項で構成されています。

- 「[Connection 8.5 以降における IPv6 の有効化と IPv6 アドレスの追加](#)」 (P.12-1)
- 「[IPv6 アドレスの変更 \(Cisco Unity Connection 8.5 以降\)](#)」 (P.12-4)

## Connection 8.5 以降における IPv6 の有効化と IPv6 アドレスの追加

Cisco Unity Connection 8.5 以降では、SCCP または SIP を使用した Internet Protocol Version 6 (IPv6; インターネット プロトコル バージョン 6) を有効化し、Cisco Unified Communications Manager 電話システム連動に使用することができます。IPv6 はデフォルトでは無効です。Cisco Unified CM 連動に IPv6 を導入する場合は、次の考慮事項に注意してください。

- IPv6 は、Cisco Unified CM Release 7.1(2) 以降でサポートされます。
- Connection と Cisco Unified CM 間の SCCP 連動用セキュリティ機能 (認証および暗号化) に必要な CTL ファイルは、IPv4 アドレッシングを使用します。このため、SCCP セキュア ポートの認証および暗号化を使用するには、Connection のポート グループ内の Cisco Unified CM サーバに対して IPv4 のアドレスかホスト名を保持する必要があります。
- Cisco Adaptive Security Appliance (ASA; 適応型セキュリティ アプライアンス) の一部のバージョンは、ユニファイド コミュニケーション アプリケーション サーバおよびエンドポイントの IPv6 トラフィックに対するアプリケーション検査をサポートしていません。このサポートを提供していない Cisco ASA を使用している場合は、ユニファイド コミュニケーションに IPv6 を使用しないことを推奨します。使用している配置で、アプリケーション検査がサポートされているかどうかを判断するには、資料で Cisco ASA のバージョンを参照してください。

Connection サーバが SCCP または SIP を使用してすでに Cisco Unified CM と連動している場合、IPv6 を有効化し、サーバの IPv6 アドレスを設定するには、次のタスク リストを使用します (サーバがまだ Cisco Unified CM と連動していない場合、手順については該当するインテグレーション ガイドを参照してください)。

**注意**

業務時間内に IPv6 を有効化しないでください。変更内容を有効にするには、サーバを再起動する必要があります。

1. Cisco Unified Operating System Administration で IPv6 を有効化して設定します。『Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x』 ([http://www.cisco.com/en/US/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/8x/os\\_administration/guide/8xcucosagx.html](http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/os_administration/guide/8xcucosagx.html)) の「Settings」の章の「IP Settings」を参照してください。
2. IPv6 対応の Cisco Unified CM 電話システムをまだ設定していない場合: 使用しているリリースの Cisco Unified CM の『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Internet Protocol Version 6」の章の「Configuration Checklist for IPv6」セクションの手順に従ってください。このガイドは、  
[http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5556/prod\\_maintenance\\_guides\\_list.html](http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps5556/prod_maintenance_guides_list.html) から入手できます。
3. Connection サーバが、SIP を使用して Cisco Unified CM と連動している場合: SIP トランクに IPv6 宛先アドレスを設定し、トランクをリセットします。「Cisco Unified Communications Manager SIP トランクへの Cisco Unity Connection IPv6 宛先アドレスの設定」(P.12-2) の手順を参照してください。
4. Cisco Unified CM 連動用の、IPv6 アドレスおよびアドレッシングモードを設定します。「Cisco Unity Connection Administration における Cisco Unified Communications Manager 電話システム連動のための IPv6 アドレスおよびアドレッシングモードの設定」(P.12-2) の手順を参照してください。

### Cisco Unified Communications Manager SIP トランクへの Cisco Unity Connection IPv6 宛先アドレスの設定

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration にログインします。
- ステップ 2 [デバイス (Device)] メニューで、[トランク (Trunk)] を選択します。
- ステップ 3 Connection サーバに対応するトランクを見つけ、トランクの名前を選択します。
- ステップ 4 [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ページで、[接続先アドレス IPv6 (Destination Address IPv6)] フィールドの値を新しい IPv6 アドレスに変更します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] を選択し、変更を保存します。
- ステップ 6 [リセット (Reset)] を選択してトランクをリセットします。

### Cisco Unity Connection Administration における Cisco Unified Communications Manager 電話システム連動のための IPv6 アドレスおよびアドレッシングモードの設定

- ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration にログインします。
- ステップ 2 [システム設定 (System Settings)] を展開し、[一般的な設定 (General Configuration)] を選択します。
- ステップ 3 [一般的な設定の編集 (Edit General Configuration)] ページの [アドレッシングモード (Addressing Mode)] で、Connection が着信トラフィックをリスンする方法を制御するオプションをリストから選択します。
  - IPv4
  - IPv6
  - IPv4 と IPv6

**ステップ 4** [保存 (Save)] を選択します。

**ステップ 5** オプションで、Connection サーバが IPv6 アドレスまたはホスト名を使用して Cisco Unified Communications Manager サーバと通信できるようにするには、次のサブステップを実行します。

- a. [テレフォニー統合 (Telephony Integrations)] を展開して、[ポート グループ (Port Group)] を選択します。
- b. [ポートグループの検索 (Search Port Groups)] ページで、変更したいポート グループの表示名を選択します。



**(注)** 検索結果の表に、変更したいポート グループの名前が表示されない場合は、そのページの上部にある検索フィールドに該当するパラメータを入力し、[検索 (Find)] を選択します。

- c. [ポート グループの基本設定 (Port Group Basics)] ページの [編集 (Edit)] メニューで、[サーバ (Servers)] を選択します。
- d. [サーバの編集 (Edit Servers)] ページの [Cisco Unified Communications Manager サーバ (Cisco Unified Communications Manager Servers)] テーブルで、ポート グループが接続する各 Cisco Unified CM サーバの [IP アドレス (IP Address)] または [ホスト名 (Host Name)] に値を入力します。TFTP サーバの表にも同じ作業を繰り返します。



**注意** SCCP セキュア ポートを使用した認証および暗号化を使用している場合は、各 Cisco Unified CM サーバおよび TFTP サーバに IPv4 アドレスまたはホスト名を維持する必要があります。

- e. [保存 (Save)] を選択します。
- f. IPv6 アドレスまたはホスト名を設定したいその他のポート グループに対して、サブステップ a. ~ e. を繰り返します。

**ステップ 6** **ステップ 3** で IPv4 と IPv6 オプションを選択した場合は、次のサブステップを実行し、Cisco Unified CM 連動のコール制御シグナリングおよびメディア アドレッシング モードを設定します。

- a. [テレフォニー統合 (Telephony Integrations)] を展開して、[ポート グループ (Port Group)] を選択します。
- b. [ポートグループの検索 (Search Port Groups)] ページで、変更したいポート グループの表示名を選択します。



**(注)** 検索結果の表に、変更したいポート グループの名前が表示されない場合は、そのページの上部にある検索フィールドに該当するパラメータを入力し、[検索 (Find)] を選択します。

- c. [ポート グループの基本設定 (Port Group Basics)] ページの [編集 (Edit)] メニューで、[サーバ (Servers)] を選択します。
- d. [アドレッシング モード (Addressing Mode)] セクションで、該当する設定に対し IPv4 オプション、または IPv6 オプションを選択します。
  - シグナリングの設定 (SCCP 連動および SIP 連動向け) : この設定は、SCCP を使用して Cisco Unified CM を登録したり、SIP 要求を発信したりする場合の、コール制御シグナリングの設定を決定します。
  - メディアの設定 (SIP 連動のみ) : この設定は、デュアルスタック (IPv4 と IPv6) デバイスと通信する場合のメディア イベントに対し、優先されるアドレッシング モードを設定します。
- e. [保存 (Save)] を選択します。

## IPv6 アドレスの変更 (Cisco Unity Connection 8.5 以降)

Cisco Unity Connection 8.5 以降では、SCCP または SIP を使用して IPv6 を Cisco Unified Communications Manager 電話システム連動と併用するように設定できます。IPv6 アドレッシングは、クラスタ内のサーバ間または Cisco Voicemail Organization 内のロケーション間では使用されないため、サーバがクラスタの一部であるかどうか、または他のサーバにネットワーク接続されているかどうかにかかわらず、次の手順を使用してあらゆる Connection サーバの IP アドレスを変更できます。

IPv6 がすでに有効化および設定されている Connection サーバの IPv6 アドレスを変更するには、次の手順を実行します。



**注意**

Connection サーバの IPv6 アドレスは、業務時間内に変更しないでください。変更内容を有効にするには、サーバを再起動する必要があります。

### Cisco Unity Connection サーバの IPv6 アドレスの変更 (Connection 8.5 以降)

- ステップ 1** Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で、サーバが稼動して利用できることを確認します。
- RTMT を使用してサーバにログインします。
  - 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
  - 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、**ステップ 2** に進みます。  
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 2** Cisco Unified Serviceability にログインしてサーバのステータスを確認します。
- [Tools] メニューから [Cluster Management] を選択します。
  - [Server Status] カラムで現在のサーバの値が [Primary] であることを確認します。[Server Status] カラムが別の値の場合、問題を解決してから作業を続けます。
- ステップ 3** 次の CLI コマンドを実行して、ネットワーク接続と DNS サーバの設定を確認します。
- ```
admin: utils diagnose module validate_network
Log file: /var/log/active/platform/log/diag1.log
```
- ```
Starting diagnostic test(s)
=====
test - validate_network : Passed
```
- Diagnostics Completed**
- ```
admin:
```
- ステップ 4** Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrs_ag.html) を参照してください。
- ステップ 5** DNS サーバでサーバの DNS レコードを新しい IPv6 アドレスに変更します。正引き用 (AAAA) と逆引き用 (PTR) のレコードを両方とも更新します。

ステップ 6 サーバの IPv6 アドレスを変更します。

- a. Cisco Unified Operating System Administration にログインします。
- b. [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット IPv6 (Ethernet IPv6)] を選択します。
- c. [アドレス ソース (Address Source)] で、ルータ アドバタイズメントまたは DHCP が選択されている場合は、[手動入力 (Manual Entry)] を選択してスタティック非リンクローカル IPv6 アドレスを変更し、サブステップ d. に進みます。または、ルータか DHCPv6 サーバの割り当てられた IPv6 プレフィクスまたはアドレスを変更して、サブステップ e. に進みます。



(注) Connection サーバに、スタティック非リンクローカル IPv6 アドレスを手動で設定することを推奨します。

- d. [アドレス ソース (Address Source)] で、[IPv6 アドレス (IPv6 Address)] フィールドの値を変更し、必要に応じて [サブネット マスク] フィールドも変更します。
- e. [リブートを使用した更新 (Update with Reboot)] チェック ボックスにチェック マークを入れます。
- f. [保存 (Save)] を選択すると、システムが再起動します。

ステップ 7 RTMT で、サーバが稼動して利用できることを確認します。

- a. RTMT を使用してサーバにログインします。
- b. 左側のペインにある [Tools] で [Alert Central] を選択します。
- c. 右側のペインにある [System] タブで [ServerDown] が黒の場合、[ステップ 8](#) に進みます。
[ServerDown] が赤の場合、[ServerDown] を右クリックして [Alert Details] を選択します。問題を解決してから作業を続けます。

ステップ 8 Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdr ag.html) を参照してください。

ステップ 9 Connection サーバが、SIP を使用して Cisco Unified Communications Manager と連動している場合：Cisco Unified Communications Manager Administration における SIP トランク上の Cisco Unity Connection サーバの IPv6 アドレスを更新します。

- a. Cisco Unified CM Administration にログインします。
- b. [デバイス (Device)] メニューで、[トランク (Trunk)] を選択します。
- c. Connection サーバに対応するトランクを見つけ、トランクの名前を選択します。
- d. [トランクの設定 (Trunk Configuration)] ページで、[接続先アドレス IPv6 (Destination Address IPv6)] フィールドの値を新しい IPv6 アドレスに変更します。
- e. [保存 (Save)] を選択し、変更を保存します。
- f. [リセット (Reset)] を選択してトランクをリセットします。

■ IPv6 アドレスの変更 (Cisco Unity Connection 8.5 以降)



CHAPTER 13

Cisco Unity Connection 8.x サーバの名前の変更

この章は、次の項で構成されています。

- 「Connection クラスタでない単一の 8.x サーバの名前を変更するためのタスク リスト」 (P.13-1)
- 「Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバの名前を変更するためのタスク リスト」 (P.13-4)
- 「Connection 8.x クラスタ内のサブスクライバ サーバの名前を変更するためのタスク リスト」 (P.13-8)
- 「Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x サイト ゲートウェイの名前の変更」 (P.13-10)

Connection クラスタでない単一の 8.x サーバの名前を変更するためのタスク リスト



注意

Connection が仮想マシンにインストールされている場合、MAC アドレスの算出にホスト名と SMTP ドメインも使用されます。ホスト名または SMTP ドメインを変更すると、新しい MAC アドレスを含む新規の Connection ライセンスを取得する必要があります。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

1. 名前を変更するサーバで SSL 証明書の作成とインストールを行った場合：サーバの名前の変更を始める前に、新しい証明書署名要求を作成して新規の署名付き証明書を取得します。



(注)

サーバの名前の変更前に新規の署名付き証明書を取得しない場合、Web アプリケーションを使用して Connection サーバにアクセスすると、セキュリティ証明書に問題があることを説明するセキュリティの警告が表示されます。

- a. **set web-security** CLI コマンドを実行して、名前を変更するサーバに代替ホスト名を割り当てます。詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

- b. 証明書署名要求を作成します。次に、Microsoft Certificate Services または証明書を発行する他のアプリケーションがインストールされたサーバに証明書署名要求をダウンロードします。あるいは、証明書署名要求を外部の Certification Authority (CA; 認証局) に送信するのに使用できるサーバに要求をダウンロードします。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x」の章にある「Securing Cisco PCA and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection」のサブセクション「Creating and Installing an SSL Server Certificate」の「To Create and Download a Certificate Signing Request」の手順を行います。
- c. Microsoft Certificate Services を使用してルート証明書のエクスポートとサーバ証明書の発行を行う場合、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x」の章にある「Securing Cisco PCA and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection」のサブセクション「Creating and Installing an SSL Server Certificate」の「To Export the Root Certificate and Issue the Server Certificate (Only When You Are Using Microsoft Certificate Services to Issue the Certificate)」の手順を行います。
証明書の発行に別のアプリケーションを使用する場合は、証明書の発行についてアプリケーションの資料を参照してください。
証明書の発行に外部の CA を使用する場合は、外部の CA に証明書署名要求を送信します。外部の CA から証明書が戻された場合、ステップ 2. に進みます。
2. 名前を変更するサーバが Connection ネットワーキングサイトのメンバー サーバの場合 (サーバはサイト ゲートウェイではない) : サイトからサーバを削除します。『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x」の章の「Removing a Location From a Cisco Unity Connection 8.x Site」を参照してください。
3. サーバのホスト名を変更します。「Connection クラスタでない単一の 8.x サーバのホスト名の変更」(P.13-3) を参照してください。
4. 名前を変更するサーバで SSL 証明書の作成とインストールを行った場合 : Connection サーバにルート証明書とサーバ証明書をアップロードします。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x」の章にある「Securing Cisco PCA and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection」のサブセクション「Creating and Installing an SSL Server Certificate」の「To Upload the Root and Server Certificates to the Cisco Unity Connection Server」の手順を行います。
5. 名前を変更するサーバで SSL 証明書の作成とインストールを行った場合 : Connection および IMAP E メール クライアントで新しい SSL 証明書を使用するために、Connection IMAP サーバサービスを再起動します。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x」の章にある「Securing Cisco PCA and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection」のサブセクション「Creating and Installing an SSL Server Certificate」の「To Restart the Connection IMAP Server Service」の手順を行います。

6. サーバが、名前を変更する前に *Connection* ネットワーキング サイトのメンバー サーバだった場合：サーバを再度サイトに追加します。『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「*Setting Up Networking Between Cisco Unity Connection 8.x Servers*」の章の「*Setting up a Cisco Unity Connection Site*」を参照してください。



(注) 残りのタスク リストに進む前に、サイト内のロケーション間のレプリケーションが完了していることを確認してください。

7. *Connection* が仮想マシンにインストールされている場合：新しいホスト名に基づく新規ライセンスを取得してインストールします。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「*Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x*」の章を参照してください。
8. Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsag.html) を参照してください。

Connection クラスタでない単一の 8.x サーバのホスト名の変更

Connection クラスタでない単一の 8.x サーバのホスト名を変更するには

- ステップ 1** DNS サーバで *Connection* サーバの DNS レコードを新しいホスト名に変更します。
- ステップ 2** DNS の変更がサーバに伝送されることを確認します。SSH アプリケーションを使用してサーバにログインし、`utils network host <hostname>` CLI コマンドを実行します。
新しいホスト名が正しい IP アドレスに解決されない場合は、次の手順に進まないでください。
- ステップ 3** 任意： *Connection* サーバの Cisco Unity Connection Administration で SMTP ドメインを変更します。
 - a. [システム設定 (System Settings)] > [SMTP の設定 (SMTP Configuration)] の順に展開して [サーバ (Server)] を選択します。
 - b. [SMTP ドメインの変更 (Change SMTP Domain)] を選択して [SMTP ドメイン (SMTP Domain)] フィールドの値を変更します。
 - c. [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 4** *Connection Administration* でサーバのホスト名を変更します。
 - a. [システム設定 (System Settings)] を展開して [クラスタ (Cluster)] を選択します。
 - b. [検索 (Find)] を選択してサーバの一覧を表示します。
 - c. 名前を変更するサーバのホスト名を選択します。
 - d. [サーバの設定 (Server Configuration)] ページで [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドの値を新しい名前に変更します。
 - e. [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 5** 任意： *Connection Administration* で、サーバのネットワーク上での表示名を変更します。
 - a. [ネットワーク (Networking)] を展開して [ロケーション (Locations)] を選択します。
 - b. 名前を変更するサーバの表示名を選択します。

- c. [ロケーションの編集 (Edit Location)] ページで [表示名 (Display Name)] フィールドの値を新しい名前に変更します (このフィールドは表示用のものなので、サーバのホスト名と一致している必要はありません)。
- d. [保存 (Save)] を選択します。

ステップ 6 Cisco Unified Operating System Administration でサーバのホスト名を変更します。

- a. [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
- b. Connection サーバのホスト名を変更します。
- c. [保存 (Save)] を選択します。サーバが自動的に再起動します。

ステップ 7 SSH アプリケーションを使用してサーバにログインし、**utils system restart** CLI コマンドを実行してサーバを再起動します。

Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバの名前を変更するためのタスク リスト



注意

Connection が仮想マシンにインストールされている場合、MAC アドレスの算出にホスト名と SMTP ドメインも使用されます。ホスト名または SMTP ドメインを変更すると、新しい MAC アドレスを含む新規の Connection ライセンスを取得する必要があります。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

次の手順では、**set web-security** CLI コマンドを使用して、サーバの代替ホスト名として新しいサーバ名を指定します。これによって、証明書署名要求 (現在の名前と新しい代替名の両方が含まれる) を認証局に送信して証明書が戻されるのを待つ間、サーバで元の名前を引き続き使用できます。SSL を使用し、**set web-security** CLI コマンドを使用してクラスタ内の 2 つのサーバに共有代替名を指定する場合は、タスク 1.a. を省略し、タスク 3. でサーバの名前を変更した後にタスク 1.a. の残りを行うことができます (2 つのサーバに共有代替名が指定されている場合、一方のサーバが利用できないときに自動的にもう一方のサーバにクライアントの要求を再ルーティングするよう、DNS を設定することができます)。ただし、新しい証明書をインストールするまでは、サーバ名が古い SSL 証明書に含まれる名前と一致しないので、証明書の警告がクライアントに表示されます。

1. **名前を変更するサーバで SSL 証明書の作成とインストールを行った場合**: サーバの名前の変更を始める前に、新しい証明書署名要求を作成して新規の署名付き証明書を取得します。



(注) サーバの名前の変更前に新規の書名付き証明書を取得しない場合、Web アプリケーションを使用して Connection サーバにアクセスすると、セキュリティ証明書に問題があることを説明するセキュリティの警告が表示されます。

- a. **set web-security** CLI コマンドを実行し、**alternatename** パラメータにサーバの新しい名前を指定します。詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

- b. 証明書署名要求を作成します。次に、Microsoft Certificate Services または証明書を発行する他のアプリケーションがインストールされたサーバに証明書署名要求をダウンロードします。あるいは、証明書署名要求を外部の Certification Authority (CA; 認証局) に送信するのに使用できるサーバに要求をダウンロードします。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x」の章にある「Securing Cisco PCA and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection」のサブセクション「Creating and Installing an SSL Server Certificate」の「To Create and Download a Certificate Signing Request」の手順を行います。
 - c. Microsoft Certificate Services を使用してルート証明書のエクスポートとサーバ証明書の発行を行う場合、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x」の章にある「Securing Cisco PCA and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection」のサブセクション「Creating and Installing an SSL Server Certificate」の「To Export the Root Certificate and Issue the Server Certificate (Only When You Are Using Microsoft Certificate Services to Issue the Certificate)」の手順を行います。

証明書の発行に別のアプリケーションを使用する場合は、証明書の発行についてアプリケーションの資料を参照してください。

証明書の発行に外部の CA を使用する場合は、外部の CA に証明書署名要求を送信します。外部の CA から証明書が戻された場合、ステップ 2. に進みます。
2. 名前を変更するサーバが *Connection* ネットワーキング サイトのメンバー サーバの場合 (サーバはサイト ゲートウェイではない) : サイトからサーバを削除します。『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x」の章の「Removing a Location From a Cisco Unity Connection 8.x Site」を参照してください。

**注意**

サーバをサイトに再度追加する作業には時間がかかる場合があります。この手順を始める前に、サーバをサイトに再度追加するのに必要な作業を十分に理解しておいてください。

3. サーバのホスト名を変更します。「[Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバのホスト名の変更](#)」(P.13-6) を参照してください。
4. 名前を変更するサーバで *SSL 証明書の作成とインストール* を行った場合 : *Connection* サーバにルート証明書とサーバ証明書をアップロードします。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x」の章にある「Securing Cisco PCA and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection」のサブセクション「Creating and Installing an SSL Server Certificate」の「To Upload the Root and Server Certificates to the Cisco Unity Connection Server」の手順を行います。
5. 名前を変更するサーバで *SSL 証明書の作成とインストール* を行った場合 : *Connection* および IMAP E メールクライアントで新しい SSL 証明書を使用するために、*Connection* IMAP サーバサービスを再起動します。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x」の章にある「Securing Cisco PCA and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection」のサブセクション「Creating and Installing an SSL Server Certificate」の「To Restart the Connection IMAP Server Service」の手順を行います。

6. サーバが、名前を変更する前に *Connection* ネットワーキング サイトのメンバー サーバだった場合：サーバを再度サイトに追加します。『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「[Setting Up Networking Between Cisco Unity Connection 8.x Servers](#)」の章の「[Setting up a Cisco Unity Connection Site](#)」を参照してください。
7. *Connection* が仮想マシンにインストールされている場合：新しいホスト名に基づく新規ライセンスを取得してインストールします。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。
8. Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsag.html) を参照してください。

Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバのホスト名の変更

Connection 8.x クラスタ内のパブリッシャ サーバのホスト名を変更するには

- ステップ 1** DNS サーバでパブリッシャ サーバの DNS レコードを新しいホスト名に変更します。
- ステップ 2** DNS の変更がパブリッシャ サーバに伝送されることを確認します。SSH アプリケーションを使用してパブリッシャ サーバにログインし、`utils network host <hostname>` CLI コマンドを実行します。
新しいホスト名が正しい IP アドレスに解決されない場合は、次の手順に進まないでください。
- ステップ 3** サブスクライバ サーバで**ステップ 2**を繰り返します。
- ステップ 4** 任意：パブリッシャ サーバの Cisco Unity Connection Administration で SMTP ドメインを変更します（この変更は自動的にサブスクライバ サーバにレプリケートされます）。
 - a. [システム設定 (System Settings)] > [SMTP の設定 (SMTP Configuration)] の順に展開して [サーバ (Server)] を選択します。
 - b. [SMTP ドメインの変更 (Change SMTP Domain)] を選択して [SMTP ドメイン (SMTP Domain)] フィールドの値を変更します。
 - c. [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 5** パブリッシャ サーバの Connection Administration でパブリッシャ サーバのホスト名を変更します。
 - a. [システム設定 (System Settings)] を展開して [クラスタ (Cluster)] を選択します。
 - b. [検索 (Find)] を選択してサーバの一覧を表示します。
 - c. 名前を変更するサーバのホスト名を選択します。
 - d. [サーバの設定 (Server Configuration)] ページで [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドの値を新しい名前に変更します。
 - e. [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 6** 任意：パブリッシャ サーバの Connection Administration で、サーバのネットワーク上での表示名を変更します。
 - a. [ネットワーク (Networking)] を展開して [ロケーション (Locations)] を選択します。
 - b. 名前を変更するサーバの表示名を選択します。

- c. [ロケーションの編集 (Edit Location)] ページで [表示名 (Display Name)] フィールドの値を新しい名前に変更します (このフィールドは表示用のものなので、サーバのホスト名と一致している必要はありません)。
- d. [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 7** サブスクリバ サーバで、サブスクリバ サーバがパブリッシャ サーバの認識に使用する名前を変更します。
- a. Cisco Unified Operating System Administration で、[設定 (Settings)] メニューから [IP] > [パブリッシャ (Publisher)] を選択します。
- b. パブリッシャ サーバのホスト名を変更します。
- c. [保存 (Save)] を選択します。
- SSH アプリケーションを使用してサブスクリバ サーバにログインし、**utils system restart CLI** コマンドを実行してサーバを再起動します。
- ステップ 8** パブリッシャ サーバの Cisco Unified Operating System Administration でパブリッシャ サーバの名前を変更します。
- a. [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
- b. パブリッシャ サーバのホスト名を変更します。
- c. [保存 (Save)] を選択します。パブリッシャ サーバが自動的に再起動します。
- d. パブリッシャ サーバの再起動が完了するまで待ちます。パブリッシャ サーバで **Connection Administration** にログインできるようになったら、**ステップ 9** に進みます。
- ステップ 9** SSH アプリケーションを使用してサブスクリバ サーバにログインし、**utils system restart CLI** コマンドを実行してサーバを再起動します。
- ステップ 10** サブスクリバ サーバの再起動が完了するまで待ちます。サブスクリバ サーバで **Connection Administration** にログインできるようになったら、**ステップ 11** に進みます。
- ステップ 11** パブリッシャ サーバで **utils dbreplication reset all** CLI コマンドを実行してレプリケーションをリセットします。
- ステップ 12** レプリケーションのリセット処理が完了するまで待ちます。処理が完了したことを判断する手順は、次のとおりです。
- a. パブリッシャ サーバに接続して Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にログインします。
- b. [System] メニューで [Performance] > [Open Performance Monitoring] を選択します。
- c. 右側のペインで [Number of Replicates Created and State of Replication] を展開し、[Replicate_State] をダブルクリックします。
- d. [Object Instances] ダイアログボックスで [ReplicateCount] を選択し、[Add] を選択します。
- e. 値が [2.0] になるまで待ちます。
表示される可能性のある値とその意味の詳細を確認するには、[Replicate_State] を右クリックして [Counter Description] を選択します。
- f. [File] メニューで [Exit] を選択して RTMT を終了します。
- ステップ 13** SSH アプリケーションを使用してパブリッシャ サーバにログインし、**utils system restart CLI** コマンドを実行してサーバを再起動します。
- このコマンドを実行すると **Connection** クラスタ サーバのサーバ ステータスが変更され、パブリッシャ サーバのステータスが [Secondary] に、サブスクリバ サーバのステータスが [Primary] になります。
- ステップ 14** **utils cuc cluster makeprimary <name_of_publisher_server>** CLI コマンドを実行してパブリッシャ サーバのステータスを [Primary] に変更します。

Connection 8.x クラスタ内のサブスクライバサーバの名前を変更するためのタスク リスト



注意

Connection が仮想マシンにインストールされている場合、MAC アドレスの算出にホスト名と SMTP ドメインも使用されます。ホスト名または SMTP ドメインを変更すると、新しい MAC アドレスを含む新規の Connection ライセンスを取得する必要があります。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。

次の手順では、**set web-security** CLI コマンドを使用して、サーバの代替ホスト名として新しいサーバ名を指定します。これによって、証明書署名要求（現在の名前と新しい代替名の両方が含まれる）を認証局に送信して証明書が戻されるのを待つ間、サーバで元の名前を引き続き使用できます。SSL を使用し、**set web-security** CLI コマンドを使用してクラスタ内の 2 つのサーバに共有代替名を指定する場合は、タスク 1.a. を省略し、タスク 2. でサーバの名前を変更した後にタスク 1.a. の残りを行うことができます（2 つのサーバに共有代替名が指定されている場合、一方のサーバが利用できないときに自動的にもう一方のサーバにクライアントの要求を再ルーティングするよう、DNS を設定することができます）。ただし、新しい証明書をインストールするまでは、サーバ名が古い SSL 証明書に含まれる名前と一致しないので、証明書の警告がクライアントに表示されます。

- 名前を変更するサーバで SSL 証明書の作成とインストールを行った場合：サーバの名前の変更を始める前に、新しい証明書署名要求を作成して新規の署名付き証明書を取得します。



(注)

サーバの名前の変更前に新規の署名付き証明書を取得しない場合、Web アプリケーションを使用して Connection サーバにアクセスすると、セキュリティ証明書に問題があることを説明するセキュリティの警告が表示されます。

- set web-security** CLI コマンドを実行し、**alternatename** パラメータにサーバの新しい名前を指定します。詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。
- 証明書署名要求を作成します。次に、Microsoft Certificate Services または証明書を発行する他のアプリケーションがインストールされたサーバに証明書署名要求をダウンロードします。あるいは、証明書署名要求を外部の Certification Authority (CA; 認証局) に送信するのに使用できるサーバに要求をダウンロードします。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章にある「[Securing Cisco PCA and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection](#)」のサブセクション「[Creating and Installing an SSL Server Certificate](#)」の「[To Create and Download a Certificate Signing Request](#)」の手順を行います。
- Microsoft Certificate Services を使用してルート証明書のエクスポートとサーバ証明書の発行を行う場合、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章にある「[Securing Cisco PCA and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection](#)」のサブセクション

「Creating and Installing an SSL Server Certificate」の「To Export the Root Certificate and Issue the Server Certificate (Only When You Are Using Microsoft Certificate Services to Issue the Certificate)」の手順を行います。

証明書の発行に別のアプリケーションを使用する場合は、証明書の発行についてアプリケーションの資料を参照してください。

証明書の発行に外部の CA を使用する場合は、外部の CA に証明書署名要求を送信します。

2. サーバのホスト名を変更します。「[Connection 8.x クラスタ内のサブスクリバサーバのホスト名の変更](#)」(P.13-9) を参照してください。
3. 名前を変更するサーバで SSL 証明書の作成とインストールを行った場合: Connection サーバにルート証明書とサーバ証明書をアップロードします。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章にある「Securing Cisco PCA and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection」のサブセクション「Creating and Installing an SSL Server Certificate」の「To Upload the Root and Server Certificates to the Cisco Unity Connection Server」の手順を行います。
4. 名前を変更するサーバで SSL 証明書の作成とインストールを行った場合: Connection および IMAP E メールクライアントで新しい SSL 証明書を使用するために、Connection IMAP サーバサービスを再起動します。『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Configuring SSL in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章にある「Securing Cisco PCA and IMAP Email Client Access to Cisco Unity Connection」のサブセクション「Creating and Installing an SSL Server Certificate」の「To Restart the Connection IMAP Server Service」の手順を行います。
5. Connection が仮想マシンにインストールされている場合: 新しいホスト名に基づく新規ライセンスを取得してインストールします。詳細については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「[Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x](#)」の章を参照してください。
6. Disaster Recovery System を使用してサーバのバックアップを行います。『*Disaster Recovery System Administration Guide for Cisco Unity Connection Release 8.x*』(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/drs_administration/guide/8xcucdrsag.html) を参照してください。

Connection 8.x クラスタ内のサブスクリバサーバのホスト名の変更

Connection 8.x クラスタ内のサブスクリバサーバのホスト名を変更するには

- ステップ 1 DNS サーバでサブスクリバサーバの DNS レコードを新しいホスト名に変更します。
- ステップ 2 DNS の変更がパブリッシャサーバに伝送されることを確認します。SSH アプリケーションを使用してパブリッシャサーバにログインし、`utils network host <hostname>` CLI コマンドを実行します。
新しいホスト名が正しい IP アドレスに解決されない場合は、次の手順に進まないでください。
- ステップ 3 サブスクリバサーバでステップ 2 を繰り返します。

- ステップ 4** パブリッシャ サーバで、パブリッシャ サーバがサブスライバ サーバの認識に使用する名前を変更します。
- Cisco Unity Connection Administration で [システム設定 (System Settings)] を展開して [クラスター (Cluster)] を選択します。
 - [検索 (Find)] を選択してサーバの一覧を表示します。
 - サブスライバ サーバのホスト名を選択します。
 - [サーバの設定 (Server Configuration)] ページで [ホスト名/IP アドレス (Hostname/IP Address)] フィールドの値を新しい名前に変更します。
- ステップ 5** サブスライバ サーバの Cisco Unified Operating System Administration でサブスライバ サーバの名前を変更します。
- [設定 (Settings)] メニューから [IP] > [イーサネット (Ethernet)] を選択します。
 - パブリッシャ サーバのホスト名を変更します。
 - [保存 (Save)] を選択します。サブスライバ サーバが自動的に再起動します。
- ステップ 6** SSH アプリケーションを使用してパブリッシャ サーバにログインし、**utils system restart CLI** コマンドを実行してサーバを再起動します。
- ステップ 7** パブリッシャ サーバで **utils dbreplication reset all** CLI コマンドを実行してレプリケーションをリセットします。
- ステップ 8** SSH アプリケーションを使用してパブリッシャ サーバにログインし、**utils system restart CLI** コマンドを実行して再度サーバを再起動します。
-

Cisco Voicemail Organization 内の Connection 8.x サイト ゲートウェイの名前の変更

Connection ネットワーキングが設定されている場合の Connection サイト ゲートウェイの置き換えについては、『*Networking Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/networking/guide/8xcucnetx.html) の「*Making Changes to the Networking Configuration in Cisco Unity Connection 8.x*」の章の「*Making Changes to a Connection Site Gateway*」を参照してください。



CHAPTER 14

Cisco Unity Connection 8.x サーバの DNS 設定またはドメイン名の変更

この章は、次の項で構成されています。

- 「Cisco Unity Connection 8.x DNS 設定の変更に使用する CLI コマンド」 (P.14-1)
- 「Cisco Unity Connection 8.x サーバのドメイン名の変更」 (P.14-2)

Cisco Unity Connection 8.x DNS 設定の変更に使用する CLI コマンド

Connection の DNS 設定の変更に CLI コマンドを使用します。表 14-1 に、利用できるオプションと対応する CLI コマンドの一覧を示します。

CLI コマンドの詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』 (http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。



注意

Connection が仮想マシンにインストールされている場合、プライマリ DNS サーバを変更するとライセンス MAC の計算値が変更され、Connection ライセンスが無効になります。代替の Connection ライセンスの取得については、『*System Administration Guide for Cisco Unity Connection*』 (http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/administration/guide/8xcucsagx.html) の「*Managing Licenses in Cisco Unity Connection 8.x*」の章を参照してください。

表 14-1 Connection 8.x の DNS 設定の変更に使用する CLI コマンド

DNS 設定	CLI コマンド
DNS サーバの IP アドレスの削除	<code>delete dns</code>
プライマリまたはセカンダリ DNS サーバの IP アドレスの指定または削除	<code>set network dns</code>
DNS 要求のタイムアウト期間 (秒) の設定	<code>set network dns options</code>
DNS 要求を試みる回数 (試行はこの回数後停止) の設定	<code>set network dns options</code>
設定された複数の DNS サーバ間の切り替えによる負荷の分散	<code>set network dns options</code>

Cisco Unity Connection 8.x サーバのドメイン名の変更

Connection サーバのドメイン名の変更方法は、DHCP が設定されているかどうかにより異なります。次の該当する手順を実行してください。

CLI コマンドの詳細については、該当する『*Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions*』(http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html) を参照してください。

DHCP が設定されている場合の Connection サーバのドメイン名変更

- ステップ 1 該当する DHCP および DNS サーバで、Connection サーバのドメイン名を変更します。
 - ステップ 2 `utils system restart` CLI コマンドを使用して、Connection サーバを再起動します。
 - ステップ 3 `utils system restart` CLI コマンドを使用して、再度 Connection サーバを再起動します。
-

DHCP が設定されていない場合の Connection サーバのドメイン名変更

Connection サーバで、`set network domain` CLI コマンドを実行します。



INDEX

C

Cisco Voicemail Organization、ゲートウェイ サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す [3-6](#)

Cisco Voicemail Organization、メンバー サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す [3-5](#)

CLI コマンド、DNS 設定の変更に使用 [14-1](#)

COBRAS

フラッシュ カットオーバーを使用した Cisco Unity 4.0(5)以降から Connection 8.x へのデータ移行 [5-2](#)

D

DNS 設定、CLI コマンドを使用した変更 [14-1](#)

I

IP アドレス

IP アドレスで定義されたサブスクリバの変更 [11-17](#)

IP アドレスで定義された単一のサーバの変更（非クラスタ） [11-5](#)

IP アドレスで定義されたパブリッシャの変更 [11-11](#)

関連コンポートでの変更 [11-2](#)

サーバが定義されているかの判別 [11-1](#)

ホスト名で定義されたサブスクリバの変更 [11-14](#)

ホスト名で定義された単一のサーバの変更（非クラスタ） [11-3](#)

ホスト名で定義されたパブリッシャの変更 [11-8](#)

M

Migration Export ツール

フラッシュ カットオーバーを使用した Cisco Unity 4.x 以降から Connection 8.x へのデータ移行 [5-2](#)

S

SMTP ドメイン

クラスタでない単一のサーバの変更 [13-1](#)

クラスタの変更 [13-4](#)

あ

アップグレード

Connection 2.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへ（タスク リスト） [2-2](#)

Connection 7.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへ（タスク リスト） [1-2, 1-7](#)

Connection 7.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへ、非クラスタ（タスク リスト） [1-2](#)

Connection クラスタ内での Connection 7.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへ（タスク リスト） [1-7](#)

プロセスについて [1-1, 2-1](#)

い

移行

Connection 1.x から 8.x へ（タスク リスト） [4-1](#)

Connection 物理サーバから Connection 8.x 仮想マシンへの移行（タスク リスト） [7-1](#)

段階的なデータの移動による Cisco Unity から Connection 8.x へ（タスク リスト） [6-4](#)

フラッシュ カットオーバーを使用した Cisco Unity 4.0(5) 以降から Connection 8.x へ（タスク リスト） [5-4](#)

移行ツール

フラッシュ カットオーバーを使用した Cisco Unity 4.0(5) 以降から Connection 8.x へ、概要 [5-2](#)

え

影響、非アクティブなパーティションのバージョンへの復帰による **3-1**

く

クラスタ

- SMTP ドメインの変更 **13-4**
- サーバの追加による作成 **10-1**
- サーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す **3-4**
- サブスクリバ サーバまたはハードディスクの交換 **9-6**
- パブリッシャ サーバまたはハードディスクの交換 **9-2**
- パブリッシャまたはサブスクリバ サーバ、またはハードディスクの交換 **9-9**

け

ゲートウェイ サーバ、非アクティブなパーティションのバージョンに戻す **3-6**

言語

- Connection クラスタへの追加(タスク リスト) **8-2**
- Connection サーバへの追加 (非クラスタ) (タスク リスト) **8-1**
- 設定の変更 **8-7**
- ファイルの削除 **8-7**

こ

交換

- Connection クラスタでない単一のサーバまたはハードディスク **9-1**
- サブスクリバ サーバまたはハードディスク **9-6**
- パブリッシャ サーバまたはハードディスク **9-2**
- パブリッシャまたはサブスクリバ サーバ、またはハードディスク **9-9**

さ

サーバ

- Connection クラスタでない単一の、交換 **9-1**
- IP アドレスで定義されたサブスクリバの IP アドレスの変更 **11-17**
- IP アドレスで定義された単一のサーバの IP アドレスの変更 (非クラスタ) **11-5**
- IP アドレスで定義されたパブリッシャの IP アドレスの変更 **11-11**
- IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント **11-2**
- クラスタでない単一のサーバへのパブリッシャの交換 **10-3**
- クラスタでない単一の、名前の変更 (タスク リスト) **13-1**
- クラスタで非アクティブなパーティションのバージョンに戻す **3-3**
- サーバがホスト名または IP アドレスのどちらかで定義されているかの判別 **11-1**
- サブスクリバの名前の変更 (タスク リスト) **13-8**
- サブスクリバまたはハードディスクの交換 **9-6**
- 追加によるクラスタの作成 **10-1**
- パブリッシャの名前の変更 (タスク リスト) **13-4**
- パブリッシャまたはサブスクリバ、またはハードディスクの交換 **9-9**
- パブリッシャまたはハードディスクの交換 **9-2**
- ホスト名で定義されたサブスクリバの IP アドレスの変更 **11-14**
- ホスト名で定義された単一の、IP アドレスの変更 (非クラスタ) **11-3**
- ホスト名で定義されたパブリッシャの IP アドレスの変更 **11-8**
- サーバの IP アドレスを変更する必要がある関連コンポーネント **11-2**
- サーバの追加によるクラスタの作成 **10-1**
- 削除、言語ファイルの **8-7**
- サブスクリバ サーバ
 - 交換 **9-6**
 - 名前の変更 (タスク リスト) **13-8**
 - パブリッシャ サーバと共に、またはハードディスクの交換 **9-9**

そ

ソフトウェア、非アクティブなパーティションのバージョンへの復帰について [3-1](#)

た

タスク リスト

- Connection 1.x から 8.x への移行 [4-1](#)
- Connection 2.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード [2-2](#)
- Connection 7.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード [1-2, 1-7](#)
- Connection 7.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード (非クラスタ) [1-2](#)
- Connection クラスタでない単一のサーバまたはハードディスクの交換 [9-1](#)
- Connection クラスタ内での Connection 7.x ソフトウェアから出荷されている 8.x バージョンへのアップグレード [1-7](#)
- Connection クラスタへの言語の追加 [8-2](#)
- Connection サーバへの言語の追加 (非クラスタ) [8-1](#)
- Connection 物理サーバから Connection 8.x 仮想マシンへの移行 [7-1](#)
- クラスタでない単一のサーバの名前の変更 [13-1](#)
- クラスタ内のサーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す [3-4](#)
- サブスクリバサーバの名前の変更 [13-8](#)
- 段階的なデータの移動による Cisco Unity から Connection 8.x への移行 [6-4](#)
- パブリッシャサーバの名前の変更 [13-4](#)
- フラッシュ カットオーバーを使用した Cisco Unity 4.0(5) 以降から Connection 8.x への移行 [5-4](#)

な

名前の変更

- クラスタでない単一のサーバ (タスク リスト) [13-1](#)
- サブスクリバサーバ (タスク リスト) [13-8](#)
- パブリッシャサーバ (タスク リスト) [13-4](#)

は

ハードディスク

Connection クラスタでない単一のサーバ内、交換 [9-1](#)

サブスクリバサーバ内、交換 [9-6](#)

パブリッシャサーバ内、交換 [9-2](#)

パブリッシャまたはサブスクリバサーバ内、交換 [9-9](#)

パブリッシャサーバ

クラスタでない単一のサーバへの変換 [10-3](#)

交換 [9-2](#)

サブスクリバサーバと共に、またはハードディスクの交換 [9-9](#)

名前の変更 (タスク リスト) [13-4](#)

非アクティブなパーティションのバージョンに戻す [3-3](#)

ひ

表記法、マニュアル [ix](#)

ふ

復帰

Cisco Voicemail Organization 内のゲートウェイサーバを非アクティブなパーティションのバージョンへ [3-6](#)

Cisco Voicemail Organization 内のメンバーサーバを非アクティブなパーティションのバージョンへ [3-5](#)

Connection ソフトウェアから非アクティブなパーティションのバージョンへ、概要 [3-1](#)

影響 [3-1](#)

クラスタ内のサーバを非アクティブなパーティションのバージョンへ [3-4](#)

サーバ、またはクラスタ内のパブリッシャサーバを非アクティブなパーティションのバージョンに戻す [3-3](#)

へ

変換、パブリッシャをクラスタでない単一のサーバ

へ [10-3](#)

変更

CLI コマンドを使用した DNS 設定 [14-1](#)

IP アドレスで定義されたサブスライバの IP アドレス [11-17](#)

IP アドレスで定義された単一のサーバの IP アドレス (非クラスタ) [11-5](#)

IP アドレスで定義されたパブリッシャの IP アドレス [11-11](#)

言語の設定 [8-7](#)

ホスト名で定義されたサブスライバの IP アドレス [11-14](#)

ホスト名で定義された単一のサーバの IP アドレス (非クラスタ) [11-3](#)

ホスト名で定義されたパブリッシャの IP アドレス [11-8](#)

ほ

ホスト名、サーバが定義されているかの判別 [11-1](#)

ま

マニュアルの表記法 [ix](#)

め

メンバー サーバ、非アクティブなパーティションのパーティションに戻す [3-5](#)